

講 義 概 要

シラバス

共通科目	P. 141
専門科目(英語キャリア学科)	P. 171
専門科目(観光ホスピタリティ学科)	P. 213
専門科目(心理こども学科)	P. 243
教職に関する科目(英語キャリア学科)	P. 291

現代人間学部
共通科目

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	EC/PC	11101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹田 文彦	必修	2			

授業の到達目標

本学の建学の精神でもあり、また世界に20億人以上の信者を有し、西洋文明の源泉として人類の歴史と文化に多大な影響を与えてきたキリスト教について学び、理解することを目的とする。

授業の概要

本講座は、キリスト教とはいったいいかなる宗教であるかを、その成立の過程を歴史的、文献的に検討することを通して明らかに使用とするものである。キリスト教の中心的使信であるイエス・キリストの福音への信仰は、いかにして生まれ、形成されていったかを聖書ならびにキリスト教成立に関わる古代諸文書を読み解きながら探してみたい。最初に宗教としてのキリスト教の特質について言及したあと、キリスト教誕生の過程を聖書の叙述をもとに考察する。キリスト教誕生の母胎となった古代イスラエルの信仰、ナザレのイエスの生涯と教え、エルサレム原始教団の成立と信仰、使徒パウロの宣教などを論じる。

授業計画

1. キリスト教を学ぶ意味
2. イエス・キリストの信仰
3. キリスト教の聖典としての聖書
4. 古代イスラエルの信仰 ① - 信仰の父アブラハム
5. 古代イスラエルの信仰 ② - モーセと出エジプト
6. 古代イスラエルの信仰 ③ - 約束の地カナン定着
7. 古代イスラエルの信仰 ④ - 統一王国時代、サウル・ダビデ・ソロモン
8. 古代イスラエルの信仰 ⑤ - 分裂王国と預言者の活躍
9. 古代イスラエルの信仰 ⑥ - バビロン捕囚
10. 古代イスラエルの信仰 ⑦ - ユダヤ教の成立とメシア待望
11. ナザレのイエス ① - 史的イエスと信仰のキリスト
12. ナザレのイエス ② - 生涯と教え
13. ナザレのイエス ③ - イエスの裁判
14. ナザレのイエス ④ - 十字架上の死と復活
15. 世界宗教への道 - エルサレム原始教団と異邦人の使徒パウロ

準備学習

講座全体を通して受講生には、キリスト教の聖典であり、人類の古典である聖書を読み、その内容に親しんでもらいたい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

学期末テストの出席の状況を総合して評価する。最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』（新共同訳（旧約統編つき）） 日本聖書協会（新規に購入するならN143DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

荒井章三『ユダヤ教の誕生 — 「一神教」成立の謎』講談社選書メチエ。
加藤隆『一神教の誕生 — ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書。
A. ノーラン『キリスト以前のイエス』新世社。
C. Rowland, Christian Origins. SPCK.

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、真にキリスト教を理解するためにはただ単にキリスト教に関する知識を頭に入れるだけではなく、学生一人一人が人間の「信じる」という在り方、生き方に主体的な関心を抱き、人間の苦悩とキリスト教の説く神の救いの意味について深く考えることが必要である。当然のことだが授業中の私語厳禁。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	EC/PC	11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石丸 脩子	必修	2			

授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。

授業の概要

神と人間との歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

授業計画

1. 聖書を読むということ
2. 人のいのちを気づかう心—古い契約と新しい契約
3. わたしは神であり、人間ではない—神の思い
4. 「戒め」を悟る、今日一掬の意味
5. わたしは下って救い出す—土地の意味
6. わたしはあなたに何をしよう—ヘセッドの意味
7. わたしの罪はわたしの目の前にある—罪のゆるし
8. 怠け者よ、いつまで横になっているのか—希望
9. わたしの骨からの骨—女の創造
10. エデンの園におき、耕させた—労働の意味

11. 世の人のみな行く道—死の意味
12. わたしの心はわたしの内へ変わった—レーブの意味
13. 主はわれらと共に—インマヌエル
14. 腕を伸ばし、あなたをあがなう—あがなう者
15. 3日目に死者の中から復活する—復活

準備学習

『聖書』（新共同訳）の最初、創世記1章～11章までを読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

テキスト

『聖書』旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行

参考図書

授業時に指示する

留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート（大きさは自由）を毎時間持参すること。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	I	集中	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

本学と深い関係のあるアジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アシジを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力をもつ。

授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアシジを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、観賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回 ―イエスの生涯を中心に―
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回 ―フランシスコの生涯と思想―
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目: 関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目: ミラノにて大聖堂、聖アンブロジオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目: フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目: アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目: マリアでデリアンジェリ教会へ

9. 研修の日程5日目: アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目: サンダミアーノ修道院へ
11. 研修の日程6日目: ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目: パチカン美術館、特にシスティーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目: サンピエトロ大聖堂
14. 研修の日程8日目: 日本に向けて出発
15. 研修の日程9日目: 関西空港着

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

川下勝『アシジのフランシスコ』清水書院、2004

参考図書

J.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳『アシジの聖フランシスコ』ドン・ボスコ社、1988
 チェラノのトマサ著、石井健吾訳『聖フランシスコ第一伝記』あかし書房、1989

留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。たま、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また、視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	EC・TH/PC		11113	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹田 文彦	必修	2				

授業の到達目標

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の教説、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が主体的に考える力を養うことを目標とする。

授業の概要

現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既成の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また自分はどうのように生きてらよいかを見つづけるのが大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教も改めてその対応と存在意義が問い直されている。キリスト教は、現代社会が直面する様々な問題にどのように取り込み、答えようとしているのか?本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

授業計画

1. 序 ―現代を生きるキリスト教
2. I. 人間 ―真に人間らしく
 - ①「男と女」―新しい関係を求めて
 - ②「家庭」―危機と再生
 - ③「生と死」―生命倫理をめぐる
5. リフレクション①
6. II. 社会 ―価値多様化と多文化共生を目指して
 - ④「戦争と平和」―平和の作り方
 - ⑤「民族主義と差別」
 - ⑥「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション②
10. III. 世界 ―グローバル化の進展の中で
 - ⑦「富・貧・欲望」
 - ⑧「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション③
13. IV. 将来への展望 ―希望を抱いて
 - ⑨「不幸・不公平」―人間の苦しみと神の義の問題
 - ⑩「世の終わり」と希望

15. リフレクション④

準備学習

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の教説、歴史的取り組みなどを紹介しながら受講生一人一人に主体的に考えてもらうので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

テキスト

『聖書』(新共同訳(旧約統編つき)) 日本聖書協会(新規に購入するならN143DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。)

参考図書

芦名定道、土井健司、辻学 『現代を生きるキリスト教 ―もう一つの道から』 教文館。
 教皇庁正義と平和協議会 『教会の社会教説綱要』 カトリック中央協議会。

留意事項

テキストの『聖書』を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。また当然のことだが、授業中の私語厳禁。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化			11117	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、科学の発達に対してキリスト教がいかなる態度を取ってきたかを検討していきたい。

授業の概要

地動説と進化論を取り上げる。地動説や進化論はキリスト教徒によって唱えられたのであり、教会もそれに真っ向から反対したわけではない。本講義では、とくに16～17世紀の科学の発達における教会とキリスト教徒の位置を検討することによって、宗教と科学の問題を考察する。

授業計画

1. 古代における地動説と天動説
2. 古代における地動説と天動説
3. コペルニクス(1)
4. コペルニクス(2)
5. コペルニクス(3)
6. ガリレオ(1)
7. ガリレオ(2)
8. ガリレオ裁判
9. 天地創造説
10. ラマルクの進化論
11. ダーウィン(1)
12. ダーウィン(2)

13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

準備学習

天動説や地動説、進化論について、高校の教科書等で復習しておくこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

参考図書

村上陽一郎『科学史からキリスト教をみる』2003年、創文社

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中で退室するときは必ずその理由を告げること。途中退席は遅刻、15分を超える場合は欠席と見なす。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ			11201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

大学生としての姿勢、本学の学生としての姿勢をまず理解し、大学共同体の一員としての立場を確認していく。また、大学生としての最低限の基礎学力を身につけることと、学習に必要な基礎的なスタディスキルの獲得をめざす。

授業の概要

授業の前半に、習熟度別リメディアル学習をおこなう。基本的な言語、社会、数学の能力を問題演習を多く取り入れながらこの順に養成していく。後半には、大学の年間行事についてなど理解すること、大学において、学習・生活するためのスタディスキルを、各担任による少人数演習形式で学んでいく。

授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
2. (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
3. (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
4. (1)言語4
(2)資料の探し方(図書館の利用法)
5. (1)社会1
(2)授業の受け方
6. (1)社会2
(2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会3
(2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会4
(2)学生生活(課外活動2)
9. (1)数学1
(2)理解と表現(作文など)
10. (1)数学2
(2)理解と表現(比較分析)
11. (1)数学3

- (2)リサーチの方法(情報の集め方)
12. (1)数学4
(2)リサーチの方法(レポート作成)
13. (1)基礎確認演習1
(2)簡単なプレゼンテーション
14. (1)基礎確認演習2
(2)マナー
15. (1)基礎確認演習3
(2)スタディスキル確認演習

準備学習

テキストの流れを見ておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回につき、10点引きとする。

テキスト

・大学・短大・専門学校生のためのマンツーマンリメディアルテキスト(育伸社)
・大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の基礎確認演習において、全科目(言社数)について、80点以上を取らなければ、不合格とする。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ			11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

大学生としての姿勢、本学の学生としての姿勢をまず理解し、大学共同体の一員としての立場を確認していく。また、大学生としての最低限の基礎学力を身につけることと、学習に必要な基礎的なスタディスキルの獲得をめざす。

授業の概要

授業の前半に、習熟度別リメディアル学習をおこなう。基本的な国語、社会、数学の能力を問題演習を多く取り入れながらこの順に養成していく。後半には、大学の年間行事についてなど理解することと、大学において、学習・生活するためのスタディスキルを、各担任による少人数演習形式で学んでいく。

授業計画

1. (1)言語1
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索の収集)
3. (1)言語3
(2)レポートの書き方1
4. (1)言語4
(2)レポートの書き方2
5. (1)社会1
(2)レポートの書き方3
6. (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
7. (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
8. (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
9. (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
10. (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
11. (1)数学3

- (2)プレゼンテーション4(個人発表)
12. (1)数学4
(2)ディスカッションの進め方(個人発表)
13. (1)基礎確認演習1
(2)ディスカッション1
14. (1)基礎確認演習2
(2)ディスカッション2
15. (1)基礎確認演習3
(2)アカデミックスキル確認演習

準備学習

テキストの流れを見ておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回につき、10点引きとする。

テキスト

- ・大学・短大・専門学校生のためのマンツーマンリメディアルテキスト(育仲社)
- ・大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の基礎確認演習において、全科目(言社数)について、80点以上を取らなければ、不合格とする。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ	EC/PC		11209	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

本学では、キリスト教の人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、現在人間が置かれている歴史的位置を考察するため、フランス革命以降の歴史、とくに20世紀の歴史を概観する。

授業の概要

本学はキリスト教の人間教育を目指している。では人間とは何か。人間はいかに生きるべきなのか。このような問題はあまりにも大きく、とても語り尽くせるものではない。そこで本講義は、現在、人間がその歴史においてどのような位置にあるかを考える手がかりを提供することを目的とする。毎回、授業の始めに新聞記事を読ませて感想を書かせたり、時事問題についての問題を解かせて簡単に解説する予定。

授業計画

1. フランス革命
2. ナポレオン
3. 産業革命
4. ウィーン体制とヨーロッパの諸革命
5. 自由主義と国民主義
6. 帝国主義
7. 第1次世界大戦とロシア革命
8. 大戦間期
9. 第2次世界大戦
10. 冷戦(1)
11. 冷戦(2)

12. 冷戦後の世界
13. バレスチナ問題
14. 21世紀の世界
15. まとめ

準備学習

高校の世界史の教科書で、アメリカ独立戦争やフランス革命以降を読んでおくこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 2	EC・TH/PC	11213	Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
岡村 祥子	必修	2			

授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティの要素もてがかりに、人間として、女性としての存在を認識していく。

授業の概要

まず、人間存在について地球上の空間的な存在と、過去からの遺産を受け継ぐ歴史上の時間的な存在を確認する作業からはじめていく。次に人間を取り巻く環境を、家族、地域社会、国家等との関係で理解を深めていく。さらに、生きることとは何か、人間らしい人間とは何かなどを自らに問いかけることによって、人生の旅を探求していく。知的な問いかけだけでなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけをとりあげていく。

授業計画

1. 序 人間学について
2. 自己への問いかけ
3. 他者との関わり
4. KAISEIパーソナリティとの関係
5. 自然との関係
6. 地球上での存在
7. 地球環境の意識
8. 歴史の中の人間(人類の遺産) 1
9. 歴史の中の人間(人類の遺産) 2
10. 家族、社会の中で(国際社会)

11. 人間存在の神秘
12. 人間らしい人間とは
13. 超越者との出会い
14. 再びKAISEIパーソナリティとの関係
15. あらためて人間とは

準備学習

人間についての問いかけをしている本を読んでおくこと

課題・評価方法

平常点60%、定期試験40%

欠席について

出席点(100点満点)を全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点する。

テキスト

プリントを使用する。

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

自己と他者に関心を持ち、現代社会を注視し、人生に対する姿勢を明確にしたいという自覚をもつこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	EC/PC	11301	I	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
尾崎 秀夫／竹安 知枝	必修	2			

授業の到達目標

各学生が、この4年間の学生生活で将来の「自己実現」のために何をすべきかを学び、キャリアデザインを描けるようにする。

授業の概要

これからの人生を考えるため、自分を省み、どのような職業に向いているかを考え、社会でのコミュニケーションの取り方、社会人としての常識とマナー、現代社会の諸問題などを学び、一人ひとりのキャリアデザインを明確にする。たんに経済的に自立するだけではなく、社会人としていかに行動すべきか、社会にいかに関与できるかを考えてもらいたい。

授業計画

1. イントロダクション
2. 適性検査実施(キャリアマップ)
3. SPTコミュニケーション①
4. SPTコミュニケーション②
5. 社会と私①
6. キャリアマップの結果に基づく自己理解
7. 社会の常識とマナー①
8. 社会の常識とマナー②
9. 社会の常識とマナー③
10. コミュニケーションとは？
11. 自分の興味と職業選択
12. キャンパスライフプランニング
13. 社会と私②

14. 社会と私③
15. まとめ

準備学習

これまでの自分の人生を1度振り返ってみること

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は単位を与えない

留意事項

授業内容と関係の深い秘書検定3級の受験対策も行う。検定合格者については、平常点に別枠で加点する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を拓げる。

授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する日本の古典も参考にしながら、近代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文学へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面に注目する。

授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1) 神隠しとは。
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2) タブーをおかす。異界をひらく道。
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3) 山姫と山爺。異界をつくる者たち。
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4) 異界からの帰還。現実との接点。
5. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1) 迷信の近世。
6. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2) 文明の近代。
7. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3) 神殺しとこどもの自立。
8. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」「ハウルの動く城」 止まった時間、固定されぬ空間。
9. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その1) 語られぬ自己。
10. 芥川龍之介「奉教人の死」と「ムーラン」(その2) 男装の麗人。東洋における女性の地位。
11. 梶井基次郎「Kの昇天」と「シラノ・ド・ベルジュラック」 ドッペルゲンゲル。肉体と魂。

12. 夢野久作「瓶詰の地獄」 トリック。
13. 太宰治「魚服記」 他者を求める。
14. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」 猫になる人間たち。錯覚と理想郷。
15. 井伏鱒二「へんろう宿」 旅することと留まること

準備学習

あらかじめ作品を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う

テキスト

東郷克美編『近代小説【異界】を読む』（双文社出版）

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

留意事項

授業中に鑑賞する映像は、あくまで、近代文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では、一部のみしか鑑賞しない。近世・近代の文学に興味がある学生の受講を望む。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらうことを目標とする。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法

10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2
15. 有価証券報告書の読み方3

準備学習

第1回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

『これならわかる！情報活用の基礎知識』、樋口勝一著、ノア出版

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	選択	2				

授業の到達目標

心理学は何を対象とし、どのような手法でもってそれを研究してゆくのかについて、感覚知覚レベルの話題から社会的行動や臨床の問題にいたるまで、幅広く心理学が扱う問題についての基礎的な理解を深める。

授業の概要

ヴントに始まる科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような議論が戦わされてきたのか、それは同様に学習や認知の研究においてはどのような展開を見せたのか。思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉える上で、そのような知見は十分なものであったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすことにはどのような問題があるのか、などについて具体的な資料をあげながら概観してゆく。

授業計画

1. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
2. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 1
3. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学) 2
4. 発達(環境と遺伝)
5. 学習・記憶(行動主義と学習理論) 1
6. 学習・記憶(行動主義と学習理論) 2
7. 思考・言語(認知心理学) 1
8. 思考・言語(認知心理学) 2
9. 動機づけ・情動
10. パーソナリティー(人格の形成)
11. パーソナリティー(人格の評価)
12. 社会的行動

13. 臨床の心理学 1
14. 臨床の心理学 2
15. まとめ

準備学習

心や脳に関する話題は、新聞、テレビ等でよく話題にされるので、関連特集などに注目して視聴してください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

鹿取魔人、杉本敏夫編 2004 心理学 第3版 東京大学出版会

参考図書

大山正・金城辰夫・福島章・岡本夏木・高橋滯子共著 1990 新版 心理学のあゆみ 有斐閣

留意事項

講義は毎回が前回の内容を前提として進められるので、講義内容の流れを常に把握しておくこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。

授業の概要

情報化が進み、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

授業計画

1. 割合の学習
2. 割合の学習
3. 1次元データの統計基礎①～代表値
4. 1次元データの統計基礎②～分散・標準偏差
5. 1次元データの統計①～度数分布表とヒストグラム
6. 1次元データの統計②～度数分布表における代表値
7. 1次元データの統計③～度数分布表における分散・標準偏差
8. 1次元データの統計④～総合練習
9. 2次元データの統計基礎①～クロス集計表
10. 2次元データの統計基礎②～散布図と相関係数

11. 2次元データの統計基礎③～総合練習
12. 正規分布表の読み方
13. 正規分布表の利用
14. 統計的推定・検定
15. まとめ

準備学習

小学校で学習した簡単な割合の内容を理解していることがのぞましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「大学生のための統計学ドリル」、落合史夫・樋口勝一著、晃洋書房

留意事項

講義は小学算数のレベルからゆっくり進めるので、数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義修了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
芹田 健太郎	選択	2				

授業の到達目標

今日では、日本国憲法制定時には考えも及ばなかった人権条約が誕生し、飛躍的にその数を増加させてきているので、日本国憲法の人権条項をこれら人権条約との比較の上で検討して、今日的な憲法の意味を理解する。

授業の概要

最初の数回を日常生活や国家社会、国際社会との関連を概観する。続いて、憲法というものがどのようなものか、国際条約がどのようなものかを明らかにし、特の人権について講義する。その際、社会的に弱者と考えられる人たちに光を当てて、具体的な状況を指摘しながら、論じていく。

授業計画

1. 日常生活と法と常識と
2. 社会と法・権利
3. 国際社会と法
4. 憲法というもの一人権と統治
5. 憲法と人権条約
6. 人権の基礎—個人の尊重と人間の尊厳
7. 人間は「商品」ではない—奴隷貿易と近代人権宣言
8. 世界人権宣言—「国民」の権利から「人間」の権利へ
9. 自由権規約について
10. 社会権規約について
11. 人種差別撤廃条約について
12. 女性差別撤廃条約について
13. 子どもの権利条約(子ども兵士禁止条約、子どもポルノ禁

- 止条約を含む)について
 14. 障害者権利条約について
 15. 難民条約

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う。

テキスト

芹田健太郎『憲法と国際環境(補訂版)』(有信堂、1992)
 芹田健太郎編集代表『コンパクト学習条約集』(信山社、2010)
 芹田・薬師寺・坂元共著『ブリッジブック国際人権法』(信山社、2008)

参考図書

芹田健太郎『国際人権法I』(信山社、2011)
 同 『国際人権法II』(信山社、近刊)

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学			11333	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	1				

授業の到達目標

現代社会において健康への関心は高まっているが、多くの健康阻害要因が存在し、生活習慣病や心の病が大きな社会問題の一つになっている。自己管理ができ、心身ともに健康に日々の生活を送るための基礎知識を習得することを目指す。

授業の概要

まず「健康」とはどのようなことなのかを考え、そして健康に必要な要素について学ぶ。具体的には、健康に影響を及ぼす生活習慣病の知識を学び、また、栄養・睡眠・運動・心が健康に与える影響についても学ぶ。そして飲酒・喫煙などの身近な健康阻害要因についての基本的な知識を習得し、自らの健康について何が必要であるのかを考えていく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 健康とは
3. 栄養と健康
4. 運動と健康
5. 睡眠と健康
6. 心と健康
7. 飲酒・喫煙が体に及ぼす影響
8. まとめ

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

留意事項

授業時に指示する。

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1	①/②	11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	1			

授業の到達目標

生涯スポーツであるテニス・卓球などを楽しく学びながらスポーツを身近に感じ、関心を深め、日常化することで、健康増進・体力向上を目指し、肥満・生活習慣病などの予防に対する意識を高めることを目標とする。

授業の概要

硬式テニスについてルールを学び、基本練習から入り、最終的にはゲームを行う。具体的には、グリップの握り方やフットワークなど基本的なことから学び、段階的にフォアハンドストローク・バックハンドストロークやボレー・スマッシュの技術・サーブなどを学び、ゲーム練習に入る。

授業計画

1. テニス
ルール説明、フォアハンド・バックハンドの基本(グリップ・打点・スイングなど)
2. フォアハンドストローク基本・ラリー
3. バックハンドストローク基本・ラリー
4. サーブの基本・ラリー
5. フォアボレー基本・ラリー
6. バックボレー基本・ラリー
7. フットワーク(ステップ)基本・ラリー
8. スマッシュ基本・ラリー
9. ダブルス形式
10. ゲーム
11. ゲーム

12. 卓球
ルール説明、基本練習
13. 基本練習・サーブ
14. ゲーム
15. ゲーム

準備学習

テニスのルールについて学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

留意事項

体操服・運動靴持参。雨天時は、2号館体育室（体育館シューズ持参）で卓球を行う。

総合科目〈総合科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史		11353	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子	選択	2			

授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。

授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

授業計画

1. 神々の歴史 「古事記」と萩原規子『空色勾玉』を読む
2. 縄文時代・弥生時代 たつみや章『月神の統べる森で』を読む
3. 邪馬台国・古墳時代 横光利一『日輪』を読む
4. 邪馬台国のあった頃の中国(魏) 吉川英治『三国志』を読む
5. 飛鳥時代 池田理代子『聖徳太子』を読む
6. 大化の改新から 里中満智子『天上の虹』を読む
7. 奈良時代 手塚治虫『火の鳥』を読む
8. 平安時代 大和和紀『あさきゆめみし』を読む
9. 年中行事(正月について) 「枕草子」を読む
10. 年中行事(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
11. 年中行事(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
12. 年中行事(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
13. 鎌倉時代 平家滅亡 「平家物語」・小泉八雲「耳なし芳一」を読む

14. 鎌倉時代 義経逃亡 斎藤洋『白狐魔記・源平の風』を読む
15. 室町時代 三島由紀夫『金閣寺』を読む

準備学習

取り上げる図書はすべて、図書館の指定図書コーナーでも閲覧できる。あらかじめ読んでおくことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会計学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明します。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することです。

授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することです。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明します。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になります。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義します。

授業計画

1. 簿記の全体構造①～簿記の意義
2. 簿記の全体構造②～仕訳
3. 簿記の全体構造③～総勘定元帳
4. 簿記の全体構造④～決算
5. 簿記の全体構造⑤～財務諸表の読み方
6. 取引①～現金・預貯金の取引
7. 取引②～商品の取引
8. 取引③～掛・手形の取引
9. 取引④～有価証券・固定資産の取引
10. 決算①～試算表の作成
11. 決算②～精算表の作成
12. 決算③～損益計算書と貸借対照表の作成

13. 決算④～決算振替の方法
14. 伝票の記入
15. まとめと確認

準備学習

授業の始まる前には、予習をしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

「段階式日商簿記3級商業簿記」 税務経理協会
 「段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記」 税務経理協会

留意事項

電卓は必要なので持参してください。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
自然科学概論			11361	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領が示す小学校の理科の内容である物理・化学・生物・地学を「自然科学」という概念のもとで扱い、自然現象を客観的に観察し、問題を考察する力を育てることを目標とする。

授業の概要

自然科学は、我々人類が長年にわたって自然現象を解明するために築き上げてきた学問であり、大きく物理・化学・生物・地学の分野に分けられる。本講義では、時空のしくみや素粒子の世界を記述する物理学と、原子の世界を説明する化学、生命の現象を調べる生物学、地震・気象など身近で起こっている現象を説明する地学を学習していく。

なお、学習の動機付けとして就職試験や公務員試験における理科の対策もおこなう。

授業計画

1. 物理1－力学
2. 物理2－熱学
3. 物理3－電磁気学
4. 物理4－電気回路
5. 物理5－波動
6. 物理6－原子核
7. 化学1－ものの溶け方
8. 化学2－ものの燃え方
9. 化学3－水溶液の性質
10. 生物1－顕微鏡の使い方

11. 生物2－観察の方法
12. 地学1－気象
13. 地学2－地球と天体
14. 総合練習問題
15. まとめ

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

後日指示。

留意事項

授業は小学理科のレベルからゆっくり進めるので、物理や化学などが苦手な人も安心して受講してほしい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得し、家族関係の問題に科学的に接近できるようにする。

授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

授業計画

1. 家族とは
2. 家族関係の基礎的概念 1
3. 家族関係の基礎的概念 2
4. 配偶者の選択
5. 結婚と夫婦関係
6. 離婚・再婚と家族関係
7. ライフコースと家族の危機
8. 家族の内部構造
9. 子どもの養育と家族関係
10. 中年期の家族関係
11. 高齢期の家族関係
12. 家族に関する政策と法

13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変動
15. まとめ

準備学習

社会学の入門書を1冊読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉論			11369	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清原 国臣	選択	2				

授業の到達目標

21世紀は世界のどの国も「福祉国家」を目標に、「地域福祉」へと拡大しつつある。勿論、日本も言うまでもない。日本の現代社会における「社会福祉の意義」と、歴史的経緯を理解し、多岐に亘った「医療・福祉・介護」の現状を見極めながら、福祉の全体像を把握する。また日々変遷する社会状況の中での制度の在り方や実施体系、それを利用する人々の位置付けや、援助技術を施す介護専門家としての実践理論等を修得する。

授業の概要

現在高齢社会が急速に進行する中で、日本の「社会福祉」に対する認識も益々高まってきた。授業では「社会福祉」の概論だけでなく、社会福祉における「個」と「社会」との関連を重視し、家族や地域、職場、施設での現実の生活にどう対応できるか、また如何に支援すべきかという視点を養ってもらう。殊に社会保障制度の中で常に問われる「人」「物」「金」「情報」等が国家的施策として均等に推進されているか、内外の最新情報や資料を提供し、その動きを鋭く見極める専門家としての素地を身に付けてもらう。そうして社会福祉の充実に向けて主体的に人間関係を構築していける豊かな人材育成を目指す。

授業計画

1. 私たちの生活と社会福祉
2. 社会福祉の成り立ちと発展－欧米の社会福祉
3. 社会福祉の成り立ちと発展－日本の社会福祉
4. 社会福祉のしくみ
5. 低所得者の福祉
6. 子どもと家庭の福祉－子どもの人権と福祉

7. 子どもと家庭の福祉－子育て支援施策
8. 心身障害者の福祉－障害者福祉の理念
9. 心身障害者の福祉－障害者の福祉施策
10. 高齢者の保健医療福祉－老人福祉法
11. 高齢者の保健医療福祉－介護保険
12. 地域福祉、医療福祉、教育と福祉
13. 社会福祉に携わる人々
14. 社会福祉援助の方法－ソーシャルワークとは
15. 社会福祉援助の方法－ソーシャルワークの技術

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う。

テキスト

小林育子・著、『保育者のための社会福祉』（萌文書林・2011・刊）

参考図書

適時、授業時に紹介する。

留意事項

授業に積極的に参加すること。小テストも評価の対象とする。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

人権問題の歴史と現状を踏まえて、人権教育の必要性を認識する。そして、様々な人権問題について理解し、学校や社会教育の中での人権教育のあり方を追究する。

授業の概要

本講義では、まず人権とは何か、人権教育はなぜ必要なのかを考察する。そして、人権意識の発展の歴史を踏まえた上で、様々な人権問題について理解する。また、身の周りにおける人権問題に関わりのある事例や、新聞報道などを取り上げ議論することを通して、自らの人権感覚を深めていきたい。

授業計画

- 1.はじめに 一人権・人権教育とは一
- 2.世界における人権拡張の歴史
- 3.日本における人権拡張の歴史
- 4.同和問題と人権教育
- 5.子どもの人権 一子どもの権利条約一
- 6.社会における人権問題① 一女性の人権一
- 7.社会における人権問題② 一障害児(者)・高齢者の人権一
- 8.社会における人権問題③ 一在日外国人の人権一
- 9.教育における人権問題① 一教育権・学習権をめぐる問題一
- 10.教育における人権問題② 一いじめ・不登校をめぐる問題一
- 11.教育における人権問題③ 一懲戒・体罰、校則をめぐる問題一

- 12.学校教育における人権教育①
- 13.学校教育における人権教育②
- 14.社会教育における人権教育
- 15.まとめと人権教育の今日的課題

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点50%のうち、出席は30%、小テスト20%とする。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

本科目を履修する学生として、新聞・テレビ等の人権関連報道等に常に興味を持ち、授業に臨むこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
尾崎 秀夫	選択	2				

授業の到達目標

学習指導要領が示す小学校の社会科の内容を、日本史を中心に講義する。歴史を学ぶことによって現代のさまざまな問題について考える力をつけてもらいたい。

授業の概要

時間が非常に限られているので、まず日本史の流れをおさえることを主眼とする。それとともに主要事項を確認していく。歴史はすべてのことにかかわるので、さまざまな問題に言及しながら授業を進めたい。政治、経済についても時間を割きたいと思う。また、内容の定着をはかるため、随時小テストを行う。常識を身につけるために、教職を目指す学生だけでなく、一般企業などを目指す学生にも受講してもらいたい。

授業計画

- 1.縄文・弥生時代
- 2.古墳時代と大和政権の成立
- 3.律令制の成立
- 4.平城京と平安京
- 5.鎌倉時代
- 6.室町時代と千石時代
- 7.江戸時代(前期)
- 8.江戸時代(後期)
- 9.開国と明治維新
- 10.日清戦争から第2次世界大戦
- 11.戦後
- 12.日本の議会制民主主義

- 13.為替相場
- 14.株価の変動
- 15.まとめ

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

随時プリントを配布する予定。

参考図書

とくに指定しない

留意事項

日本史を中心にかなり大まかに講義するので、時代の流れとともに主要事項をしっかり頭に入れて出席すること。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につける。

授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。また、経済社会の変化にともなって家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身につけ、実践的能力を養う。

授業計画

1. 様々な家政学
2. 家政学の定義、目的、対象、方法
3. 家政学の発展過程と改革
4. 家庭生活と生活経営
5. 家庭経済・消費者問題
6. 家族関係
7. 食生活 1
8. 食生活 2
9. 衣生活 1

10. 衣生活 2
11. 住生活 1
12. 住生活 2
13. 生活情報
14. 生活環境
15. まとめ

準備学習

高等学校までの家庭科について復習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

松岡明子・大谷陽子編著『家政学概論Ⅰ』建帛社

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	EC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。
また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。

授業の概要

言葉を公に使用するという事は、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

授業計画

1. 「文章入門」書き言葉の決まり事を学ぶ。ノートの取り方を学ぶ
2. 「敬語」尊敬語と謙譲語(その1)プリント配布。
3. 「敬語」尊敬語と謙譲語(その2)45～52ページ
「敬語表小テスト」
4. 「敬語」まちがいがやすい敬語 53～58ページ
「敬語小テスト」
5. 「敬語」待遇表現(その1)59～60・63～64ページ
「敬語小テスト」
6. 「敬語」待遇表現(その2)61～62・65～66ページ
「敬語小テスト」
7. 「修辭法と慣用句」比喩法・変化法、慣用句ことわざ 23～28ページ
「敬語まとめテスト」
8. 「文中の誤りを直す」推敲の仕方を学ぶ。「冠婚葬祭」の常識
「敬語総まとめテスト」
9. 「メールの書き方」プリント配布
「比喩法・変化法テスト」23ページ
10. 「履歴書とエントリーシート」91～94ページ
「慣用句・ことわざテスト」26ページ
11. 「手紙とはがき」一般的な形式と表現 75～82ページ
「履歴書の書き方テスト」
12. 「手紙とはがき」礼状 83～86ページ
「手紙の一般的な形式についての小テスト」
13. 「案内状の作成」種類と内容 87～90ページ
「礼状を書く小テスト」

14. 「誤用文と推敲」修飾句の位置・副詞の呼応 19～22ページ
「案内状作成についての小テスト」
15. 「文章の構成」13～18ページ 「5年後の私」
「正しい叙述の照応についてのテスト」

準備学習

敬語は使わなければ身に付かない。日頃から意識して正しい敬語を使う努力をする。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

テストやレポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』（樹村房）

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・文章の書き方・話し方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身につける。

授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を習得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。実用的な文章の書き方、紹介・発表における話し言葉の表現法についても学ぶ。また、言葉に対する感覚を磨くために、詩や格言等の学習を取り入れていく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 自己紹介の仕方
3. 言葉と表現①
4. 言葉と表現②
5. 言葉と表現③
6. 言葉と表現④
7. 文章の書き方①
8. 文章の書き方②
9. 文章の書き方③
10. 文章の書き方④
11. 話し方と発表の工夫①
12. 話し方と発表の工夫②
13. 書写(毛筆習字)①

14. 書写(毛筆習字)②
15. 言葉を楽しむ

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

中谷克己・野村和代 共著『大学生のための日本語の基礎 入門編』帝塚山大学出版会

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(準備と提出物含む)を重視する。毎時間、国語辞典を持参する。
書写の持ち物:半紙、大筆、小筆、墨汁、硯、文鎮、下敷き、新聞紙等。その他必要な物は事前に連絡する。

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法			11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。

授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は公表する。

授業計画

1. <評論文>(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
2. <評論文>(2) 映画評を書く。アウトラインのたてかたを学ぶ。
3. <評論文>(3) 文中の誤りを正す。推敲の仕方を学ぶ。
4. <評論文>(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5. <評論文>(5) 書評を書く。序論・本論・結論の順に記述を進める。引用の規則を守る。
6. <新聞検索> 新聞記事の検索を行い、次回にレポートを書く資料準備を行う。
7. <意見文> 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。特に自説の証明を学ぶ。客観的根拠を3例以上あげ、自説を証明する。
8. <意見文・説得文> 新聞投稿を行う。結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
9. <小説> 語り手の位置を学ぶ。
10. <小説> テーマにそった短編小説を書く。
11. <エントリーシート> 「私の職業観」という題で自分について書く。序・破・急の三段構成の方法を学ぶ。
12. <エントリーシート> 「10年後の私」という題で自分について書く。起・承・転・結の四段構成の方法を学ぶ。
13. <エントリーシート> キャッチコピー・ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14. <卒論の準備> 要約の仕方を学ぶ。課題文を読んで、200字

程度の要約を作成する。

15. <卒論の準備> 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。

準備学習

漢字のテストを毎回行う。課題をあたえるので、復習をしておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

レポートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

留意事項

演習が中心の授業となる。毎時間、国語辞典を持参すること。

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1			11501	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一／米田 里香／武田 春美	必修	2				

授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を習得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用してさまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。

授業の概要

まず、ハード、ソフト、ネットワークなどコンピュータの基礎知識を学習する。そして、OS、ワープロソフトの使い方を実習により習得し、さらには、インターネット、Eメールのプレゼンテーションソフトの簡単な利用方法を学ぶ。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験2、3級の過去問題演習もおこなう。

授業計画

1. コンピュータの基礎知識 1
(1) コンピュータのしくみ
2. コンピュータの基礎知識 1
(1) コンピュータのしくみ
3. コンピュータの基礎知識 2
(2) ハードウェア (3) ソフトウェア(OSの概要を含む)
4. コンピュータの基礎知識 3
(4) インターネットとネットワーク (5) EUCについて
5. 情報倫理と情報の利用
6. ウィンドウズの操作
(1) 基本操作 (2) ファイル操作
7. 日本語入力
(1) 日本語入力システム (2) タッチタイピング
8. 簡単なビジネス文書作成 1
9. 簡単なビジネス文書作成 2
10. 日本語ワープロ技能標準試験 3級問題演習

11. 日本語ワープロ技能標準試験 2級問題演習
12. 電子メール・インターネットによる情報の受信と発信
13. プレゼンテーションソフトの基本
14. まとめ
15. 確認演習

準備学習

1年次配当「情報活用の基礎知識」を同時に受講していることが望ましい

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

繰り返して慣れる！Office演習ドリル全555題2007対応、ノア出版
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集、樋口勝一、ノア出版

留意事項

コンピュータを使った演習が中心である。

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2			11505	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
武田 春美／米田 里香	必修	2				

授業の到達目標

現代ビジネス社会に必要なとされるパソコンとビジネスデータを活用し、問題解決や発表、経営上の意思決定ができる能力を育成することを目標とする。

授業の概要

はじめに、データ処理に必要な数学を割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータ処理のために必要な数式を立てる練習をおこなう。また、ビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ。その後、表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化がおこなえるように指導する。なお、学習の動機付けとして、表計算技能標準試験の過去問練習もおこなう。

授業計画

1. ビジネスと割合 1
2. ビジネスと割合 2
3. 表計算基礎 (1)表作成 (2)関数 (3)グラフの利用方法
4. 表計算ソフトの操作 1 (1)表作成
5. 表計算ソフトの操作 2 (2)関数機能 1
6. 表計算ソフトの操作 3 (3)関数機能 2
7. 表計算ソフトの操作 4 (4)グラフ作成機能
8. 表計算ソフトの操作 5 (5)データベース機能
9. 表計算技能標準試験3級対策
10. 表計算技能標準試験2級対策
11. ビジネス・経営組織と情報
12. コンピュータと会計

13. 情報処理システムの開発
14. まとめ
15. 予備日

準備学習

小学校の算数を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

『繰り返して慣れる！Office演習ドリル全555題 2007対応』、樋口勝一、ノア出版
『表計算技能標準試験過去問題集』、樋口勝一、ノア出版

留意事項

テキスト『繰り返して慣れる！Office演習ドリル』は情報リテラシー1と共通なので、情報リテラシー1の講義を受講した人は新たに購入する必要なし。

情報〈情報〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 1	①/②	11509	Ⅱ	春	35,27
担当者名	区分	単位	特記事項		
米田 里香／武田 春美	選択	2			

授業の到達目標

ビジネス文書をワープロソフトで作成する能力を養成すること、入力技術だけでなく、ビジネス文書作法、コンピュータのしくみなどの理解を目標とする。

授業の概要

近年、我々の生活の中に、パソコンが急速に普及してきた。それにとともに、ほとんどビジネス文書など公式文書の多くはパソコンを使って作成されるようになり、手書きのものはほとんど見られなくなっている。本講義では、ワープロソフトを使って、表、流れ図、案内文、地図の作成などの応用操作を学ぶ。なお、学習の動機付けとして日商PC検定3級文書作成の対策もおこなう。

授業計画

1. コンピュータのしくみ
2. ネットワーク
3. ネット社会の到来
4. ビジネス文書作法
5. 知識問題復習
6. ワードの基本操作確認 (1)書式設定
7. ワードの基本操作確認 (2)表作成 1
8. ワードの基本操作確認 (3)表作成 2
9. ワードの基本操作確認 (4)図形
10. ワードでのビジネス文書作成ポイント
11. 実践練習 1
12. 実践練習 2

13. 実践練習 3
14. まとめ
15. 予備日

準備学習

情報リテラシー 1 の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

『これでバッチリ！ドリルで学ぶ日商PC検定3級文書作成対策テキスト』、樋口勝一・米田里香著、ノア出版
『日本商工会議所 日商PC検定試験（文書作成）3級完全マスター』、FOM出版

留意事項

コンピュータを使った演習をする。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	a/b	11601	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
高谷 華／入江 和子	選択	1			

授業の到達目標

英語の基本的な文法事項を確実に習得し、読む、聞く、書く、話すの四技能の実用能力を総合的に向上させることを目指す。

授業の概要

保育園での春夏秋冬の生活を描いたストーリーを読み、保育の現場に欠かせない語彙や表現を学んで内容を理解する。また説明したり、頼んだり、お礼を言ったり、注意したり、謝ったりというような保育者と子供や保護者との会話や連絡帳のやりとり、電話での対応などのタスクを通して園生活の具体的な場面でのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

授業計画

1. The School Year Begins
2. Arrival
3. Playtime in the Classroom
4. In the Sandbox
5. In the Playground, Grammar 1
6. Lunch Time
7. Changing Clothes and Story Time
8. Nap Time
9. Blowing Bubbles
10. A Sick Child, Grammar 2
11. Preparation for the Sports Day
12. The Sports Day
13. Going for a Walk
14. Discovering Autumn

15. Drawing & Letter Writing, Grammar 3

準備学習

必ず予習をしてくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

森田和子 『新・保育の英語』 *English for Nursery Schools and Kindergartens [revised]* 三修社

参考図書

開講時に指示する。

留意事項

座席指定。英語辞書必携。与えられた課題は必ず準備しておくこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	a/b	11605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／担当者未定	選択	1			

授業の到達目標

将来、保育士を目指す学生に必要なとされる読み聞かせのスキルを英文を通して習得する。物語を英文で読みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。

授業の概要

日本でもよく知られた欧米の児童文学を英語で読み、リスニングや読解問題を通して作品に対するさらなる理解を深める。同時に、音読して読み聞かせをすることに重点をおく。

授業計画

1. introduction
Jack and the Beanstalk
2. Sinbad the Sailor
3. Hansel and Gretel
4. Puss in Boots
5. Sleeping Beauty
6. The Three Spinners, part 1
7. The Three Spinners, part 2
8. Alice in Wonderland, part 1
9. Alice in Wonderland, part 2
10. Aladdin and the Lamp, part 1
11. Aladdin and the Lamp, part 2
12. Ali Baba and the Forty Thieves, part 1
13. Ali Baba and the Forty Thieves, part 2
14. Pinocchio, part 1
15. Pinocchio, part 2

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

English Cradle, CENGAGE

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3	a/b	11609	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子／高谷 華	選択	1			

授業の到達目標

英語の基本的文法知識を確実に習得し、総合的な英語力を向上させることを目指す。

授業の概要

文法事項のポイントを200語前後の文脈の中で確認し、次に様々な練習問題を通して断片的な文法知識を組織的に再構築して要点が理解できているかを再確認する。また語彙が辞書的な訳だけではなく、文脈の中でどのような意味で使われているかを学習して内容についての理解度を高める。

授業計画

1. Unit 1 Water, Please [現在時制]
2. Unit 2 The Magic of Disney [過去時制と肯定文]
3. Unit 3 Balancing Studies and a Part-Time Job [命令文]
4. Unit 4 Convenience Store [名詞]
5. Unit 5 Japanese Loan Words [代名詞]
6. Unit 6 Cherry Blossoms in Japan [形容詞と副詞]
7. Unit 7 Diet and Health [比較級と最上級]
8. Unit 8 Sensory Branding [状態動詞]
9. Unit 9 Time to Take a Nap [助動詞]
10. Unit 10 Artificial Intelligence [willとbe going to]
11. Unit 11 Campus Life in the U.S. [動名詞と不定詞]
12. Unit 12 Cosmetic Surgery [現在進行形]
13. Unit 13 Great Inventions [過去進行形]
14. Unit 14 The Titanic [過去時制と否定]

15. Unit 15 Brain Training [現在完了]

準備学習

必ず予習をしてくること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

履修要項に沿って行う。

テキスト

Robert Hickling、市川泰弘 『Get Reading!—大学生のための読解演習』 金星堂

参考図書

開講時に指示する。

留意事項

座席指定。英語辞書必携。与えられた課題は必ず準備して授業に臨むこと。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 4	a/b	11613	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
担当者未定／平野 真理子	選択	1			

授業の到達目標

将来、保育士を目指す学生に必要とされる読み聞かせのスキルを英文を通して習得する。物語を英文で読みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。

授業の概要

Snoopyの漫画を通して背景知識を深め、基本的な英語表現を習得する。また、登場人物になりきって音読をし、読み聞かせのスキルを身につける。

授業計画

1. introduction
UNIT 1
2. UNIT 2
3. UNIT 3
4. UNIT 4
5. UNIT 5
6. UNIT 6
7. UNIT 7
8. UNIT 8
9. UNIT 9
10. UNIT 10
11. UNIT 11
12. UNIT 12
13. UNIT 13
14. UNIT 14
15. UNIT 15

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Snoopy's World of English, Asahi Press

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	a/b	11617	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL／L'Shawn M. HOWARD	選択	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable the students to move from high-beginner and progress towards English at a pre-intermediate level.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	a/b	11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／惣谷 美智子	選択	1			

授業の到達目標

実際のコミュニケーションにおいて、文法の知識を有効に用いて自分の考え等を正確かつ適切に表現するとともに、話し手や書き手の意向等を正しく理解することができるようにする。

授業の概要

中学校・高等学校で習った文法事項を復習する。また、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを解説と練習を通して学ぶ。

授業計画

1. Section 5 形容詞と副詞
2. Section 5 形容詞と副詞
3. Section 5 形容詞と副詞
4. Section 6 接続詞
5. Section 6 接続詞
6. Section 7 ifを使った文、仮定法
7. Section 7 ifを使った文、仮定法
8. Section 8 関係代名詞
9. Section 8 関係代名詞
10. Section 8 関係代名詞
11. Section 9 話法
12. Section 9 話法
13. Section 10 前置詞
14. Section 10 前置詞
15. Section 11 話し言葉の文法

準備学習

中学校・高等学校で習った文法事項をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	a/b	11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD／Angus HALL	選択	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from a basic level of English and progress towards English at an elementary level.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication, working in pairs, groups and as a whole class.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Holidays
3. Unit 7: continued
4. Unit 8: Present Tenses
5. Unit 8: continued
6. Unit 9: Transport
7. Unit 9: continued
8. Review
9. Unit 10: Future Forms 1
10. Unit 10: Future Forms 2
11. Unit 11: Health
12. Unit 11: continued
13. Unit 12: Present Perfect 1
14. Unit 12: Present Perfect 2
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8	a/b	11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD	選択	1			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will have developed their writing skills from simple sentences to full paragraphs.

授業の概要

Through rigorous in-class writing activities and homework assignments, students will develop their writing skills from simple sentences to full paragraphs.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7, Explanations and Excuses
3. Unit 7, cont.
4. Unit 8, Problems
5. Unit 8, cont.
6. Unit 9, Strange Stories
7. Unit 9, cont.
8. Review
9. Unit 10, Differences
10. Unit 10, cont.
11. Unit 11, Difficult Decisions
12. Unit 11, cont.
13. Unit 12, Fate or Choice?
14. Unit 12, cont.
15. Prepare for exam

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Paragraph Writing: From Sentence to Paragraph, Zemach/ Islam, Macmillan.

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 1		11633	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平田 淳子	選択	1			

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランス文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

1. オリエンテーション、教室で使う表現、alphabetの読み方、挨拶
2. 音の規則 1「あなたのお名前は?」「私は〇〇です」「どう綴りますか?」
3. 音の規則 2「お元気ですか?」「どこに住んでいるのですか?」
4. 「ご出身は?」「国籍は?」「ご職業は?」「どのような言語を話しますか?」
5. 自己紹介まとめ、数字、電話番号
6. 否定文「〇〇さんを紹介しします?」
7. 疑問文「〇〇で働いているのは誰でしょう?」「この人は誰でしょう?」
8. 動詞 étudier「〇〇さんは何を勉強していますか?」
9. 動詞 aimer, faire「映画が好きですか?」「週末何をするのが好きですか?」「よくそれをしますか?」
10. 動詞 avoir「これが私の家族です」「兄弟がいますか?」「年齢は?」
11. 家族の紹介まとめ
12. 疑問文「〇〇はフランス語でどう言いますか?」「これは何ですか?」
13. 「仕方がない」「カバンに何が入っているのですか?」「これは誰のカバンですか?」

14. 総復習
15. 映画鑑賞(フランス語)

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

"EN SCENE I" (三修社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語1とフランス語2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いついておかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 2			11637	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。

授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションに慣れ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聴き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。日常よく使用される会話文を通して単語や文型を習得、更に数字の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、フランス語やフランスの文化の一端を知る手掛かりとする。

授業計画

1. オリエンテーション、教室で使う表現、alphabetの読み方、挨拶
2. 音の規則 1「あなたのお名前は?」「私は〇〇です」「どう綴りますか?」
3. 音の規則 2「お元気ですか?」「どこに住んでいるのですか?」
4. 「ご出身は?」「国籍は?」「ご職業は?」「どのような言語を話しますか?」
5. 自己紹介まとめ、数字、電話番号
6. 否定文「〇〇さんを紹介します」
7. 疑問文「〇〇で働いているのは誰でしょう?」「この人は誰でしょう?」
8. 動詞「étudier「〇〇さんは何を勉強していますか?」
9. 動詞「aimer, faire「映画が好きですか?」「よくそれをしますか?」
10. 動詞「avoir「これが私の家族です」「兄弟がいますか?」「年齢は?」
11. 家族紹介まとめ
12. 疑問文「〇〇はフランス語でどう言いますか?」「これは何ですか?」
13. 「仕方がない」「カバンに何が入っているのですか?」「これは誰のカバンですか?」

14. 総復習
15. 映画鑑賞(フランス語)

準備学習

常日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

"EN SCENE I" (三修社)

参考図書

必要な場合は授業中に紹介する。

留意事項

フランス語 1 とフランス語 2 はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いついておかねばならない。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキストに付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 3			11641	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 と 2 で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組むと同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 「今日は何曜日ですか?」「誕生日はいつですか?」「何時ですか?」
3. 「何時に〇〇しますか?」「1日に何時間勉強しますか?」
4. 複合過去「昨日は〇〇をしました」
5. 複合過去「昨日は〇〇へ行きました」
6. 複合過去総復習「今週末〇〇をしましたか?」「〇〇をしたことがありますか?」
7. 既習事項の総復習
8. 近接未来「休暇中、何をしますつもりですか?」
9. 不定詞を使った表現「〇〇では何ができますか?」
10. 「朝、何を食べますか?」「飲み物は何が好きですか?」
11. カフェやレストランで注文をする、映画鑑賞(フランス語)
12. 天気の表現「どんな天気ですか?」
13. 天気予報「雨のとき何をしますか?」
14. 場所の表現「〇〇はどこですか?」

15. 「〇〇へ行くにはどうすればいいですか?」

準備学習

常日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

"EN SCENE I" (三修社)

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該言語未習者の履修に関しては、フランス語 1 若しくはフランス語 2 を履修しているか、それと同様な能力を有することが必要である。また、フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。聴き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキスト付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けることが望ましい。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 4			11645	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 と 2 で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。これからの予定や過去にしたことなど、幅広い会話を楽しめるようにする。

授業の概要

以下の計画に沿って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して単語や表現、文型を習得し、数字の読みと聞き取り、多様なフランス語の歌は毎回の課題とする。基本的な文法事項を確認しながら練習問題に取り組むと同時に文化にも触れ、フランス語やフランスという国についての理解を深める。

授業計画

1. オリエンテーション、既習事項の総復習
2. 「今日は何曜日ですか?」「誕生日は何時ですか?」「何時ですか?」
3. 「何時に〇〇しますか?」「一日に何時間〇〇しますか?」
4. 複合過去 「昨日は〇〇しました」
5. 複合過去 「昨日は〇〇へ行きました」
6. 複合過去総復習 「今週末〇〇をしましたか?」「〇〇をしたことがありますか?」
7. 既習事項の総復習
8. 不定詞を使った表現 「休暇中、何をしますつもりですか?」
9. 不定詞を使った表現 「〇〇では何ができますか?」
10. 「朝、何を食べますか?」「飲み物は何が好きですか?」
11. カフェやレストランで注文する、映画鑑賞(フランス語)
12. 天気表現 「どんな天気ですか?」
13. 天気予報 「雨のとき何をしますか?」
14. 場所表現 「〇〇はどこですか?」

15. 「〇〇へ行くにはどうすればいいですか?」

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースなどに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

"EN SCENE I" (三修社)

参考図書

必要がある場合は授業中に紹介する。

留意事項

当該言語の履修に関しては、フランス語 1 若しくはフランス語 2 を履修しているか、それと同様な能力を有することが必要である。また、フランス語 3 とフランス語 4 はタイアップしている授業であるため同時に履修すること。聞き取りや口頭練習に重点がおかれるので、テキスト付属のCDは予めよく聴き、授業中には大きく明快な声を出すことを心掛けることが望ましい。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 5			11649	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1 ~ 4 で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら同時に文化にも触れ、フランス語やフランスについての理解を深める。

授業の概要

以下の計画に添って授業を進める。日常よく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、数え歌、数字や時間の読みと聞き取りなど、総合的に学習する。希望者には仏検指導(4級及び5級レベル)も行う。

授業計画

1. オリエンテーション「買い物と挨拶」冠詞・名詞の性と数
2. 「友だちを紹介する」主語人称代名詞・前置詞と定冠詞
3. 語彙と基本的文法事項の確認、発音の基礎
4. 「第三者について話す」動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形
5. 「第三者について話す」否定文
6. 語彙と基本的文法事項の確認:形容詞の女性形と複数形の作り方、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
7. 「郵便局に行く」第一群規則動詞・指示形容詞
8. 「衣服を褒める」「一緒に昼食を取る」第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞
9. 語彙と基本的文法事項の確認:疑問詞、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
10. 「タクシーに乗る(どこに行くか、どこから来たか)」不規則動詞の活用・近接未来、近接過去
11. 「タクシーに乗る(時間を尋ねる、どのように行くか)」命令法・序数
12. 基本的文法事項の確認:前置詞、確認テスト(オーラル・筆記・聴取弁別)
13. 「レストランに行く(誕生日を祝う)」直接目的補語人称代名詞・比較級
14. 「レストランに行く(注文する)」間接目的補語人称代名詞・最上級

15. 映画鑑賞(フランス語)、基本的文法事項の確認:人称代名詞のまとめ・語順

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 5 と 6 は同時に履修すること。やむを得ない場合は、授業で進行したところを自分で学習する必要がある。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 6			11653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 1～4で暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解と口頭表現の使用を目指す。文法事項を確認しながら同時に文化にも触れ、フランス語やフランスについての理解を深める。

授業の概要

以下の計画に添って授業を進める。日常よく使用される会話文を講読、暗記する中で、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。会話内容に関するフランス語による質疑応答、文法の解説、数え歌、数字や時間の読みと聞き取りなど、総合的に学習する。仏検指導（4級及び5級レベル）も行う。

授業計画

1. オリエンテーション「買い物と挨拶」冠詞・名詞の性と数
2. 「友だちを紹介する」主語人称代名詞・前置詞と定冠詞
3. 語彙と表現、基本的文法事項の確認、発音の基礎
4. 「第三者について話す」動詞avoir・形容詞・人称代名詞強勢形
5. 「第三者について話す」否定文
6. 語彙と表現、基本的文法事項の確認：形容詞の女性形と複数形の作り方、確認テスト（オーラル・筆記・聴取弁別）
7. 「郵便局に行く」第一群規則動詞・指示形容詞
8. 「衣服を褒める」「一緒に昼食を取る」第二群規則動詞・所有形容詞・部分冠詞
9. 語彙と表現、基本的文法事項の確認：疑問詞、確認テスト（オーラル・筆記・聴取弁別）
10. 「タクシーに乗る（どこに行くか、どこから来たか）」不規則動詞・近接未来、近接過去
11. 「タクシーに乗る（時間を尋ねる、どのように行くか）」命令法・序数
12. 語彙と基本的文法事項の確認：前置詞、確認テスト（オーラル・筆記・聴取弁別）
13. 「レストランに行く（誕生日を祝う）」直接目的補語人称代名詞・比較級
14. 「レストランに行く（注文する）」間接目的補語人称代名詞・最上級

15. 映画鑑賞（フランス語）、基本的文法事項の確認：人称代名詞のまとめ・語順

準備学習

平日頃から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 5 と 6 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業で進化したところを自分で学習する必要がある。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 7			11657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れフランスについてより一層の理解を深め、至ってはフランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。

授業の概要

以下の計画に添って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題（5級及び4級レベル）、数え歌、数字の読みと聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また時間の許す限り、個別にフランス関連の調べ学習をし発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション「インタビューする」代名動詞
2. 「スポーツクラブに登録する」不定法の表現・疑問形容詞
3. 語彙と表現、文法事項の確認：主語 on、指示形容詞 ça、まとめ
4. 確認テスト（オーラル・筆記・聴取弁別）
5. 「映画館にて」複合過去 1
6. 「映画の後で」複合過去 2
7. 語彙と表現、文法事項の確認：否定の表現、まとめ
8. 確認テスト（オーラル・筆記・聴取弁別）
9. 「家族との会話」半過去・関係代名詞
10. 「メール」受動態・接続詞を使った表現
11. 語彙と表現、文法事項の確認：複合過去と半過去の使い分け、まとめ
12. 「訪問計画」単純未来
13. 映画鑑賞（フランス語）
14. 「家族との夕食」ジェロンドフィフ・感嘆文・代名詞 y, en
15. 「招待」「ヴァカンスの終わり」条件法と接続法、まとめ

準備学習

フランス語 5～6 で学習したことを復習しておくこと。また平日頃

から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 8			11661	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	1				

授業の到達目標

フランス語 5 と 6 で学習したことを継続する。暗記習得した会話文を基本に、より複雑な文章の理解や口頭表現の使用を目指す。文化にも触れフランスについてより一層の理解を深め、至ってはフランス渡航時にも使える程度の語学力を身に付けたい。

授業の概要

計画に記したテーマに添って授業を進める。日常よく使用される会話文を通して、既習表現や文法の確認をしつつ新たな単語や文型を習得する。仏検問題（5級及び4級レベル）、数え歌、数字や時間の読み・聞き取り、会話文の暗記、会話作成などは毎回の課題とする。また時間の許す限り、個別にフランス関連の調べ学習をし発表する機会を設ける。

授業計画

1. オリエンテーション「インタビューする」代名動詞
2. 「スポーツクラブに登録する」不定法の表現・疑問形容詞
3. 語彙と表現、文法事項の確認：主語の on・指示形容詞 ça、まとめ
4. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
5. 「映画館にて」複合過去 1
6. 「映画の後で」複合過去 2
7. 語彙と表現、文法事項の確認：否定の表現、まとめ
8. 確認テスト(オーラル、筆記、聴取弁別)
9. 「家族との会話」半過去・関係代名詞
10. 「メール」受動態・接続詞を使った表現
11. 語彙と表現、文法事項の確認：複合過去と半過去の使い分け、まとめ
12. 「訪問計画」単純未来
13. 映画鑑賞(フランス語)
14. 「家族との夕食」ジェロンディフ・感嘆文・代名詞 y, en
15. 「招待」「ヴァカンスの終わり」条件法と接続法、まとめ

準備学習

フランス語 5 ～ 6 で学習したことを復習しておくこと、また常日頃

から、フランス語及びフランス文化関連のニュースに関心をよせて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたすことになりかねないので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

テキスト及び授業内容が継続しているため、フランス語 7 と 8 は同時に履修するのが望ましい。やむを得ない場合は、授業の進行に合わせて各自の補習が必要である。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1	①/②		11665	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

国際化社会になり、中国語は益々重要になっているので、中国語ができることはいろいろな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず、発音から始まり、次に重要な語彙の使い方や語順を説明し、さらにこれらを実用的に使えるように多くの短文を読み書きしていく。

授業の概要

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順をゆっくり指導し、各単元で習ったことを身につけるために問題練習をさせる。

授業計画

1. 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2. 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音練習)
3. 日常よく使う挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4. 第一課 私は日本人です。(1) 単語、会話と文法の説明
5. 第一課 私は日本人です。(2) 応用会話と練習問題
6. 第二課 これは何ですか。(1) 単語、会話と文法の説明
7. 第二課 これは何ですか。(2) 応用会話と練習問題
8. 第三課 私は今日学校へ行きます。(1) 単語、会話と文法の説明
9. 第三課 私は今日学校へ行きます。(2) 応用会話と練習問題
10. 第四課 お会いできて、嬉しいです。(1) 単語、会話と文法の説明
11. 第四課 お会いできて、嬉しいです。(2) 応用会話と練習問題
12. 第五課 私達の学校は北京の西側にあります。(1) 単語、会話と文法の説明
13. 第五課 私達の学校は北京の西側にあります。(2) 応用会話と練習問題
14. 第六課 今日は昨日より暑いです。(1) 単語、会話と文法の説明
15. 第六課 今日は昨日より暑いです。(2) 応用会話と練習問題

準備学習

習った単元の単語や会話の文をしっかり覚えることと、これから習

う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

授業中は、発音の仕方に注意を傾け、声を出して練習する。しかし、私語は慎んでほしい。

授業以外にも、各自テープなどを繰り返し聴いて、重要な文章・語彙などを暗記するよう心がけてほしい。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2	①/②		11669	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自己の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深める。

授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 導入・発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 1. あなたは中国人ですか。
6. 1. あなたは中国人ですか。
7. 1. あなたは中国人ですか。
8. 2. これは何ですか。
9. 2. これは何ですか。
10. 2. これは何ですか。
11. 3. あなたはどこに行きますか。
12. 3. あなたはどこに行きますか。

13. 3. あなたはどこに行きますか。
14. 4. このバッグはいくらですか。
15. 4. このバッグはいくらですか。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語ははじめの一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3			11673	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

本授業は、「中国語1」において基礎を学んだ者が、実用的な文章の読解力を磨き、それを会話や作文に応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の文の構造や表現の仕方を正しく理解し、できるだけそれを丸暗記した上で、実際に話したり書いたりする練習を行う。

授業の概要

本授業でも、重要な語彙の発音をよく練習したうえで、使い方や語順を説明し、実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中、友達同士や先生との会話の練習ができ、充実した授業を行うことができる。

授業計画

1. 第七課 彼女は二回北京へ行ったことがあります。(1)単語、会話と文法の説明
2. 第七課 彼女は二回北京へ行ったことがあります。(2)応用会話と練習問題
3. 第八課 あなたはごはんを食べましたか。(1)単語、会話と文法の説明
4. 第八課 あなたはごはんを食べましたか。(2)応用会話と練習問題
5. 第九課 私は車の運転ができません。(1)単語、会話と文法の説明
6. 第九課 私は車の運転ができません。(2)応用会話と練習問題
7. 第十課 彼は今会議中です。(1)単語、会話と文法の説明
8. 第十課 彼は今会議中です。(2)応用会話と練習問題
9. 第十一課 あなたはいつ来たのですか。(1)単語、会話と文法の説明
10. 第十一課 あなたはいつ来たのですか。(2)応用会話と練習問題
11. 第十二課 辞書を持ってきてもらいますか。(1)単語、会話と文法の説明
12. 第十二課 辞書を持ってきてもらいますか。(2)応用会話と練習問題
13. 第十三課 先生の言ったことを私は全部聞いて分かりました。
14. 第十四課 あなたは魚を食べるのが好きですか、それとも肉を食

- べるのが好きですか。
15. 第十五課 中国語でどういいますか。

準備学習

習った単元の単語と会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

- 1) 常にテープを聴き、文章を読むこと。
- 2) 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみるようところがけること。
- 3) 分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 4) 私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4			11677	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

本授業は「中国語 2」に続き、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深める。

授業の概要

単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 復習・5. あなたは夜用事がありますか。
2. 5. あなたは夜用事がありますか。
3. 5. あなたは夜用事がありますか。
4. 6. あなたは食事をしましたか。
5. 6. あなたは食事をしましたか。
6. 6. あなたは食事をしましたか。
7. 7. あなたの家族は何人ですか。
8. 7. あなたの家族は何人ですか。
9. 7. あなたの家族は何人ですか。
10. 8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
11. 8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
12. 8. あなたは何時からアルバイトを始めますか。
13. 9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。
14. 9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。

15. 9. あなたはアメリカに行ったことがありますか。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

竹島金吾監修 尹景春・竹島毅著『中国語はじめての一步』 白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 5			11681	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読み、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにさせる。

授業の概要

授業前に予習してもらう。授業後熟読した上、同じテーマについての自分の実際の状況で会話の文章を書く練習させる。添削された会話を発表してもらう。このように同じテーマでも異なる内容のものをいくつも聞くことができ、話すこともできる。会話に求められる聞く力と話す力を養う。

授業計画

1. 第一課 発音の復習
2. 第二課 文法の復習(1)
3. 第二課 文法の復習(2)
4. 第三課 自己紹介(1)
5. 第三課 自己紹介(2)
6. 第四課 趣味(1)
7. 第四課 趣味(2)
8. 第五課 私の家(1)
9. 第五課 私の家(2)
10. 第六課 学校へ行く(1)
11. 第六課 学校へ行く(2)
12. 第七課 買い物(1)
13. 第七課 買い物(1)

14. 復習
15. 復習

準備学習

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 6			11685	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 導入・復習
2. 1. 北京に到着
3. 1. 北京に到着
4. 1. 北京に到着
5. 2. 道を尋ねる
6. 2. 道を尋ねる
7. 2. 道を尋ねる
8. 3. 買い物
9. 3. 買い物
10. 3. 買い物
11. 4. バスに乗る
12. 4. バスに乗る
13. 4. バスに乗る
14. 5. 新しい友達

15. 5. 新しい友達

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『2年生のコミュニケーション中国語』白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 7			11689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
坂口 文馨	選択	1				

授業の到達目標

自信を持ってもっと読める、書ける、聞ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い、聞いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。

授業の概要

内容に基づいてもっと多くの質問をし答えてもらうように、聞くことと話すことの練習をさせる。また、書いた作文を添削してもらった後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をし翻訳の力を養う。

授業計画

1. 第八課 料理を注文する(1)
2. 第八課 料理を注文する(2)
3. 第九課 道を尋ねる(1)
4. 第九課 道を尋ねる(2)
5. 第十課 電話をかける(1)
6. 第十課 電話をかける(2)
7. 第十一課 大学祭(1)
8. 第十一課 大学祭(2)
9. 第十二課 私の夢(1)
10. 第十二課 私の夢(2)
11. 第十三課 早く春休みになれ(1)
12. 第十三課 早く春休みになれ(2)
13. 第十四課 北京にて(1)
14. 第十四課 北京にて(2)

15. 第十五課 復習

準備学習

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校則に従う。

テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

留意事項

いつも予習と復習をすること。
積極的に授業に参加し、もっともっと聞ける、話せるように努力すること。
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。
私語に慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 8			11693	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
沈 竑	選択	1				

授業の到達目標

一年生で学んだ中国語の基礎力をさらにレベルアップし、より実践的なコミュニケーションができるようにトレーニングを行う。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介する。

授業の概要

テーマごとに重要な語彙の発音をよく練習し、使い方や語順を説明する。そのうえ、新しい表現を徐々に加え、口や耳を使って繰り返し練習することによって、コミュニケーションが一層スムーズにできるようにする。さらに、学習したものの実用化を目指すために、ペアやグループで発表を行う。

授業計画

1. 復習
2. 6. 外食
3. 6. 外食
4. 6. 外食
5. 7. 約束
6. 7. 約束
7. 7. 約束
8. 8. 友達に電話する
9. 8. 友達に電話する
10. 8. 友達に電話する
11. 9. 郵便局
12. 9. 郵便局
13. 9. 郵便局
14. 1 0. 医者に行く

15. 1 0. 医者に行く

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

校則に従う。

テキスト

塚本慶一監修 劉穎著『2年生のコミュニケーション中国語』白水社

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

授業へ積極的に参加すること。

現代人間学部 英語キャリア学科
専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ／日本語話者の英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる

授業の概要

演習Iではまず日本語音声を中心に、音についての基本的な事項を実践的に学ぶ。さらにその基本的な知識を基に、さまざまな音声の現象を観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる方法を学ぶ。

授業計画

1. 発音の単位と表記 1)
2. 発音の単位と表記 2)
3. 発音の単位と表記 3)
4. 発音の単位と表記 4)
5. 発音の単位と表記 5)
6. 発音の単位と表記 6)
7. 発音の単位と表記 7)
8. まとめ 1)
9. 日本語話者の英語を観察する 1)
10. 日本語話者の英語を観察する 2)
11. 日本語話者の英語を観察する 3)
12. 日本語話者の英語を観察する 4)
13. 日本語話者の英語を観察する 5)
14. まとめ 2)
15. まとめ 3)

準備学習

英語の発音・発話の基礎を理解していること。また発音を客観的に観察する目と耳を準備しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週(金)までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

町田健編, 猪塚元・猪塚恵美子著, 『日本語音声学のしくみ』, 研究社.

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そして、それらを使う人々に対する正しい態度を養う。

授業の概要

社会言語学の演習である。多言語社会に暮らす人々は日常どのようにして言語を使い分けるのか、共通の言語をもたない人同士がコミュニケーションを図ろうとすると、どのようなことばが生まれるのか、ことばの標準変種と非標準変種に対して人々はどのような価値観をもつのか、ことばと社会階級差はどのように関係しているのかなどといったテーマを扱う。演習Iでは、言語の選択と言語のバリエーションに焦点を当て、ダイグロッシア(二言語変種使い分け)、コードスイッチング、ビジンとクレオール、地域方言、社会方言などについて学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員で討論を行う。

授業計画

1. 社会言語学とはなにか
2. 多言語社会、ダイグロッシア
3. ドメイン、外来語
4. コードスイッチング(1)
5. コードスイッチング(2)
6. 言語の死
7. ビジンとクレオール(1)
8. ビジンとクレオール(2)
9. レポート・論文の書き方(1)
10. レポート・論文の書き方(2)
11. ウィリアム・ラボフの古典的研究
12. 地域方言
13. World Englishes
14. 社会方言
15. 黒人英語

準備学習

テキストの第1章を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東 照二著『社会言語学入門(改訂版)―生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)

参考図書

リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』(南雲堂)
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待―社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房)

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

日本語音声と英語音声の特徴を学ぶ／日本語音声または英語音声の特徴について研究し、レポートにまとめる

授業の概要

演習Iに引き続き、日本語と英語の音声を対象とした研究を行う。特に聞き間違いが起こる理由や発音の変化・変遷、アクセントの特徴について学び、第二言語として英語学習をする際に、母語である日本語の音韻体系がどのように弊害となり得るかを考察する。さらに、研究したことについてレポートにまとめる方法を学ぶ。発表や討論を通して自分で考え、それを自分のことばで表現する力を伸ばしてほしい。また卒業論文執筆のためのテーマを探し、文献を収集する方法を学ぶ。

授業計画

1. 課題発表
2. 比較して考える 1)
3. 比較して考える 2)
4. 比較して考える 3)
5. 発音の変化 1)
6. 発音の変化 2)
7. 発音の変化 3)
8. まとめ 1)
9. アクセント 1)
10. アクセント 2)
11. アクセント 3)
12. アクセント 4)
13. アクセント 5)
14. まとめ 2)

15. まとめ 3)

準備学習

普段から日本語話者、英語話者の発音を客観的に観察すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認すること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週(金)までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

町田健編, 猪塚元・猪塚恵美子著, 『日本語音声学のしくみ』, 研究社.

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語変種やそれらを使う人々に対する正しい態度を養う。

授業の概要

演習Ⅱでは、言語のバリエーションや社会言語学の理論等に焦点を当て、男女の会話スタイル、年齢と言語、スピーチ・アコモデーション(相手によって話し方を変えること)、ポライトネス・ストラテジー等について学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、全員で討論を行う。また、演習Ⅱの最後に、各々の研究について発表を行う。

授業計画

1. レポートの書き方
2. 男言葉、女言葉(1)
3. 男言葉、女言葉(2)
4. 男女の会話のスタイル(1)
5. 男女の会話のスタイル(2)
6. 年齢と言語(1)
7. 年齢と言語(2)
8. オーディエンス・デザイン(1)
9. オーディエンス・デザイン(2)
10. スピーチ・アコモデーション(1)
11. スピーチ・アコモデーション(2)
12. ポライトネス・ストラテジー(1)
13. ポライトネス・ストラテジー(2)
14. 研究発表(1)
15. 研究発表(2)

準備学習

「男言葉、女言葉」「年齢と言語」について、日本語にはどのような特徴がみられるか考えておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東 照二著『社会言語学入門(改訂版)―生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)

参考図書

中尾俊夫他著『社会言語学概論―日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』(くろしお出版)
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』(南雲堂)
真田信治他著『社会言語学』(おうふう)
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待―社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房)

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

英語音声の特徴、特に音節・語強勢・文のリズムの特徴を理解する／各自の卒業論文のテーマに沿った調査を進める

授業の概要

演習Ⅰ、Ⅱに引き続き、英語の音声を対象とした研究を行う。テキスト、文献等から得られた情報を基に、英語音声の特徴について考察をし、レポートにまとめる。発表や討論を通して自分で考え、それを自分のことばで表現する力を伸ばしてほしい。また卒業論文執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集をする方法を学ぶ。

授業計画

- 音素 1)
- 音素 2)
- 音素 3)
- 音節構造 1)
- 音節構造 2)
- 音節構造 3)
- 音節構造 4)
- まとめ 1)
- 語のアクセント 1)
- 語のアクセント 2)
- 語のアクセント 3)
- 文のリズム 1)
- 文のリズム 2)
- 文のリズム 3)
- まとめ 2)

準備学習

日本語話者、英語話者の発音を客観的に観察すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 欠席日の提出物は、当該週(金)までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

Philip Carr著、竹林滋・清水あつ子訳、『英語音声学音韻論入門』、研究社。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する理解を深め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を養う。

授業の概要

社会言語学及びその周辺のテーマを扱う。ことばと力や仲間意識との関係、異文化間コミュニケーション、言語政策等について学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、討論を行う。また、演習Ⅲの最後に、各々の卒業研究について発表を行う。

授業計画

- 卒業研究について
- 力と仲間意識(1)
- 力と仲間意識(2)
- 法律と言葉
- 精神療法の英語
- セクシスト・ランゲージ(1)
- セクシスト・ランゲージ(2)
- 異文化間コミュニケーション(1)
- 異文化間コミュニケーション(2)
- 異文化間コミュニケーション(3)
- 言語政策(1)
- 言語政策(2)
- 研究発表(1)
- 研究発表(2)
- 研究発表(3)

準備学習

演習Ⅰで配布した「論文・レポートの参考文献記載方法」を読んで、論文の書き方を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東 照二著『社会言語学入門(改訂版)―生きた言葉のおもしろさに迫る』(研究社)

参考図書

中尾俊夫他著『社会言語学概論―日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』(くろしお出版)
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』(南雲堂)
真田信治他著『社会言語学』(おうふう)
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待―社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房)

留意事項

- 平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- 毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学のキャンノンとなっている、ジェイン・オースティンの『高慢と偏見』(Pride and Prejudice)を一つの素材として、文学のみならず、たとえばイギリスの社会と文化、フェミニズム、比較文学、異文化理解、映像芸術との比較等、学際的に自分の関心あるテーマを見つけて研究する。

授業の概要

授業では、講義のみならず、Pride and Prejudice をテーマにした Rapid Readingを通して、またこの小説のCD、DVD等の視聴覚教材を活用して、英語の4分野のスキル「読み、聞く、話す、書く」の実践力を養成する。

『高慢と偏見』を一つの素材として、まずは楽しみ、次に自分で感じ、考えてさまざまな研究のアプローチをする。またプレゼンテーション等の自己表現能力の養成にも重きをおくので、ゼミでは積極的に知の冒険を試みることを。

授業計画

1. Introduction
2. Theme (1) イギリスの社会と文化
3. Theme (2) フェミニズム
4. Theme (3) 比較文学
5. Theme (4) 異文化比較
6. Theme (5) 映像芸術との比較
7. Jane Austen: then and now
8. Love and marriage in Regency England
9. Socialising in Regency England
10. Self- Study Activities
11. Rapid Reading (1) プレゼンテーション(1)
12. Rapid Reading (2) プレゼンテーション(2)
13. Rapid Reading (3) プレゼンテーション(3)
14. 研究発表 まとめ
15. 総括

準備学習

必ず予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- ①欠席・遅刻については一定の比率で減点する。
- ②授業には、必ず予習をして臨むこと。

テキスト

Jane Austen, *Pride and Prejudice* CD付 London: Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

翻訳書は、『高慢と偏見』(岩波文庫)、『自負と偏見』(新潮文庫)等、多数あるので、できれば読んでおくこと。その他の参考図書に関しては、授業中に随時、指示する。

留意事項

発表者のレポートを聞く場合には、聞いたままにせず、積極的に質問などして活発に意見交換を行うことによって議論を発展させていくスキルの養成を目指す。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石原 敬子	必修	2				

授業の到達目標

英語音声の特徴、特にイントネーションやアクセントの違いに見られる特徴を理解する／文献を読み、要約する／各自の卒業論文のテーマに沿った調査を進める

授業の概要

テキスト以外に研究論文や文献を講読し、英語のイントネーションやアクセントの違いに見られる特徴について研究をしながら、論文の形式を確認する。同時に、各自の卒業論文の研究テーマについての発表および討論を通して、さまざまな視点から音声・ことばについての理解を深める。発表や討論を通して自分で考え、それを自分のことばで表現する力を伸ばしてほしい。

授業計画

1. イントネーション 1)、卒業論文に関する確認 1)
2. イントネーション 2)
3. イントネーション 3)
4. イントネーション 4)
5. アクセント 1)
6. アクセント 2)
7. アクセント 3)
8. アクセント 4)
9. まとめ 1)
10. 文献講読と要約 1)
11. 文献講読と要約 2)
12. 文献講読と要約 3)
13. まとめ 2)、卒業論文に関する確認 2)
14. 卒業論文に関する発表 1)
15. 卒業論文に関する発表 2)

準備学習

日本語話者、英語話者の発音を客観的に観察すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。
- 3) 欠席日の提出物は、当該週(金)までに提出の場合100%で採点、翌週提出の場合20%引きで採点する。

テキスト

Philip Carr著、竹林滋・清水あつ子訳、『英語音声学音韻論入門』、研究社。

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	必修	2				

授業の到達目標

ことばに対する関心を高め、様々な言語や言語変種、そしてそれらを使う人々に対する正しい態度を育てるとともに、学問への探究心を養う。

授業の概要

演習Ⅰ～Ⅲで扱ったテーマを復習し、さらに詳しく学ぶ。毎回担当者がその日のテーマについて発表した後、討論を行う。演習Ⅳの後半では、各々の卒業研究についての発表を行う。

授業計画

1. 卒業研究について
2. 外来語
3. 若者ことば
4. 男女の会話スタイル
5. ポライトネス・ストラテジー
6. スピーチ・アコモデーション
7. 言語態度
8. 異文化間コミュニケーション
9. 卒業研究について
10. 研究発表 1 (1)
11. 研究発表 1 (2)
12. 研究発表 2 (1)
13. 研究発表 2 (2)
14. 研究発表 3 (1)
15. 研究発表 3 (2)

準備学習

上に挙げたテーマのうち、外来語と若者ことばに関する文献を探し

ておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

東 照二著『社会言語学入門（改訂版）—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社）

参考図書

中尾俊夫他著『社会言語学概論—日本語と英語の例で学ぶ社会言語学』（くろしお出版）
リチャーズ他編『ロングマン応用言語学辞典』（南雲堂）
真田信治他著『社会言語学』（おうふう）
田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待—社会・文化・コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、研究発表、出席状況、日頃の学習態度等の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席するだけでなく、積極的に発言することで授業に参加・貢献してほしい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	必修	2				

授業の到達目標

英文学のキャノンであり、また現代でも依然、イギリス公立図書館での人気第3位を誇っているシャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』を一つの素材として、文学のみならず、イギリス社会の文化、比較文化等、学際的に自分の関心あるテーマを見つけて研究、発表する。

授業の概要

授業では、上記の目標を達成するようなカリキュラムにそって演習を進めるが、同時に『ジェイン・エア』の Rapid Reading用の英文テキストを通し、またこの小説のCD、DVD等を活用して、英語の4つのスキルである「読み、聞く、話す、書く」の実践的英語能力を養う。さらにこれらと併行して、卒業研究に必要な、テーマ設定、ブレインストーミング、文献調査・資料収集、ノートテイキング、わかりやすく伝えるための日本語表現・文章構成等について演習を行う。

授業計画

1. Introduction
2. Rapid Reading (Presentation) (1)
3. Rapid Reading (Presentation) (2)
4. Rapid Reading (Presentation) (3)
5. 「卒業研究」について
6. テーマ設定
7. ブレインストーミング
8. 文献調査・資料収集
9. ノートテイキング
10. 日本語表現
11. 文章構成
12. 研究発表 (ディスカッション) (1)
13. 研究発表 (ディスカッション) (2)
14. 研究発表 (ディスカッション) (3)
15. 総括

準備学習

特に自分が発表する場合には、要領よくまとめ、効率のよいプレゼンテーションのしかたを工夫すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- ①欠席・遅刻については一定の比率で減点する。
- ②授業には、必ず予習をして臨むこと。

テキスト

Charlotte Brontë, *Jane Eyre* CD付 London: Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

翻訳書『ジェイン・エア』（岩波文庫）等、多数あるので読んでおくこと。その他の参考図書については、随時、授業時に指示、紹介する。

留意事項

発表者のレポートを聞く場合は、聞いたままにせず、積極的に質問などして活発に意見交換を行うこと。それにより議論を発展させていくスキルの養成を目指す。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication I	a/b/c	13201	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L/Shawn M. HOWARD/Angus HALL/James G. WONG	必修	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from a basic level of English and progress towards English at an elementary level.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Jobs and Occupations
3. Countries Around the World
4. Family
5. Feelings
6. Clothes and Colours
7. Food and Drink
8. Review
9. Time
10. Special days and Events
11. Daily Activities
12. Daily Activities
13. Hotels and Restaurants
14. Transport
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Starter, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication II	a/b/c	13205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/James G. WONG/L/Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from a basic level of English and progress towards English at an elementary level.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7-Holidays
3. Unit 7, cont.
4. Unit 8-The Present
5. Unit 8, cont.
6. Unit 9-Transport
7. Unit 9, cont.
8. Review
9. Unit 10-The Future
10. Unit 10, cont.
11. Unit 11-Health
12. Unit 11, cont.
13. Unit 12-Present Perfect 1
14. Unit 12-Present Perfect 2
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook (especially units 1-6) before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing I	a/b/c	13210	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD/担当者未定	選択	1			

授業の到達目標

At the end of this course it is expected that the students will be able to write coherent sentences and paragraphs and will have developed their competencies in the various reading styles.

授業の概要

The purpose of this class is to develop students' abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: How did you get your name?
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: What is a good job?
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Why do people immigrate to other countries?
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: What are the benefits of positive thinking?
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Why is vacation important?
12. Unit 5: continued
13. The Topic Sentence
14. Effective letter writing
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Reading and Writing, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading/Writing II	a/b/c	13214	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/Angus HALL/担当者未定	選択	1			

授業の到達目標

At the end of this course it is expected that the students will have further developed their abilities to write coherent sentences and paragraphs and in using the various reading styles.

授業の概要

The purpose of this class is to continue to develop students' abilities in both of these skills and to develop their awareness that reading and writing are inextricably linked to each other.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 6: Who makes you laugh?
3. Unit 6: continued
4. Unit 7: How does music make you feel?
5. Unit 7: continued
6. Effective paragraph writing 1
7. Effective paragraph writing 2
8. Review
9. Unit 8: Is it ever OK to lie?
10. Unit 8: continued
11. Unit 9: How are children and adults different?
12. Unit 9: continued
13. Unit 10: What are you afraid of?
14. Unit 10: continued

15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook, especially Units 1 to 5, before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Q: Skills for Success Reading and Writing, Lynn, Oxford

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar I	a/b/c	13225	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子/服部 幸正/平野 真理子	必修	1			

授業の到達目標

英語の話し方や書き方の一般的なまきを学ぶことにより、自分の考え等を正確かつ適切な英語で表現するとともに、話し手や書き手の意向等を的確に把握することができるようにする。

授業の概要

英語のコミュニケーション能力を向上させるには、文法規則の習得が不可欠である。授業ではまず、英語の基礎をしっかりと固めるために、中学校・高等学校で習った文法事項を一から復習する。次に、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを解説と練習を通して学ぶ。

授業計画

1. Section 1 be動詞とhave
2. Section 1 be動詞とhave
3. Section 2 現在時制
4. Section 2 現在時制
5. Section 3 未来を表す表現
6. Section 3 未来を表す表現
7. Section 4 過去時制
8. Section 4 過去時制
9. Section 5 完了形
10. Section 5 完了形
11. Section 5 完了形
12. Section 6 助動詞
13. Section 6 助動詞
14. Section 7 受動態
15. Section 7 受動態

準備学習

中学校・高等学校で習った文法事項をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートA：動詞と時制（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習用教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar II	a/b/c	13229	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
服部 幸正/平野 真理子/小野 礼子	必修	1			

授業の到達目標

英語の話し方や書き方の一般的なまきを学ぶことにより、自分の考え等を正確かつ適切な英語で表現するとともに、話し手や書き手の意向等を的確に把握することができるようにする。

授業の概要

英語のコミュニケーション能力を向上させるには、文法規則の習得が不可欠である。授業ではまず、英語の基礎をしっかりと固めるために、中学校・高等学校で習った文法事項を一から復習する。次に、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを解説と練習を通して学ぶ。

授業計画

1. パートA Section 8 疑問文と否定文
2. パートA Section 8 疑問文と否定文
3. パートA Section 9 不定詞と-ing形
4. パートA Section 9 不定詞と-ing形
5. パートA Section 10 動詞を用いた様々な表現
6. パートA Section 10 動詞を用いた様々な表現
7. パートB Section 1 冠詞
8. パートB Section 1 冠詞
9. パートB Section 2 限定詞
10. パートB Section 2 限定詞
11. パートB Section 2 限定詞
12. パートB Section 3 人称代名詞
13. パートB Section 3 人称代名詞
14. パートB Section 4 名詞
15. パートB Section 4 名詞

準備学習

Grammar Iの復習をしておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートA：動詞と時制（旺文社）
- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に指示する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習用教材として本科目以外でもどんどん活用してほしい。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation I	a/b	13233	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子/L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

Study the aspects of English rhythm—word stress, sentence stress, and sentence focus—and learn how to pronounce the sounds of English more clearly.

授業の概要

This course will help the students learn how to pronounce the sounds of English more clearly so they can be understood and will also help them understand what other people say to them in English. In order to achieve the goal, the students will listen to the classmates as well as the material and the instructor's English and practice saying simple sentences with the right rhythm and melody. The students will also learn ways to guess the pronunciation of a written word. All of this will help them to communicate more easily and more clearly in English.

授業計画

1. Introduction
2. Syllables
3. Vowels and Word Stress 1)
4. Vowels and Word Stress 2)
5. Vowels and Word Stress 3)
6. Vowels and Word Stress 4)
7. Sentence Stress 1)
8. Sentence Stress 2)
9. Review

10. Sentence Focus 1)
11. Sentence Focus 2)
12. Sentence Focus 3)
13. Sentence Focus 4)
14. Summary 1)
15. Summary 2)

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) As continual efforts are essential, four points are subtracted per absence. 2) When you are absent, it is your responsibility to check whether there is any assignment given.

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech*, CUP.

留意事項

You need to repeatedly listen to and read out the materials in order to improve your English. Do not be shy.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation II	a/b	13237	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/石原 敬子	必修	1			

授業の到達目標

Study the aspects of English consonants and other features of English sounds for better communication.

授業の概要

This course will help the students learn how to pronounce the sounds of English more clearly so they can be understood and will also help them understand what other people say to them in English. In order to achieve the goal, the students will listen to the classmates as well as the material and the instructor's English and practice saying simple sentences with the right rhythm and melody. The students will also learn ways to guess the pronunciation of a written word. All of this will help them to communicate more easily and more clearly in English.

授業計画

1. Review from Pronunciation I
2. Consonants 1)
3. Consonants 2)
4. Consonants 3)
5. Consonants 4)
6. Consonants 5)
7. Review
8. Preparation for the English Festival 1)
9. Thought Groups 1)
10. Thought Groups 2)

11. Intonation 1)
12. Intonation 2), Prep. for the English Festival 2)
13. Intonation 3), Prep. for the English Festival 3)
14. Summary 1), Prep. for the English Festival 4)
15. Summary 2), Prep. for the English Festival 5)

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) As continual efforts are essential, four points are subtracted per absence. 2) When you are absent, it is your responsibility to check whether there is any assignment given.

テキスト

Judy B. Gilbert, *Clear Speech*, CUP.

留意事項

You need to repeatedly listen to and read out the materials in order to improve your English. Do not be shy.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication III	a/b	13241	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable the students to move from high-beginner and progress towards English at a pre-intermediate level.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication IV	a/b	13245	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/Angus HALL	必修	1			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable the students to move from high-beginner and progress towards English at a pre-intermediate level.

授業の概要

The object of this course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and small groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7: Holidays
3. Unit 7: continued
4. Unit 8: Present Tenses
5. Unit 8: continued
6. Unit 9: Transport
7. Unit 9: continued
8. Review
9. Unit 10: Future Forms 1
10. Unit 10: Future Forms 2
11. Unit 11: Health
12. Unit 11: continued
13. Unit 12: Present Perfect 1
14. Unit 12: Present Perfect 2
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Elementary, Eales/Oakes, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading III	a/b/c	13249	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子／平野 真理子／高谷 華	必修	1			

授業の到達目標

世界各国の文化、地理、社会的なテーマ、サイエンス、アドベンチャーなどの幅広い分野を題材にした英文を読みながら語彙力と読解力を深めていく。取り扱うテーマに必要な英語表現やキーワードは確実に習得することを目標とする。さらに、単に英文の内容を理解するだけでなく、現代人として問題意識を持ち自らの考えを明確にすることも目指す。

授業の概要

ナショナルジオグラフィックの写真や映像を併用しながら様々なテーマや社会問題について英文を読み進める。英文を読む際の準備として確認クイズやディスカッションを行う。精読後は英文の構造や内容に関しての問題を解きながらリスニングの方面からも理解を深める。

授業計画

1. Introduction
2. UNIT 1A
3. UNIT 1B
4. UNIT 2A
5. UNIT 2B
6. UNIT 3A
7. UNIT 3B
8. REVIEW 1
9. UNIT 4A
10. UNIT 4B
11. UNIT 5A

12. UNIT 5B
13. UNIT 6A
14. UNIT 6B
15. REVIEW 2

準備学習

必ず予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Reading Explorer 4 (a class)
Reading Explorer 3 (b class)
Reading Explorer 2 (c class)

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading IV	a/b/c	13253	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／入江 和子／高谷 華	必修	1			

授業の到達目標

春学期に引き続き、世界各国の文化、地理、社会的なテーマ、サイエンス、アドベンチャーなどの幅広い分野を題材にした英文を読みながら語彙力と読解力を深めていく。取り扱うテーマに必要な英語表現やキーワードは確実に習得することを目標とする。さらに、単に英文の内容を理解するだけでなく、現代人として問題意識を持ち自らの考えを明確にすることも目指す。

授業の概要

ナショナルジオグラフィックの写真や映像を併用しながら様々なテーマや社会問題について英文を読み進める。英文を読む際の準備として確認クイズやディスカッションを行う。精読後は英文の構造や内容に関しての問題を解きながらリスニングの方面からも理解を深める。

授業計画

1. UNIT 7A
2. UNIT 7B
3. UNIT 8A
4. UNIT 8B
5. UNIT 9A
6. UNIT 9B
7. REVIEW 1
8. UNIT 10A
9. UNIT 10B
10. UNIT 11A

11. UNIT 11B
12. UNIT 12A
13. UNIT 12B
14. REVIEW 2
15. REVIEW 3

準備学習

必ず予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Reading Explorer 5 (a class)
Reading Explorer 3 (b class)
Reading Explorer 2 (c class)

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing III	a/b	13257	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/Angus HALL	必修	1			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will have a firm knowledge of well-formed English paragraphs. They will be able to describe actions in the present, and write about the future.

授業の概要

Through rigorous classroom activities, the students will hone their skills in writing academic paragraphs in English. Homework assignments will also aid students in increasing their writing fluency.

授業計画

1. Unit 1 What is a Paragraph?
2. Unit 1 Continued
3. Unit 1
4. Unit 2 Developing Ideas for Writing a Paragraph
5. Unit 2 Continued
6. Unit 3 The Topic Sentence
7. Unit 3 Continued
8. Unit 4 Supporting and Concluding Sentences
9. Unit 4 Continued
10. Unit 5 Paragraph Review
11. Unit 5 Continued
12. Unit 6 Definition Paragraphs
13. Unit 6 Continued
14. Unit 6
15. Review

準備学習

Review material from Writing I and II A.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Great Writing 2: Great Paragraphs by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Elena Vestri Solomon.

参考図書

Great Writing 2: Great Paragraphs by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Vestri Solomon, Cengage

留意事項

This course will be taught entirely in English.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing IV	a/b	13261	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will have developed their writing skills from simple sentences to full paragraphs.

授業の概要

Through rigorous in-class writing activities and homework assignments, students will develop their writing skills from simple sentences to full paragraphs.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 7, Explanations and Excuses
3. Unit 7, cont.
4. Unit 8, Problems
5. Unit 8, cont.
6. Unit 9, Strange Stories
7. Unit 9, cont.
8. Review
9. Unit 10, Differences
10. Unit 10, cont.
11. Unit 11, Difficult Decisions
12. Unit 11, cont.
13. Unit 12, Fate or Choice?
14. Unit 12, cont.
15. Prepare for exam

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Paragraph Writing: From Sentence to Paragraph, Zemach/ Islam, Macmillan.

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar III	a/b	13265	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／惣谷 美智子	必修	1			

授業の到達目標

実際のコミュニケーションにおいて、文法の知識を有効に用いて自分の考え等を正確かつ適切に表現するとともに、話し手や書き手の意向等を正しく理解することができるようにする。

授業の概要

中学校・高等学校で習った文法事項を復習する。また、言語使用に焦点を当て、それらの文法事項が実際のコミュニケーションやエッセイなどの書き言葉においてどのように使われるかを解説と練習を通して学ぶ。

授業計画

1. Section 5 形容詞と副詞
2. Section 5 形容詞と副詞
3. Section 5 形容詞と副詞
4. Section 6 接続詞
5. Section 6 接続詞
6. Section 7 ifを使った文、仮定法
7. Section 7 ifを使った文、仮定法
8. Section 8 関係代名詞
9. Section 8 関係代名詞
10. Section 8 関係代名詞
11. Section 9 話法
12. Section 9 話法
13. Section 10 前置詞
14. Section 10 前置詞
15. Section 11 話し言葉の文法

準備学習

中学校・高等学校で習った文法事項をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

- ・『スワンとウォルターのオックスフォード実用英文法』パートB：修飾と接続（旺文社）
- ・必要に応じてハンドアウトを配布する。

留意事項

- ・平常点には、小テスト、宿題、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・欠席や遅刻により受けなかった小テスト等は原則として0点とする。
- ・テキストは参考書・自習教材として本科目以外でもどンドン活用してほしい。

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation III	a/b	13269	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子／L'Shawn M. HOWARD	必修	1			

授業の到達目標

Practice and learn the aspects of English sounds through practical and theoretical study.

授業の概要

This course will help the students learn how to pronounce the sounds of English more clearly so they can be understood and will also help them understand what other people say to them in English. The main focus will be put on the melody of English; stress, rhythm and intonation. In order to achieve the goal, the students will repeatedly listen to the classmates, material and the instructor's English and practice reading sentences. All of this will help them to communicate more easily and more clearly in English.

授業計画

1. Review and Introduction
2. Suprasegmental Features 1)
3. Suprasegmental Features 2)
4. Suprasegmental Features 3)
5. Suprasegmental Features 4)
6. Suprasegmental Features 5)
7. Review
8. Segmental Features 1)
9. Segmental Features 2)
10. Segmental Features 3)
11. Segmental Features 4)

12. Segmental Features 5)
13. Summary 1)
14. Summary 2)
15. Summary 3)

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1) As continual efforts are essential, four points are subtracted per absence. 2) When you are absent, it is your responsibility to check whether there is any assignment given.

テキスト

Beverly Beisbier, *Sounds Great, Book 1*, Thomson.

留意事項

You need to repeatedly listen to and read out the materials in order to improve your English. Do not be shy.

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語 I	a/b	13270	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子／平野 真理子	必修	1			

授業の到達目標

世界各地の観光地について、英文で読み進める。観光スポットの名称や歴史的背景だけではなく、観光に関する語彙や慣用表現も確実に習得することを旨とする。

授業の概要

世界各地の観光地の場所や歴史的背景を学習しながら、英語でキーワードが書けるように毎回小テストを実施する。また現地での人のインタビューを通じ、各国の英語(World Englishes)事情を知り、その特徴について学習しながら文化的、言語的に理解を深めてゆく。並行して観光英検3級の対策も行う。

授業計画

1. Chapter 1 INDIA
2. Chapter 2 PHILIPPINES
3. Chapter 3 THAILAND
4. Chapter 4 VIETNAM
5. Chapter 5 KOREA
6. Chapter 6 FRANCE
7. Chapter 7 ITALY
8. Chapter 8 DENMARK
9. Chapter 9 PORTUGAL
10. Chapter 10 TURKEY
11. Chapter 11 EGYPT
12. Chapter 12 SOUTH AFRICA
13. Chapter 13 BRAZIL
14. Chapter 14 PERU

15. Chapter 15 GUATEMALA

準備学習

毎回必ず指示された箇所の予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする

テキスト

World Adventures, KINSEIDO

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語 II	a/b	13271	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／入江 和子	必修	1			

授業の到達目標

観光分野に必要な知識と言える各地の世界遺産について、英文で読み進める。各地の名称や歴史的背景だけではなく、観光に関する語彙や慣用表現も確実に習得することを旨とする。

授業の概要

テキストを読み進めながら、各地の世界遺産に関して学ぶ。DVDを通じて実際の世界遺産を目にすることでより理解が深まり、興味が増すと言える。毎回の授業では、読む、聞く、話す、書く、の4技能の習得を目指しながら、並行して観光英検2級の対策も行う。

授業計画

1. Introduction
2. UNIT 1 Statue of Liberty, USA
3. UNIT 2 Forbidden City, China
4. UNIT 3 Bath, England
5. UNIT 4 Canadian Rockies, Canada
6. UNIT 5 The Pyramids, Egypt
7. UNIT 6 Ayutthaya, Thailand
8. UNIT 7 Edinburgh Castle, Scotland
9. UNIT 8 Machu Picchu, Peru
10. UNIT 9 Taj Mahal, India
11. UNIT 10 Te Wahipounamu, New Zealand
12. UNIT 11 Shirakawa-go, Japan
13. UNIT 12 Cappadocia, Turkey
14. UNIT 13 Blue Mountains, Australia

15. UNIT 14 Persepolis, Iran

準備学習

毎回必ず指示された箇所の予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき2点減点とする

テキスト

World Heritage on DVD, NAN'UN-DO

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石丸 脩子	必修	2				

授業の到達目標

ホスピタリティは人間精神に関わるもので、人に幸せを与えるものである。その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするとする人間愛が基本にある。本講では、ホスピタリティ精神を各自が身につけることを目指す。

授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の意味、語源とそのキリスト教の起源について学ぶ。次にこの概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きる私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、茶道という局面から学ぶ。最後に現代のホスピタリティ産業の代表であるディズニーランドにおけるホスピタリティの実践を検討する。

授業計画

1. ホスピタリティの多様な意味
2. ホスピタリティの語源と聖書における起源
3. 聖書に見られるホスピタリティ精神
4. 古代西洋、キリスト教、イスラム教のホスピタリティ文化
5. 古代東洋のホスピタリティ文化—儒教とヒンドゥー教
6. 私はホスピタリティをどのように生きるか
7. 日常生活におけるホスピタリティ—親と子の関係
8. 「おくりびと」に見るホスピタリティ
9. 日本のホスピタリティ文化 「もてなし」の語源
10. 日本のホスピタリティ文化 茶道

11. 日本のホスピタリティ文化 もてなし文化の歴史
12. 日本の慣習とホスピタリティ 慶事におけるホスピタリティ
13. 日本の慣習とホスピタリティ 葬儀および祭りにおけるホスピタリティ
14. ディズニーランドにおけるホスピタリティ
15. ホスピタリティ精神論のまとめ

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の通常欠席につき、5点減点する。

テキスト

授業中にプリントを配布する。

参考図書

ヘンリ・J. M. ナウウェン『差し伸べられる手』（女子パウロ会、2006年）
服部勝人『ホスピタリティ学のすすめ』（丸善株式会社、2008年）
塹江隆『ホスピタリティと観光産業』（文理閣、2008年）

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

日本語から英語、あるいは英語から日本語への翻訳・通訳のプロセスを通して、2言語間に特徴的な表現や発想を具体的に比較、対照しながら、翻訳・通訳の理論と実践を学ぶ。授業では、単なる語彙の置き換えではなく、多文化間コミュニケーションとしての翻訳・通訳の理論と実践的スキルの練磨を目指す。

授業の概要

翻訳論では、翻訳はクリエイティブな作業であるという認識のもと、従来の「英文和訳」と「翻訳」の違い、また翻訳する場合、必要になる発想の転換のしかたを具体的に学ぶ。講義の実践として授業計画にそってさまざまな課題の演習を行う。

授業計画

1. introduction
2. Lesson 1&2
3. Lesson 3
4. Lesson 4
5. Lesson 5
6. Lesson 6
7. Lesson 7
8. Lesson 8
9. Lesson 9
10. Lesson 10
11. Lesson 11
12. Lesson 12

13. Lesson 13
14. Lesson 14
15. Lesson 15

準備学習

授業で、次回までの課題を指示するので、必ず準備学習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性をもった授業であるので、必ず毎回出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

The Art of Translation, Nan'un-do

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に指示する。

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Small Group Communication			13305	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD	選択	2				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to become communicative in discussing a range of issues at an intermediate level of English

授業の概要

Students will be able to engage with a variety of issues and work in small groups to respond to various points of view and communicate their own opinions coherently.

授業計画

1. First Impressions
2. Traffic Jam
3. Who Needs the Local Language?
4. Getting Ahead
5. Forever Single
6. What Are Friends For?
7. What's For Dinner?
8. Cyber Bullying
9. Taking Care of Father
10. Why Go to School?
11. An International Relationship
12. Too Little, Too Late
13. Ben and Mike
14. Government Control
15. Living Together

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before beginning the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Impact Issues 2 (New Edition), Day/Shaules/Yamanaka, Pearson/Longman

参考図書

To be announced as and when required

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 1	a/b		13309	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
L'Shawn M. HOWARD/Angus HALL	必修	2				

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from pre-intermediate and progress towards English at an intermediate level.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Life
3. Unit 1: continued
4. Unit 2: Work
5. Unit 2: continued
6. Unit 3: Time Out
7. Unit 3: continued
8. Review
9. Unit 4: Great Minds
10. Unit 4: continued
11. Unit 5: Travel
12. Unit 5: continued
13. Unit 6: Fitness
14. Unit 6: continued
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Pre-Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Advanced Oral Communication 2	a/b	13313	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to move from pre-intermediate level and progress towards English at intermediate level.

授業の概要

The object of the course is to teach students English that will be useful for international communication working in pairs and groups.

授業計画

1. Introduction
2. Identity
3. Identity
4. Giving Advice
5. Tales
6. Tales
7. Contact
8. Review
9. Contact
10. Jobs
11. Jobs
12. Solutions
13. Solutions
14. Words related to Questions, Adjectives
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Speak Out Intermediate, Clare/Wilson, Pearson Longman

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 1	a/b	13317	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/James G. WONG	必修	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is for students to be able to comprehend English texts at an intermediate reading level.

授業の概要

Students will be able to understand English texts at an intermediate level. They will be able to skim and scan for specific information, identify the main idea of a text, and discuss topics pertaining to the text. They will hone their skills through interaction with actual newspaper and magazine articles adapted for the English language classroom. They will also participate in grammar, vocabulary, writing, and speaking activities related to the text.

授業計画

1. Introduction
2. Love at First Sight
3. Love at First Sight
4. The Semong (The Tsunami)
5. The Semong (The Tsunami)
6. More Alike than Different
7. More Alike than Different
8. Healthy Again
9. Healthy Again
10. If You Have Time
11. If You Have Time
12. The Buried City
13. The Buried City
14. Misunderstandings
15. Misunderstandings

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than 1/3 of the class without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Even More True Stories (Level 5), Heyer, Pearson/Longman

参考図書

To be announced as and when required

留意事項

Active participation in this class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 2	a/b	13321	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
James G. WONG/L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標
The target proficiency of this course is to enable students to progress towards reading and comprehending English texts at an intermediate level

授業の概要
Students will be able to skim and scan for specific information in an intermediate level English text as well as identify the main idea of said English text. In addition, they will be able to discuss and write about topics related to the text. They will hone their skills through interaction with actual stories in magazine and newspaper articles adapted for the English language classroom. Students will also participate in grammar, vocabulary, writing, and speaking activities related to the articles from the textbook as well as topics pertaining to their own lives.

授業計画

1. Introduction
2. A Real Bargain
3. A Real Bargain
4. Black Cats and Broken Mirrors
5. Black Cats and Broken Mirrors
6. Flight 5390
7. Flight 5390
8. A Killer in the Back Seat
9. A Killer in the Back Seat
10. The Treasure Hunt
11. The Treasure Hunt
12. The Plain People

13. The Plain People
14. Does Death Take a Holiday?
15. Does Death Take a Holiday?

準備学習
Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
100% attendance is expected for this course. If a student cannot attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence." If a student is absent for more than a 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given for the course.

テキスト
Even More True Stories (Level 5), Heyer, Pearson/Longman

参考図書
To be announced as and when required

留意事項
Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 1	a/b	13325	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
L'Shawn M. HOWARD/Angus HALL	必修	2			

授業の到達目標
Upon completion of the course, students will have an understanding of a typical academic process writing course taught in most American universities.

授業の概要
The objective of this course is to introduce students to a typical writing process taught in most American universities. Students will familiarize themselves with the academic writing process and produce several types of academic writing.

授業計画

1. Chapter 3 A Favorite Place
2. Chapter 3 continued
3. Chapter 4 An Exceptional Person
4. Chapter 4 continued
5. Chapter 5 Trends and Fads
6. Chapter 5 continued
7. Chapter 6 White Lies
8. Chapter 6 continued
9. Chapter 7 Explanations and Excuses
10. Chapter 7 continued
11. Chapter 8 Problems
12. Chapter 8 continued
13. Chapter 9 Strange Stories
14. Chapter 9 continued

15. Review for final exam

準備学習
Review the first two chapters of the textbook.

課題・評価方法
平常点70%、定期試験30%

欠席について
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト
From Paragraph to Essay by Dorothy E. Zemach and Lisa Rumisek, Macmillan

参考図書
To be announced as and when required.

留意事項
This course is taught entirely in English.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 2	a/b	13329	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD	必修	2			

授業の到達目標

At the end of this course, it is expected that students will be able to write short essays at intermediate level.

授業の概要

The objective of this course is to initially review the structure of paragraphs before studying descriptive, compare-contrast, cause-effect, classification, and argument essays.

授業計画

1. Cause-effect Paragraphs
2. Cause-Effect Essay
3. Cause-Effect Essay
4. Cause-Effect Essay
5. Cause-Effect Essay
6. Classification Paragraphs
7. Classification Essay
8. Classification Essay
9. Classification Essay
10. Classification Essay
11. Argument Paragraphs
12. Argument Essay
13. Argument Essay
14. Argument Essay
15. Argument Essay

準備学習

Review the material covered in Academic Writing 1

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

From Great Paragraphs to Great Essays, Folse/Solomon/Clabeaux, Thomson/Heinle

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Public Speaking and Oral Interpretation		13333	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL	選択	2			

授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to speak publicly in English more fluently.

授業の概要

Through classroom activities in which students actively use their language skills, especially listening and speaking, students will learn how to give a speech in English. Students will also practice critical thinking skills, share information, and explore speech techniques.

授業計画

1. The Three Messages in Speech and The Physical Message
2. Informative Speech Presentations
3. Gestures and Layout Speech
4. Layout Speech Presentation and Voice Inflection
5. Voice Inflection and Demonstration Speech
6. The Story Message
7. The Introduction
8. The Body
9. The Body continued
10. The Body
11. The Conclusion
12. The Conclusion continued
13. The Visual Message
14. The Visual Message continued
15. Review for final presentation

準備学習

There are no prerequisites for this course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

Following university guidelines evaluation points will be deducted from the final course grade for each absence from the class without exceptional circumstances. This is called a "normal absence" and for each normal absence the final course grade will be reduced by 2%. Thus, if the final course grade is 75% and the student has been absent four times then 8% will be deducted from this to give the student a final grade of 67%.

A student will not receive credit for the course if she is absent (normal absence) for more than one-third of the classes in the semester without exceptional circumstances.

Where there are exceptional circumstances (funeral, infection, school event, teacher certificate program, nursing experience, exam for job hunting, natural disaster, transportation delay, or other absences which the president of the university allows) the student must submit a "Notification of Exceptional Absence" form. This will not cancel the absence, but no points will be deducted from the final grade.

If the total number of "normal absences" and "exceptional absences" account for more than one-third of the total classes of the semester but less than half of the total classes in the semester then additional work will be given and must be completed by the student before receiving credit for the course. If the total number of absences account for more than this, no credit will be given for the course.

テキスト

Speaking of Speech: Basic Presentation Skills for Beginners by David Harrington and Charles LeBeau, Macmillan

留意事項

This course will be taught entirely in English.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Reading 3	a/b	13337	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
James G. WONG/Angus HALL	選択	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is high-intermediate level reading level, with continual growth in ability to work with higher level reading texts.

授業の概要

The goal of the course is to continue teaching reading skills and general English usage by reading the New York Times #1 bestseller “young adult level” book, Three Cups of Tea. This text has been taught in many American junior high school English classes as well as in adult English language programs designed to prepare international students for study in American colleges and universities. By listening to the accompanying CD while reading the book, students will be able to improve reading and listening skills at the same time.

授業計画

1. Introduction
2. Discuss Chapters 1 & 2
3. Discuss Chapters 3 & 4
4. Discuss Chapters 5 & 6
5. Discuss Chapters 7 & 8
6. Discuss Chapters 9 & 10
7. Review
8. Midterm Exam
9. Discuss Chapters 11 & 12
10. Discuss Chapters 13 & 14
11. Discuss Chapters 15 & 16
12. Discuss Chapters 17 & 18

13. Discuss Chapters 19 & 20
14. Discuss Chapters 21 & 22
15. Prepare for Final Exam

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

(Young Adult Version) Three Cups of Tea: One Man’s Journey to Change the World, One Child At A Time By Greg Mortenson & David Oliver Relin; Adapted By Sarah Thomson

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Academic Writing 3	a/b	13341	IV	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/James G. WONG	選択	2			

授業の到達目標

At the end of the course it is expected that students will be competent in writing well-constructed essays at a high-intermediate level.

授業の概要

The objective of the course is to make students aware of the processes of writing and to take students from basic essays to writing more complex essays on themes related to narratives, comparisons, causes and effects, and arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Review of Essay Structure
3. Narrative Essay
4. Narrative Essay
5. Narrative Essay
6. Comparison Essay
7. Comparison Essay
8. Comparison Essay
9. Cause-Effect Essay
10. Cause-Effect Essay
11. Cause-Effect Essay
12. Argumentative Essay
13. Argumentative Essay
14. Argumentative Essay
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a “Notification of Exceptional Absence”. If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Great Essays 3rd Edition, Folse/Muchmore-Vokoun/Solomon, Heinle-Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈アカデミック・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Debating and Persuasion	a/b	13345	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
Angus HALL/L'Shawn M. HOWARD	選択	2			

授業の到達目標

The target proficiency of this course is to enable students to become communicative in debating a range of issues at an intermediate level of English.

授業の概要

The objectives of the course are to enable students to engage with a variety of issues and working in small groups to critically analyse these and to respond with effective arguments and counter-arguments.

授業計画

1. Introduction
2. Conspiracy Theories
3. Do We Need Royals?
4. Bad Manners in Public
5. Bullying
6. Gambling
7. Alcohol and drugs
8. Review
9. Sexual harassment
10. Smacking Kids
11. The Death Penalty
12. Stalkers
13. Religion
14. Racism
15. Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Taboo Talk, Lynch, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基礎科目〈異文化理解〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学入門		13413	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子	必修	2			

授業の到達目標

ギリシア・ラテン文学、及びキリスト教と深い関わりを持つイギリス文学と歴史的に若いアメリカ文学の特色を知るとともに、代表的作家の主要作品を鑑賞して英米文学作品についての理解を深める。

授業の概要

文学を生み出してきたイギリスとアメリカの現代に至る歴史的、文化的背景を概観し、詩、演劇、小説、随筆を通して表出される豊かな人間の想像力や内面の世界に触れて英米文学の魅力を経験していく。最初の授業で配布する読書リストからできるだけ多くの作品を鑑賞し、レポートにその魅力などを分析的にまとめていくとともに、好きな作家や作品を発見してもらいたい。

授業計画

1. 序論:ギリシア・ラテン文学とキリスト教
2. 古英語・中英語の文学、チョーサー『カンタベリー物語』
3. ルネサンスの散文と詩、シェイクスピア『ソネット』
4. 演劇の誕生、シェイクスピア『ロミオとジュリエット』
5. 王政回復期の文学、ミルトン『失楽園』
6. 小説の誕生と成長、リチャードソン『パミラ』
7. 小説の誕生と成長、オースティン『高慢と偏見』
8. ロマン主義時代の詩、ワーズワス『抒情民謡集』
9. ヴィクトリア朝時代の小説、ディケンズ『大いなる遺産』
10. ヴィクトリア朝時代の小説、サッカレー『虚栄の市』
11. 第二次大戦までの小説、ウルフ『ダロウェイ夫人』
12. アメリカ・ロマンティシズム時代の文学、ポー『黒猫』
13. アメリカ・ロマンティシズム時代の文学、ジェイムズ『ある貴婦人の肖像』
14. アメリカ・リアリズム時代の文学、フィッツジェラルド『偉大なるギャツビー』
15. アメリカ・リアリズム時代の文学、ヘミングウェイ『雨の中の猫』

準備学習

テキストや資料の指示された箇所は必ず理解して読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

講義要項に沿って行う。

テキスト

清宮倫子、清宮協子 『よくわかるイギリスの文学』 南雲堂 他にハンドアウトを配布する。

参考図書

寺門泰彦編著他『アメリカ文学案内』朝日出版、野町二著他『イギリス文学案内』朝日出版、中村邦生他編著『楽しく読めるイギリス文学』ミネルヴァ書房、高田賢一他編著『楽しく読めるアメリカ文学』ミネルヴァ書房、大岡信也編『世界文学のすすめ』岩波文庫、高津春繁他著『ギリシア・ローマ古典文学案内』岩波文庫、小川正廣著『アエネイスー神話が語るヨーロッパ世界の原点』岩波書店、Charles and Mary Lamb Tales from Shakespeare Penguin Books

留意事項

課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。クラスでは全作品を一緒に読む時間がないため、各自自主的に多くの作品を鑑賞するよう心がけてもらいたい。

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの意味・文化			13417	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
服部 幸正	選択	2				

授業の到達目標

「われわれの文化とは、われわれが言語によって創り出した世界であり、ことばと文化は表裏一体である」といわれる。特定の文化で育った人々の普通で、一般的で、正常に思えること、そして最善の意図でさえ、他の文化を持つ人々に容易に誤解されることが起こる。このすれ違いの要因が「ことばの意味」に起因することが多い。この授業の目標は言葉や文化を違った角度から見ることの大切さを再認識することである。

授業の概要

急激に国際化していく21世紀には、異なる言語に接すること、異なる考え方をする異民族の人々との交わりがあらゆる場で増していくと考えられる。この異文化コミュニケーションの場で意志の疎通をはかり協調して、相手の価値観や物の見方に対する理解、寛容、尊敬を持てるかどうかの挑戦を受ける。世界の共通語である英語と英米の文化に焦点を絞って「ことばの意味・文化」について解説したい。英文のテキストを使うが、英文購読の授業ではないので、英語の構文や語法などの説明より書かれている内容を注視して演習形式で授業する。

授業計画

1. Language Supports Culture
2. Expressing Our Cultural Identity
3. Language Takes Us Beyond Our Culture
4. Social Harmony
5. Metaphors and Language
6. Language Complicates Culture
7. Social Discrimination And Language
8. Language Threatens Culture

9. The Threat of English
10. Linguistic Arrogance
11. Language And Culture In The 21st Century
12. Language For Everyone
13. Food For Thought
14. Balancing Language(s) And Culture(s)
15. English Education In The 21st Century

準備学習

日本語と日本文化についての本を読むことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席して授業に参加することを評価する。

テキスト

LANGUAGE and CULTURE in the 21st CENTURY by Joan McConnell SEIBIDO

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

授業中に指示する。

基幹科目〈言語文化科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Japanese Culture			13425	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

At the end of this course students will be better able to talk about Japanese culture in English.

授業の概要

Students will learn how to talk about various aspects of Japanese culture in English and in particular within the context of explaining it to a host family in a foreign country or to a foreign person visiting Japan.

授業計画

1. Introduction
2. A Uniform Society
3. Japanese Universities
4. Disaster Spirit
5. Immigrants in Japan
6. Manga
7. Distinctive Kansai
8. Review
9. Japanese Food
10. Craze Culture
11. Contemporary Japanese Men
12. Japanese Parents
13. Japanese Traditional Culture 1
14. Japanese Traditional Culture 2
15. Final Review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

Good-bye Galapagos, Stapleton, Cengage

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	選択	2				

授業の到達目標

キーワード：「観光とは」「観光の展開（観光史）」「観光の背景（観光文化）」
観光交流時代を迎えて、国際的に「観光」の認識が高まっている。この授業では、キーワードのさまざまな理解を目標に「観光立国」を目指すわが国の現状理解と、インバウンド時代に対応して関連する歴史・地理の一端を学習する。

授業の概要

国際人として、また訪日する外国人観光客にも対応できる、わが国の「観光事情」を歴史的に、文化的に学ぶこととする。「物見遊山」から「観光旅行」に関わるわが国の現状を踏まえて、「観光sightseeing」から「観光tourism」への認識をさらに深めることが「国際観光交流時代」に生きる現代人の使命といえる。

授業計画

1. 観光とは
2. 国内観光交流の現状
3. 国際観光交流の現状
4. 観光交流と交通路
5. 「旅」「宿」の発展と観光
6. 周遊型観光の起源：「めぐり」と「もうで」
7. 「まち」のにぎわいと観光
8. 物見遊山と観光文化
9. 「遊覧」の文化Ⅰ
10. 「遊覧」の文化Ⅱ

11. 温泉湯治と滞在型観光
12. 「食」の文化と観光
13. 「みやげ」の文化と観光
14. 国際交流時代の観光
15. 「観光概論」のまとめ

準備学習

テキストに従って進めるので、事前によく読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点（出席・課題評価・小レポート）が50%あるので、欠席が多いとこの評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価が得られなくなる可能性があるので充分注意しておくこと

テキスト

「観光・旅の文化」北川宗忠著 ミネルヴァ書房

参考図書

「観光・旅行用語辞典」北川宗忠編著 ミネルヴァ書房

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

国際観光交流論を理解するため国際観光機関や国土交通省の観光のデータをもとにフランス、イタリア、スペイン、アメリカなどの先進事例を研究し日本の現状と今後の歩むべき方向を考える。

授業の概要

世界観光機構（UNWTO）、日本の観光政策、貿易と国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound, inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義を理解する。

授業計画

1. 講義概要、シラバス概要、教科書、評価方法
2. 交流とはなにか。Tourism Exchange, 国内、海外、交流の形態、交流の場、交流の意義
3. APTEC財団法人アジア太平洋観光交流センターの活動について、交流の組織
4. 日本の余暇事情
5. 先進国の余暇事情
6. 日本の観光政策、過去の取り組み
7. 日本の観光政策、現状と今後の方向
8. 日本の国際交流、過去のとりくみ
9. 日本の国際交流、現状と今後の方向
10. 世界の国際交流
11. 世界の国際交流
12. 国際観光交流と観光産業、MICE, イベント・コンベンション事業、Two-way tourism
13. 国際観光交流と観光産業、旅行業、宿泊業、輸送業、国際会議場

14. 世界の国際交流と観光産業、周辺産業
15. 世界の国際交流論のまとめ

準備学習

各種メディアを通じて日ごろから世界や日本の動きなど情報収集すると楽しく学ぶことができる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト

「やさしい国際観光」財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

参考図書

「平成23年度版観光白書」国土交通省編

留意事項

交流に関してみなさんの見聞きした情報を歓迎します。双方向の楽しい授業を目指します。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	EC		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子／福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化における子ども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。

授業の概要

(日本児童文学)近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。(西洋児童文学)児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。絵とことばを巧みに組み合わせた絵本、リズムカルなことばの詩・ナーサリーライム(マザーグース)、児童が主人公として体験できる夢と冒険の世界を描いた作品を取り上げる。

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
5. 千葉県三「拾った神様」と映画「憑神」(箕野)
6. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
7. 椋鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」(箕野)
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
9. 「ブラウン・ベア」とエリック・カールの絵本の世界(福智)
10. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム(マザーグース)の

世界(福智)

11. プレゼンテーション「読み聞かせ」とその意義 (福智)
12. 「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活の自然と日常の世界(福智)
13. 「トムソーヤとハックルベリ・フィン」マーク・トウェインの冒険の世界(福智)
14. 「星の王子様」アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ(福智)
15. 「はてしない物語」ミヒャエル・エンデのファンタジーの世界(福智)

準備学習

作品をあらかじめ読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』(双文社)(箕野)
本田英明、桂宥子、小峰和子『英米児童文学』(ミネルヴァ書房)(福智)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Cross-cultural Communication			13505	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

At the end of this course students will be better able to effectively discuss ideas related to cross-cultural communication.

授業の概要

The aim of the course is to introduce a number of themes related to cross-cultural communication and to explore how different cultures behave and respond to different signals.

授業計画

1. Introduction
2. What does "culture" mean?
3. Cultural rules for acceptable behaviour
4. Stereotyping
5. Media and Culture
6. Nonverbal communication
7. Cultural perspectives of time
8. Review
9. Verbal communication norms
10. Subcultures
11. Status
12. What is a family?
13. Gender as culture
14. Our connected world
15. Final review

準備学習

Familiarize yourself with the material in the textbook before taking the course.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

This is Culture, Kjiura/Goodmacher, Nan`Un-Do

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English/American Culture			13513	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
Angus HALL	選択	2				

授業の到達目標

At the end of this course it is hoped that students will be better able to talk about the United Kingdom, the countries that compose it and the people and their culture.

授業の概要

The course will focus on the United Kingdom and its people and culture. Students will learn through in-class activities and independent research. Reflection upon and comparisons with other countries and cultures will be encouraged.

授業計画

1. UK Quiz
2. Symbols of the UK
3. Famous People
4. Homes
5. Festivals
6. London
7. Historic Places
8. Literature
9. Films
10. Food and Drink
11. Leisure
12. Education
13. Media
14. Music
15. The Government and International Relations

準備学習

Read about the UK in English or Japanese from newspapers, news websites or other books in the library.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

テキスト

In Britain 21st Century Edition, Vaughan-Rees/Sweeney/Cassidy. Macmillan Languagehouse

参考図書

To be announced as and when required.

留意事項

Active participation in class is essential.

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

対立概念とは、たとえばフランスの文学者ロラン・バルトの言葉を借りれば、「意味のスペクタクル」を展開しうる重要なものであるが、講義においては、「小説」という、もっともポピュラーな文学形態に巧妙に仕組まれた、そうした対比の構造を通して、文学を読み解く方法を学ぶ。

授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『分別と多感』を取り上げて研究する。この小説は、「分別」(sense)をもつ理性的な姉と、「多感」(sensitivity)気質で、感受性の強い妹という、好対照をなす姉妹の恋愛を核にしているが、授業では、文学を通して古くて新しいテーマである「理性」と「感情」の対立について、また、自己に誠実に、真摯に生きるとはどういうことなのか等について考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDも用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

授業計画

1. 総論
2. 「対立」の時代的文化的背景
3. Jane Austen and *Sense and Sensibility*
4. Introduction
5. The language of Jane Austen's time
6. People and places
7. Love or money?
8. The London season
9. Rapid Reading (1) 研究発表
10. Rapid Reading (2) 研究発表
11. Rapid Reading (3) 研究発表
12. Rapid Reading (4) 研究発表
13. オースティンの心理的リアリズム
14. 『分別と多感』の意味
15. まとめ 文学における「対立」の構図

準備学習

講義では、レポート課題もあるので、日ごろから自己表現、日本語表現力を磨いておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

テキスト

Jane Austen, *Sense and Sensibility* CD付. London: Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

参考図書

Sense and Sensibility (『分別と多感』) の翻訳書として、現在、入手可能なものは、以下の2点がある。
ジェイン・オースティン『知性と感性』工藤政司訳 (近代文芸社)
ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』真野明裕訳 (キネマ旬報社)
その他の参考図書については、授業で随時、指示する。

留意事項

授業で取り上げる『分別と多感』は、上の「参考図書」に記したような翻訳書があるので、できれば予め読んでおくこと。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
American Studies in U.S.A.			13529	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

雄大なロッキー山脈のふもとにある緑豊かなアメリカのコロラド州立大学。細かくレベル別に分けられたクラスで英語を徹底的に学ぶ。同時に、寮生活やさまざまなアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。通常授業の中に以下のような内容を含む。

- ・Conversation Partner：Native speaker の学生をクラスに招き、ディスカッションを行う。
- ・卒業プロジェクト：グループごとに題材を決め、図書館や街でのリサーチをもとに発表する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Australian Studies in Australia			13537	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

亜熱帯気候で冬でも暖かく過ごしやすく、かつ大自然が身近にあるオーストラリアの都市ブリスベンにあるグリフィス大学への短期留学により、英語を集中的に学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通して実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週約25時間の授業。希望者を対象に、授業のない金曜の午後にパーティ、ダンスレッスン、スポーツ、美術館訪問などのアクティビティが予定される。また、週末にもビーチ、テーマパークやハイキングへ行く遠足がある。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者によって決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際教養科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Canadian Studies in Canada			13539	I	夏季	
担当者名	区分	単位	特記事項			
	選択	4				

授業の到達目標

留学先はカナダ人の将来住みたい街第一位に選ばれ続けている、プリティッシュ・コロンビア州バーノンにあるオカナガン・カレッジ。この大学は語学教育に実績があり、初級から上級まですべてのレベルで学習ができる。またボランティア活動など他大学にはないユニークなプログラムも含まれている。のどかな住宅地バーノンにて、カナダ人ファミリー宅に滞在し、カナダの大自然を体験しながら学習する。同時にアクティビティによる文化交流を通じて実践的に英語を体得していくことを目標とする。

授業の概要

週15時間の授業、5時間のオーラルプレゼンテーション、5時間のランゲージラボでの自習（インストラクターの補佐あり）、5時間のボランティアワーク。滞在中2回のフィールドトリップ（例：乗馬、農場・産業見学、ハイキング、ホッケー観戦など）が含まれている。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

テキスト

現地教育担当者により、決定される。

留意事項

現地教育担当者が、reading, writing, communication における

能力を、試験やinterview、授業内の活動などから総合的に評価する。

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English I	EC		13605	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

実社会で役に立つビジネス・イングリッシュの基本を学ぶ。

授業の概要

英語のビジネスレターの読み書き、封筒の宛名の書き方、社内連絡のメモ・FAX, e-mail、サンプルレターのファイリングと活用方法、レジュメ、カバーレターの書き方、など基本的なことを学ぶ。またあわせて社会、企業での常識、習慣、ビジネスで使われる日本語についても学ぶ。

基本的な実例を学んだ後で演習（英文和訳、和文英訳）を行う。

授業計画

1. 講義概要、評価方法、教科書、シラバス（講義計画）、ビジネスイングリッシュとは何か。
2. ビジネスレターの構成、レイアウト、レターヘッド、インサイドアドレス、本文とパラグラフなど
3. 社内メモ、レイアウト、構成要素、ヘッディング、ガイドヘディング、略号、決まり事。
4. Eメール、社内LAN、社内文書と対外文書、学校英語と実用英語の違い（丁寧表現）
5. レター1（面会の申し込み）、演習
6. レター2（ホテルの予約）、演習
7. レター3（帰国後の礼状）、演習
8. 社内通信文、レター4（紹介）、演習
9. レター5（招待）、演習
10. レター6（昇進祝い）、演習
11. レター7（お悔やみ）、演習
12. 社内メモ（人事異動）と演習
13. 社内メモ（社内会議の招集）と演習

14. レジュメとカバーレターの書き方

15. まとめ

準備学習

予習・復習を心がけること。基本的な表現は考えなくてもすぐでてくるように努力すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない場合以外の欠席は認めない。

普段の授業に重きを置いているので、遅刻、欠席、不真面目は減点の対象となる。

テキスト

「始めて学ぶビジネス英語」 成美堂 田中武雄著

参考図書

「国際秘書英語」 亀山和夫、成美堂「国際ビジネスコミュニケーション入門」 亀山和夫、八尾晃共著、成美堂「英文履歴書の書き方」 有元美津世 ザ・ジャパントイズ

留意事項

英語だけでなく社会で使われる正しい日本語も勉強するので目についた印刷物の表現について普段から関心をもつこと。

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English II	EC		13609	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

Business English Iは入門編であるが、Business English IIは貿易実務の解説ならびに貿易通信文の作成の演習を行う。入社後、会社で役立つ実践英語の学習方法を修得する。

授業の概要

Business English Iに引き続き行うのでI、II継続受講が望ましい。教科書はI、IIが一冊に収まっている。授業内容としてはIの基本をベースに貿易通信文の作成、貿易実務の基本について学ぶ。あわせて職場の常識などを企業在籍の経験談を加えながら指導する。

授業計画

1. 講義概要、シラバス概要、評価方法、貿易と貿易通信文の基本
2. 取引関係の創設、取引先の選定、取引先の斡旋依頼
3. 信用照会、銀行、商業興行所、貿易に係る企業の役割
4. 取引の申し込み
5. 取引申し込みの承諾、一般取引条件協定書の交換
6. 売買契約の成立、一般取引条件協定書の交換
7. オファー
8. カウンター・オファー
9. オファーの受諾
10. 売買契約の履行、信用状
11. 信用状開設手配の通知
12. 信用状の条件変更
13. 船積

14. 船積通知
15. まとめ

準備学習

進むペースが速いので予習・復習が必要。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト

「初めて学ぶビジネス英語」田中武雄著、成美堂

参考図書

「貿易実務の基本がわかる本」木村雅晴ほか、ぱる出版「最新ビジネス英語」成美堂、「国際ビジネスコミュニケーション」成美堂、「商業英語（国際ビジネスコミュニケーション）問題集」日本商工会議所

留意事項

国際企業、貿易商社、貿易に係る企業に就職する学生に最適

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	III	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
榎本 雄三	選択	2				

授業の到達目標

経済活動や学術研究などで用いられる文書や資料の和訳および英訳ができるようになるための、訳文作成技術を習得し関連知識を身につける。

授業の概要

新聞、雑誌、ウェブサイトなどから、話題になっているビジネス関連記事を選び、和文英訳および英文和訳の演習を行う。翻訳に必要な背景知識の調査および習得も行う。

授業計画

1. 実務翻訳の特徴/自然な文章表現
2. 自由貿易/TPP/EPA
3. 再生可能エネルギー/非在来型天然ガス
4. リチウムイオン電池/エコカー
5. 欧州危機/超円高
6. 高速データ通信/モバイルサービス
7. 新興国経済/海外展開
8. ライティングの3C/シンプリファイド・イングリッシュ
9. 和文英訳の基本技術/英文作成時のよくある間違い
10. マニュアル上の表現/リスクアセスメント
11. PCソフトウェア/ローカライズ
12. 航空宇宙産業/国際宇宙ステーション
13. 環境産業/廃水処理技術
14. 海洋権益/排他的経済水域
15. インフラ輸出/高速鉄道

準備学習

パソコンを用いた文書作成およびインターネット検索ができること。電子メールが使えること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞や英文雑誌の記事を教材にする。

参考図書

"The Elements of Style, Strunk and White, Longman Publishers
技術英文の書き方 55のルール、片岡英樹、創元社
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社"

留意事項

毎回課題を出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際マネジメントと英語			13625	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

グローバル化に伴い日本の国際企業の職場では外国人スタッフと仕事をしたり、海外支店の外国人スタッフと連絡が日常業務になったりしている。現在の企業はバイリンガル人材が求めている。この授業を通じて国際企業でも勤務できる語学能力と社会常識を学ぶ。

授業の概要

授業は英語で行う。CDを利用してTOEIC教材（750－800点目標）を使用する。

授業計画

1. 講義概要、シラバス説明、教科書について、評価方法
2. Airport Security
3. Weekend Activities
4. Ecology
5. Housing and Property
6. Health and Welfare
7. Communications
8. Careers and Employment
9. Office Procedures and Protocol
10. Current Events and Public Affairs
11. Marketing and Sales Campaigns
12. Complaints and Troubleshooting
13. Innovations and Technology
14. Interoffice Communications
15. Social Functions

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業出席に重点をおいているので欠席すると大きな減点になる。試験での取り返しはできない。

テキスト

TOEIC Test: On Target Book2 (TOEIC TEST:オンターゲットブック2) 南雲堂

留意事項

教科書にはCDがついているので自宅でも何回も聴くこと。

展開科目〈国際ビジネス科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ	EC		13629	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

企業等で実際に就業体験をすることで自分の学問・研究の一層の理解を深め、将来の職業選択に備えて、自らの適性、能力について実践的に考える機会とし、就職活動における志望業種・職種のスムーズな決定と就職後の職業への適応力をつけることを目的とする。尚、本科目において修得した単位は、「専門科目」における「国際ビジネス科目」の単位に参入される。

授業の概要

本学インターンシップには、以下に示す通り、日本国内インターンシップとアメリカインターンシップがある。

1. 日本国内企業インターンシップ.....就業体験原則5日以上
 2. アメリカ・インターンシップ
 - ①アメリカ国内企業（日本企業）インターンシップ.....就業体験2週間以上（夏季休暇中）
 - ②アメリカ「アシスタント・ティーチャー」プログラムインターンシップ.....就業体験2週間以上（2～3月中）
- 尚、場合によっては、TH学科のインターンシップ先に参加できる可能性もある。

授業計画

1. オリエンテーション:インターンシップの目的と手続き
2. 事前研修:業種別受け入れ企業の説明
3. 事前研修:学生と受け入れ企業のマッチング
4. マナー講座①
5. マナー講座②
6. マナー講座③

7. 事前発表(企業研究レポート提出)
8. インターンシップ(実習 尚、受け入れ機関により実習時期と実習期間は異なる)
9. インターンシップ(実習)
10. インターンシップ(実習)
11. インターンシップ(実習)
12. インターンシップ(実習)
13. インターンシップ(実習)
14. 事後報告発表(3年次対象)
15. 事後報告発表(2年次対象)及び事後レポート提出

準備学習

普段より新聞、希望職種関連記事などに目を通しておくことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

留意事項

4月下旬に行われる第一回EC/TH合同インターンシップ説明会には3年次生全員の出席が望ましい。インターンシップは学生の熱意と準備、引受先があって初めて成立するため、真摯な気持ちをもって臨むことが大切である。またインターンシップ参加者は、説明会、キャリアセンターの開催するマナー講座、企業研究、事後報告発表会に必ず参加し、義務づけられたレポートは必ず提出しなければならない。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

ヨーロッパを始め、日本を取り巻く近隣のアジア諸国では、小学校から外国語教育が必修化されている。2011年度から日本でも義務教育としての小学校英語活動が開始された。なぜ小学校から外国語を学ぶのか、その意義は何であろうか。日本や世界の外国語教育の現状を知ると共に、児童期からの外国語教育のあり方を考える。

授業の概要

授業では、これら諸問題に関する適切な文献を読んで、多言語多文化社会における他言語教育の意義と目的を考える。次に、教育現場での実践のあり方をふまえて、児童期からの学習者の特性、児童英語教育のあり方そのもの、児童の特性を活かした授業法の理論と実際を討議できるように指導する。

授業計画

1. 小学校英語活動と国際理解
2. 世界の言語政策事情
ヨーロッパ・アジア・日本の外国語教育
3. 子供はことばをどう獲得するか
ことばと思考の発達
4. 臨界期
年齢と言語習得
5. 児童期における第2言語教育
「ことばの習得 VS ことばの学習」
6. 早期第2言語学習者の特性
7. バイリンガル教育とイマージョン・プログラム
他言語を教える環境
8. 児童の特性を活かした授業法(1)
『TPR』 (Total Physical Response)

9. 児童の特性を活かした授業法(2)
『チャンツ・ライム・歌』
10. 児童の特性を活かした授業法(3)
『ゲーム』
11. 児童の特性を活かした授業法(4)
『絵本』『物語』が育むことばの力
12. 児童の特性を活かした授業法(5)
児童が楽しむ『タスク』
13. 児童の特性を活かした授業法(6)
『スキット、ロールプレイング』
14. 児童英語教育のゴール
『ナショナル・カリキュラム』と4技能の到達点
15. 評価
ポートフォリオ作成

準備学習

各回の課題について調べ、レポートを仕上げる。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

必ず出席し、討議に参加すること

テキスト

岡秀夫、金森強「小学校英語教育の進め方」成美堂
ハンドアウト配布

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I			13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
惣谷 美智子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。

授業の概要

教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」という現実から最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができないといけない。

それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとって重要課題になるが、そのためにこの授業では、教師が一方的に講義するのではなく、学生に問題提起し、資料を提供し、それに基づいて積極的に考え、実践してもらう予定である。

授業計画

1. Introduction
2. 英語教育の基本問題
3. 英語教育の目的
4. 英語の指導目標
5. 英語教育の環境的要因
6. 学習者の要因
7. 教師の役割とよい教師の条件
8. 言語習得の理論上の諸問題
9. 英語スキルの習得と指導
10. 発音の指導

11. 文字と綴り字の指導
12. 語彙の指導
13. 文法の指導
14. リスニングの指導
15. まとめ

準備学習

必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男編著『新編英語科教育法入門』研究社

参考図書

授業時に随時、指示、紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ		13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
惣谷 美智子	選択	2			

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力に関する知識を深め、指導法の基礎知識を学ぶ。後半は語彙指導・文法のレッスンプランを立て、模擬授業を行う。

授業の概要

教師は、生徒が各自もっている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが、重要課題となるが、そうした各教育現場に応じた柔軟な適応能力を養うためには、知識の詰め込みだけでは十分ではない。この授業では、教師から学生への一方的な知識の伝授ではなく、以下の授業計画のリストにある各項目に関して、それぞれに研究テーマを課し、授業中の口頭発表、レポート提出を通して、学生が自発的に英語教育における諸問題に取り組む双方向性の授業を予定している。

授業計画

1. 英語スキルの習得と指導
2. ライティングの指導
3. オーラル・コミュニケーションの指導
4. 指導法の諸問題
5. 英語指導の原理
6. 教材研究と授業の準備
7. 授業案の作成と授業の進め方
8. テストと評価
9. 教育機器の活用
10. ネイティブ・スピーカーの活用
11. 教育実習に向けて
12. Lesson Plan

13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. まとめ

準備学習

必ず予習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『新英語科教育法入門』（研究社）

参考図書

授業時に、随時、指示および紹介する。

留意事項

- ①課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。
- ②課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論		13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
服部 幸正	選択	2			

授業の到達目標

英語を学習したり教えたりするために、英語についての知識を蓄える必要があり、それが英語力を高めるひとつの道でもある。この授業では、学生のみなさんが今まで蓄積してきた英語の知識を再整理し、さらに深めてもらうことを目標とする。

授業の概要

英語という"ことば"の諸相について「英語学」で取り扱われる研究領域全般にわたって、次の授業計画に従って講義形式で解説・説明する。

授業計画

1. 英語はいつどのようにイギリスで使われ始めたか:英語の起原
2. 時代の経過と共に英語自体がどのように変容していったか:古期英語 中期英語 近代英語 現代英語
3. 世界各地の英語には、どのような特徴が見られるか:アメリカ英語 カナダ英語 オーストラリア英語など
4. 英語の構造はどのように分析され説明されて来たか:英語の統語論
5. (1)ラテン語文法に基づく規範的伝統文法
6. (2)アメリカ構造言語学に基づく構造文法
7. (3)チョムスキー理論に基づく変形成文法
8. 以上の他に英語学で取り扱われる研究領域にはどのようなものがあるか。
9. (1)音韻論の研究領域
10. (2)形態論の研究領域
11. (3)意味論の研究領域
12. (4)語用論の研究領域
13. (5)文体論の研究領域

14. 200年以上にわたる日本の英語教育はどのように展開されて来たか。
15. 21世紀の日本にとって英語の学習がなぜ必要であり大切なのか。

準備学習

英語学で使われる専門用語を「英語学辞典」などで調べたことをすすめる。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点は授業への出席状況を中心に評価する。

テキスト

プリント

参考図書

図書館の「英語学辞典」を活用すること。

留意事項

授業中に指示する。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語音声学		13717	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
石原 敬子	選択	2			

授業の到達目標

自然な英語の音声を観察し、分析する／自然な英語に見られる音声変化を観察し、理解する／英会話文の暗誦を通し、語彙・英語らしいリズム等を実践する

授業の概要

Pronunciation I～IIIの授業で取り上げた英語の子音・母音、強勢、リズム、イントネーションなどの音声的特徴をより具体的、専門的に扱う。自然な英語が実際にはどのように聞こえるのかを観察し、頭で理解している音声と実際に聞こえる音声とが異なることを、理論・実践両面から確認する。あわせて、日本語の音声との共通点にも着目する。英語の発音を自分で分析できるようになること、またより相手に伝わりやすい英語の発話ができるようになることを目標とする。

授業計画

1. 導入
2. カタカナ英語
3. 子音止め
4. 英語特有の母音
5. 英語特有の子音
6. フォニックス読み1)
7. フォニックス読み2)
8. 文の区切り(ポーズ、チャック)
9. 音の脱落1)
10. 音の脱落2)
11. 語の連結1)
12. 語の連結2)
13. 音の変化1)

14. 音の変化2)
15. まとめ

準備学習

英語の音と日本語の音が異なることを認識していること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

- 1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。
- 2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。

テキスト

『ショートストーリーで覚える！新TOEICテスト出る語句1800』
(早川幸治著・コスモビア出版)

参考図書

必要に応じて指示する。

留意事項

発音に関する研究は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、クラスへの積極的参加はもちろん、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で発話をするよう心がけてほしい。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	EC	13721	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達過程を学習し、母語の習得過程から第二言語習得の効果的なあり方とは何かを考える。

授業の概要

母語は自然に失敗することなく獲得されるが、第二言語は努力して学習しても、母語同様に習得するのが困難な場合が多く見受けられる。本授業では、赤ちゃん、子どものことばの発達過程を分析し、効果的な第二言語習得とは何かを考える。

授業計画

1. 動物の「ことば」
2. ことばの起源とことばの獲得
3. 赤ちゃんの「ことば」
4. ごっこ遊びと「ことば」の発達
5. 絵本・童話が育てる子どもの「ことば」と感性
6. ことばの習得と臨界期
7. ことばの発達 まとめ
8. 言語のとらえ方と言語学習のとらえ方
9. 母語習得と第2言語学習
10. 言語習得のメカニズム
11. ことばの獲得とことばの喪失「言語の意義」
12. 言語学習に影響を与える要因
13. 外国語学習に成功する学習者「個人差」
14. 外国語学習に成功する学習者「動機付け」
15. ことばの発達と効果的な外国語学習法 「まとめ」

準備学習

テキストの指定されたページは読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

講義内容に関するレポートを平常点として評価する。公欠など欠席については必ず連絡をすること。

テキスト

教育支援の心理学

参考図書

「外国語学習の科学」白井恭弘

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	EC	13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

2011年度より全国の小学校で、英語活動が始まっている。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。

授業の概要

本授業では、

ワークショップ形式で、

1. 発達過程を考えた児童期の英語教育のあり方を考え
2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズ、ごっこ遊びなどの授業法を体験
3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い、

指導者として「授業ができる」実践力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
2. 国際理解につながる小学校英語活動のあり方
3. 歌の活用の意義と指導
4. 「チャンツ」を取り入れた授業法 (1)
5. 「チャンツ」を取り入れた授業法 (2)
6. 「TPR」(身体で表現する活動)を取り入れた授業法 (1)
7. 「TPR」(身体で表現する活動)を取り入れた授業法 (2)
8. 「ゲーム」を活用した授業法
9. 「スキット、ロールプレイング、ごっこ遊び」を取り入れた活動(1)

10.『タスク型英語活動とプロジェクト型英語活動』

11. 物語を楽しませる英語活動 「ストーリーテリング」 (1)
12. 物語を楽しませる英語活動 「ストーリーテリング」 (2)
13. 活動案作成 (1) 授業案作成のポイント
14. 活動案作成 (2) 教材製作 発表準備
15. プレゼンテーション まとめ

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト

「小学校英語の教育法」アレン玉井光江 大修館書店

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	EC	13729	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

前期で体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導に役立つ授業創り・模擬授業をする。さらに、幼稚園、小学校などで、授業を体験する。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、発信型英語能力開発の一環として、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方と、
2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業法を考え、
3. 学年毎の授業案作成及び模擬授業を通じて、学生自身が将来の実践に役立つ授業創り・模擬授業をする。

授業計画

1. ガイダンス ビデオによる授業観察と授業案作成のポイント
2. 幼稚園児対象授業案作成 (1)
園児の英語活動にふさわしい活動
3. 幼稚園児対象授業案作成 (2)
園児の英語活動にふさわしい活動で使う教具作成
4. 低学年対象授業案作成 (1)
低学年の英語活動にふさわしい活動で使う語彙と表現
5. 低学年対象授業案作成 (2)
低学年の英語活動にふさわしい活動で使うワークシート
6. 中学年対象授業案作成 (1)
中学年の英語活動にふさわしい活動で使うゲーム
7. 中学年対象授業案作成 (2)
中学年の英語活動にふさわしいアクティビティ
8. 模擬授業/実践授業
9. 高学年対象授業案作成 (1)
ICT及びデジタルコンテンツ研究
10. 高学年対象授業案作成 (2)
ICT及びデジタルコンテンツ研究
11. 模擬授業準備

授業練習とアナログ教材製作

12. 模擬授業
- 授業練習と電子黒板使用デジタル教材製作
13. 小学校実習授業
14. 授業評価、ポートフォリオ作成
15. まとめ

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語の教育法」アレン玉井光江 大修館書店

参考図書

児童英語テキスト、小学生英語テキストなど、授業中に随時紹介する。

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅢ（実習）			13733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	1				

授業の到達目標

2011年度より小学校で外国語活動が義務教育化され、ようやく日本でも小学校英語活動が始まった。児童英語教育・キッズ・イングリッシュの最終段階として、幼稚園や小学校で児童英語教育を、実習として体験する。

授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した児童英語教育の理論と授業法、発達段階にふさわしい授業運営を、出前授業の形で、幼稚園・小学校現場で実習し、授業体験する。この体験から、理論を踏まえた授業の実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語学とは何かを体系的に考える。

実習計画

- ①ティームで実習する授業案・教材教具を作成し、授業準備を行う。
- ②作成した授業案で自身が授業できるように、マイクロティーチングなどで練習する。
- ③実習園・実習校で通常授業で、実習授業を行う。
- ④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

授業計画

1. ガイダンス ビデオによる英語活動観察
授業案作成のポイント
2. カリキュラム作成のポイント
年間計画作成、教材研究
3. 実習授業案作成と教材研究
4. 第1回実習 観察実習
5. ビデオによる授業評価と実習授業案作成と教材研究
6. 作成授業案発表 実習授業用教材製作及び実習授業の模擬授業
7. 第2回実習 英語活動実習体験
8. ビデオによる授業評価と実習授業案作成と教材研究
9. 作成授業案発表 実習授業用教材製作及び実習授業の模擬授業
10. 第3回実習 英語活動実習体験

11. ビデオによる授業評価と実習授業案作成と教材研究
12. 作成授業案発表 実習授業用教材製作及び実習授業の模擬授業
13. 第4回実習 英語活動実習体験
14. ビデオによる授業評価 (2)
15. まとめと評価

準備学習

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行っておく。

課題・評価方法

授業案、模擬授業、作成した教材教具、実習授業などを総合的に評価する

欠席について

参加型授業であるので必ず出席すること。

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂

留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅲ			13737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。

授業の概要

英語教育の第1目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業と討論を通して考える。

授業計画

1. 英語教育の目標と学習指導要領
2. 第1言語習得と第2言語習得
3. 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法～ダイレクト・メソッド
4. 主な外国語教授法の流れ(2) オーラル・メソッド～オーラル・アプローチ
5. コミュニカティブ・アプローチの言語理論と指導原理(1)
6. コミュニカティブ・アプローチの言語理論と指導原理(2)
7. コミュニカティブ・アプローチの言語理論と指導原理(3)
8. 教材研究と授業の準備、授業の構成、学習指導案の作成と授業の進め方
9. 授業の工夫(1) ウォーム・アップと復習、クラスルーム・イングリッシュ
10. 授業の工夫(2) 文法・文型の導入、文法・文型の練習と発展活動
11. 授業の工夫(3) 語彙の導入と指導、本文の読解指導
12. 模擬授業
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 模擬授業のまとめ

準備学習

- ・ Grammar I～IIIを徹底的に復習するなどして、文法力を向上させておくこと。
- ・ 中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂著『英語科教育実習ハンドブック』改訂版（大修館）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・ 平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。
- ・ 毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅳ			13741	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小野 礼子	選択	2				

授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。

授業の概要

英語科教育法Ⅰ～Ⅲで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等について討論を行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

授業計画

1. 学習指導要領における各科目の目標と内容
2. 模擬授業の準備(1)
3. 模擬授業の準備(2)
4. 模擬授業の準備(3)
5. 模擬授業の準備(4)
6. 模擬授業と授業観察 1(1)
7. 模擬授業と授業観察 1(2)
8. 模擬授業と授業観察 1(3)
9. 模擬授業と授業観察 2(1)
10. 模擬授業と授業観察 2(2)
11. 模擬授業と授業観察 2(3)
12. 模擬授業のまとめ
13. 評価とテスト(1)
14. 評価とテスト(2)
15. 教育実習に向けて

準備学習

『英語科教育実習ハンドブック』第3～14章及び英語科教育法Ⅲで使用したハンドアウトの3と4をよく読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂著『英語科教育実習ハンドブック』改訂版（大修館）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）

必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、課題、模擬授業の観察・参加の記録、及び出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

展開科目〈英語教育科目（児童・中高）〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法			13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	選択	2				

授業の到達目標

外国語教育は、2011年度からは小学校でも必修化されている。小学校、中学、高校、大学では、どんな授業法で英語教育がなされているのか、発達の流れに沿って、外国語「教授法」について「学習」する。

授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに出来ない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か？本授業では、外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、効果的な外国語学習法とは何かを考える。

授業計画

1. 外国語授業法の歴史
2. 英語学習に「成功する人」vs「しない人」
3. 教授法の理論的背景・指導法の特徴・現代的意義「Grammar-translation Method」
4. 教授法の理論的背景・指導法の特徴・現代的意義「Oral Method」[Oral Approach]
5. 中等英語教育のための模擬授業案作成
6. 模擬授業と評価 (1)
7. 教授法の理論的背景・指導法の特徴・現代的意義「Total Physical Response」
8. 教授法の理論的背景・指導法の特徴・現代的意義「Natural Approach」[Chants]
9. 教授法の理論的背景・指導法の特徴・現代的意義「Communicative Approach」

10. 教授法の理論的背景・指導法の特徴・現代的意義「Cognitive Approach」他
11. 教授法の理論的背景・指導法の特徴・現代的意義「Task-Based Language Teaching」
12. 初等英語教育のための模擬授業案作成
13. 模擬授業と評価 (2)
14. 指導・授業・評価の一体化
15. まとめ「効果的な外国語学習法を考える」

準備学習

テキストは読んでおくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、模擬授業などプレゼンテーションを行い、評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

テキスト

英語科教育法の構築と展開

参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC入門 1			13801	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
土橋 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEICテスト400点到達を目指す。TOEIC攻略に必要な英語力（特にTOEIC必須単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につけることを目標とする。

授業の概要

TOEICテスト400点到達を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。テストに出やすい文法事項の確認から始め、頻出の場面設定や文書ごとの語彙や言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。Listening、Reading両パートとも学習を進めるが、特にスコアを伸ばしやすいListeningと、その力を付けるための音読に力を入れる。目標スコア達成のため、授業では原則として小テストを毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス、人物の動作と状態(Part 1 対策)
2. 物の状態と位置(Part 1 対策)
3. 疑問詞を使った疑問文(Part 2 対策)
4. 基本構文(依頼/提案/申し出)と応答の決まり文句(Part 2 対策)
5. Yes/No疑問文(Part 2 対策)
6. 品詞、動詞(Part 5、6 対策)
7. 代名詞・関係代名詞(Part 5、6 対策)
8. 接続詞・前置詞(Part 5、6 対策)
9. 店での会話(Part 3 対策)
10. 電話での会話(Part 3 対策)
11. 表・用紙(Part 7 対策)
12. 手紙・Eメール(Part 7 対策)
13. 留守番電話(Part 4 対策)
14. アナウンス(Part 4 対策)

15. ダブルパッセージ(Part 7 対策)

準備学習

小テストの準備、授業中に指示された課題はしっかりこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

新TOEIC (R)テスト書き込みドリル【全パート入門編】(桐原書店刊)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキスト付属のCDも用いて確実に復習をすること。・英和辞書(紙版、電子辞書いずれも可)を必ず持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に講師の許可を得、指示に従うこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC入門 2			13805	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
土橋 有香	選択	1				

授業の到達目標

TOEIC攻略に必要な英語力（特にTOEIC必須単語と速読力）の習得。また解ける問題を見極め、確実に得点に結びつける方法を身に付けることを目標とする。

授業の概要

TOEIC入門1で習得した知識を元にした授業を行う。公式問題集Vol.3(公式本の中では易しいとされる)を使用し、実際のTOEICテストのレベルと量に慣れていく。解ける問題とそうでない問題を識別する練習(TOEICは200問全問に100%の力を注ぐ必要はない)、知らない単語に行きあたっても文章の流れに沿って意味を推測する練習などを行うことによってTOEICに対する意識を根底から変え、各自の目標スコア獲得を目指す。授業では小テストを原則として毎回実施する。

授業計画

1. ガイダンス Part 1、7(1つの文書)対策
2. Part 1、7(1つの文書)対策
3. Part 2、6 対策
4. Part 3、5 対策
5. Part 4、5 対策
6. ハーフ模試(1)
7. ハーフ模試(1)解答・解説
8. Part 1、7(1つの文書)対策
9. Part 1、7(2つの文書)対策
10. Part 2、7(2つの文書)対策
11. Part 3、6 対策
12. Part 3、5 対策
13. Part 4、5 対策

14. ハーフ模試(2)

15. ハーフ模試(2)解答・解説

準備学習

・小テストの準備をしっかり行うこと。・授業中に指示された課題は必ずこなすこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

TOEIC (R)テスト新公式問題集Vol.3(国際ビジネスコミュニケーション協会刊)

参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

留意事項

・テキストに付属のCDも用いて確実に復習をすること。・英和辞書(紙版、電子辞書いずれも可)を必ず持参すること。スマホアプリ辞書の使用は事前に講師の許可を得、指示に従うこと。

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（初等）			13809	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

保育・教育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職・保育職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。

授業の概要

教育の意義と教師（保育者）の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。

教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師（保育者）への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育とは何か・・・人間形成と教師（保育者）の役割
3. 教職の意義
4. 教職の歴史
5. 保育・初等中等教育と教員
6. 教師（保育者）に求められる資質と能力
7. 保育士の制度的位置づけ、教員の身分及び服務義務
8. 教員の職務について（1）
9. 教員の職務について（2）
10. 教育課程とは
11. 障害を受けている子どもの教育と課題
12. 開かれた保育所・幼稚園・学校づくり・地域社会との連携

13. 子どもと保護者・保育・教育の現状と課題
14. 優れた教師・魅力的な教師（保育者）を目指して
15. まとめ

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

長尾和英編『教職と人間形成』八千代出版

展開科目〈展開科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学			13813	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。

授業の概要

不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいのかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的課題をとりあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

1. 子どもの問題行動の理解と援助－不登校
2. 子どもの問題行動の理解と援助－いじめ
3. 子どもの問題行動の理解と援助－虐待
4. 子どもの問題行動の理解と援助－摂食障害・対人恐怖
5. 教師と児童生徒の人間関係
6. 家庭的背景の理解
7. 学級への適応
8. 発達観と教育
9. 人格の形成
10. 自己理解を育てる
11. 感情を育てる
12. 社会性と道徳性
13. 教育評価と学習指導
14. 発達障害の理解－ADHD、学習障害

15. 発達障害の理解－アスペルガー症候群

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『こころの発達と教育臨床』澤田瑞也 ほか著 2001年、培風館

参考図書

随時紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 1			13817	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

TOEICのスコアを550点獲得を目指す。また、各自がリスニング、リーディング共に弱点を克服することも目標とする。

授業の概要

コンピュータのソフトを使用し、各自のレベルに合わせてスキルアップを図る。また、並行してプリント等の教材を配布し、文法事項や読解力をあげるための解説も行う。

授業計画

- 1.introduction
- 2.software 1, 配布教材
- 3.software 2, 配布教材
- 4.software 3, 配布教材
- 5.software 4, 配布教材
- 6.software 5, 配布教材
- 7.software 6, 配布教材
- 8.software 7, 配布教材
- 9.software 8, 配布教材
- 10.software 9, 配布教材
- 11.software 10, 配布教材
- 12.software 11, 配布教材
- 13.software 12, 配布教材
- 14.software 13, 配布教材
- 15.software 14, 配布教材

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき、2点減点とする

テキスト

TOEIC TEST 対策Aコース, Newton
その他は授業中に提示

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC 2			13821	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

TOEICのスコアを600点獲得を目指す。また、各自がリスニング、リーディング共に弱点を克服することも目標とする。

授業の概要

コンピュータのソフトを使用し、各自のレベルに合わせてスキルアップを図る。また、並行してプリント等の教材を配布し、文法事項や読解力をあげるための解説も行う。

授業計画

- 1.introduction
- 2.software 1, 配布教材
- 3.software 2, 配布教材
- 4.software 3, 配布教材
- 5.software 4, 配布教材
- 6.software 5, 配布教材
- 7.software 6, 配布教材
- 8.software 7, 配布教材
- 9.software 8, 配布教材
- 10.software 9, 配布教材
- 11.software 10, 配布教材
- 12.software 11, 配布教材
- 13.software 12, 配布教材
- 14.software 13, 配布教材
- 15.software 14, 配布教材

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

TOEIC TEST 対策Aコース, Newton
その他は授業中に提示

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEFL			13825	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平野 真理子	選択	2				

授業の到達目標

TOEFLの得点アップを目指す。

授業の概要

特に英文読解とリスニングに焦点をあて基礎固めをする。試験ではかなりの長文を限られた時間内に読むことが要求されるため、辞書なしで長文を読み、大意を掴む練習を重ねる。リスニングに関しては、試験によく出される単語を中心にボキャブラリーを増やしていく。

授業計画

- 1.introduction : Skim & Scan Part 1
Listening 1
- 2.Skim & Scan Part 2
Listening 2
- 3.Chapter 1 Part 1
Listening 3
- 4.Chapter 1 Part 2
Listening 4
- 5.Chapter 2 Part 1
Listening 5
- 6.Chapter 2 Part 2
Listening 6
- 7.Chapter 3 Part 1
Listening 7
- 8.Chapter 3 Part 2
Listening 8

- 9.Chapter 4 Part 1
Listening 9
- 10.Chapter 4 Part 2
Listening 10
- 11.Chapter 5 Part 1
Listening 11
- 12.Chapter 5 Part 2
Listening 12
- 13.Chapter 6 Part 1
Listening 13
- 14.Chapter 6 Part 2
Listening 14
- 15.Review
Listening 15

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

Technical Skills for Extensive and Intensive Reading,
EIHOSHA

TOEFL Short Listening Course, SEIBIDO

展開科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等		13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
丸岡 幸一	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育の基本的な概念を歴史的な背景をふまえて、理解するとともに「道徳の時間の指導」のために必要な基本的事項の習得を目指す。そして、同時に具体的な事例や資料を通して自らが反省的考察を行い、道徳実践力を養う。

授業の概要

日本の道徳教育の変遷について概観し、そこから今日求められている道徳教育のあり方を考察するとともに、道徳教育の本質及び目標、外国の道徳教育の実情とわが国の道徳教育の比較などを取り上げ、道徳教育の理解を深める。そして、実際に「道徳の時間の指導」のために必要な、指導案の作成及び指導方法や評価についても取り上げ検討する。

授業計画

- 1.はじめに 一 道徳・道徳教育とは一
- 2.道徳教育の歴史① 一 明治の道徳教育一
- 3.道徳教育の歴史② 一 大正・昭和戦前の道徳教育一
- 4.道徳教育の歴史③ 一 敗戦後の道徳教育一
- 5.道徳教育の本質と目標
- 6.道徳教育の内容
- 7.道徳教育の全体構想と計画
- 8.道徳の時間の指導① 一 年間指導計画の作成一
- 9.道徳の時間の指導② 一 学習指導案の作成(その1)一
- 10.道徳の時間の指導③ 一 学習指導案の作成(その2)一
- 11.道徳の時間の指導④ 一 学習指導の方法一
- 12.道徳教育の評価

- 13.道徳教育と宗教
- 14.諸外国の道徳教育
- 15.まとめと道徳教育の今日的課題

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点50%のうち、出席は30%、小テスト20%とする。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領解説 道徳編」(日本文教出版)

文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総則編」(東山書房)

参考図書

授業の中で適宜紹介する。

留意事項

教師をめざす学生として、新聞・テレビ等の教育関連報道にある程度の関心を持ち、授業に臨むこと。

現代人間学部 観光ホスピタリティ学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
予備演習	①/②/③		15101	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正／箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

3名の教員がそれぞれ5回ずつ演習ガイダンスを行う。それぞれの分野について理解を深めることによって、学生は3年次以降の演習を選択し、研究分野を決定する。

授業の概要

3名の教員はそれぞれの専門に即して、「ホスピタリティ産業」、「航空業界」、「文化」の3部門を取り上げ、それぞれ5回の演習授業を行う。授業内容には成績評価のための発表・試験・レポート・まとめの時間も含む。

授業計画

- 1.ホスピタリティ産業①神戸のホテルとポジショニング「私が作りたいホテル」
- 2.ホスピタリティ産業②神戸のホテルとポジショニング「私が作りたいホテル」グループ発表
- 3.ホスピタリティ産業③神戸のホテルとポジショニング「私が作りたいホテル」グループ発表
- 4.ホスピタリティ産業④神戸のブライダル事情
- 5.ホスピタリティ産業⑤まとめ
- 6.航空業界①オープンスカイと現在の航空業界・アメリカのケース
- 7.航空業界②オープンスカイと現在の航空業界・ヨーロッパのケース
- 8.航空業界③オープンスカイと現在の航空業界・アジアのケース
- 9.航空業界④グループ発表

- 10.航空業界⑤まとめと課題レポート提出
- 11.文化①外国に発信する日本文化・海外における日本のマンガ需要
- 12.文化②外国に発信する日本文化・マンガ大国日本の歩みと現在
- 13.文化③外国に発信する日本文化・日本のマンガが果たす社会的役割と国際的役割
- 14.文化④外国に発信する日本文化・発表と討議
- 15.文化⑤外国に発信する日本文化・発表と討議

準備学習

基礎演習で学んだことを復習しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席不可。

テキスト

授業中に指示する。

参考図書

授業中に指示する。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	a		15105	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

これまでの欧米の航空業界の歴史やアメリカから始まった規制緩和と政策、さらに世界のオープンスカイの流れの中で脚光を浴びてきたLCC（格安航空会社）を含め現在の航空業界の全体像を各自がテキストを利用して理解していく。演習では各自課題を見つけ、発表担当者が課題の発表を行い全員で討議できるようにする。

授業の概要

戸崎 肇著『これからの航空ビジネス早わかり』をテキストに現在の航空産業の仕組みや問題点を理解する。その中から代表的な航空会社や成長してきた格安航空会社の研究、空港問題、世界のライアンス競争など航空やホスピタリティに関するテーマを中心に、各人が担当日に発表を行う。発表演習を通して4年次の卒業研究のテーマを見つける予備段階に位置づける。なお演習の一環として、関空など学外での調査・見学なども都合が許せば実施する予定である。（学外調査・見学は都合により土曜日や日曜日になることもある）

授業計画

- 1.演習概要の説明。オーストラリア短期研修でのゼミ課題レポート発表(その1)
- 2.オーストラリア短期研修でのゼミ課題レポート発表(その2)
- 3.テキストと課題レポート発表について
- 4.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 5.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 6.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 7.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 8.学外調査・見学会または担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 9.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 10.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 11.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 12.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 13.担当者課題別レポート発表と全員での討議
- 14.夏期休暇中の各自のテーマ設定について

15.まとめ

準備学習

世界の航空各社の動向や空港問題、オープンスカイ、LCCの動向やホスピタリティ産業全体についてのニュースなど毎日注目しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

発表当日は必ず出席の事。正当な理由以外の欠席は認めない。

テキスト

『図解これからの航空ビジネス早わかり』 戸崎 肇 (2010) 中経出版

参考図書

『航空産業入門』 (株) ANA総合研究所編 (2008) 東洋経済新報社

留意事項

発表当日は必ず出席の事。ゼミでは自発性、積極性、協調性などが重要事項になり、担当課題レポート発表とそれに対する参加者の意見発表などを評価する。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		15105	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

宿泊業、料飲業、ブライダル業などホスピタリティ産業における『過去・現在・未来』を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」＝問題解決能力・調査能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を目標とし、総合的人間力育成を図る。

授業の概要

演習は共通テーマ・個別テーマを設ける。受講生は調査、考察、発表を行う。演習を通して4年次の卒業研究のテーマを見つける予備段階とする。尚、前期・後期を通じてフィールドワーク（ホテルイベント見学等、土曜日・日曜日になることもある）も行う。

授業計画

1. ガイダンス
2. テーマの設定
3. テーマの設定
4. 発表と質疑応答
5. 発表と質疑応答
6. 発表と質疑応答
7. 発表と質疑応答
8. 発表と質疑応答
9. 発表と質疑応答
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 発表と質疑応答

13. 発表と質疑応答
14. 発表と質疑応答
15. まとめ

準備学習

日頃より新聞をよく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は認めない。積極的な参加が求められます。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング（ピアソン・エデュケーション）/コトラーのマーケティング講義（ダイヤモンド社）/ジェフリーロビンソン著「THE HOTEL」

留意事項

演習では積極的な授業参加が求められる。パワーポイントが使えるようにすること。フィールドワークが土曜日、日曜日に実施されることもある。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		15105	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。

授業の概要

観光を考える上で欠かせない「文化」についての研究を行う。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また国内に紹介する意義を考察する。卒業研究としては、論文の作成を行うので、学術論文の書き方も指導する。

授業計画

1. はじめに 課題の設定
2. 文献調査検索の仕方
3. 共同課題研究の調査
4. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
5. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
6. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
7. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
8. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
9. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
10. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
11. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評
12. 共同課題の個人担当分の研究発表・討論・講評

13. 論文の書き方(構成)
14. 論文の書き方(引用)
15. 参考文献の示し方

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

必要に応じて随時紹介する。

参考図書

必要に応じて随時紹介する。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		15109	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰで学んだ現在の世界の航空業界全般の流れの知識をベースにして、演習Ⅱでは特に自分が興味を持った分野についてさらにテーマを設定し研究発表できるようにする。

授業の概要

例として全日空と比較しながら欧米の航空会社やLCC（格安航空会社）の成功事例、世界のライアンス競争などから航空やホスピタリティに関する事項を中心に各自の興味のあるテーマを設定し発表していく。演習を通して4年次の卒業研究のテーマを見つける予備段階に位置づける。なお演習の一環として、都合がつく限り関空など学外調査・見学なども途中で実施する予定である。（学外調査・見学は都合により土曜日や日曜日になることもある）。

授業計画

1. 演習概要の説明。各自の夏期課題レポートの発表(その1)
2. 各自の夏期課題レポートの発表(その2)
3. 各自の個人テーマの設定準備について
4. 各自のテーマ別レポート発表と討論
5. 各自のテーマ別レポート発表と討論
6. 各自のテーマ別レポート発表と討論
7. 関空などの学外調査・見学会予定、又は個人テーマの確認
8. 学外調査・見学会レポートの発表と討論、又は個人テーマの確認
9. 各自のテーマ別レポート発表と討論
10. 各自のテーマ別レポート発表と討論
11. 各自のテーマ別レポート発表と討論
12. 各自のテーマ別レポート発表と討論
13. 各自のテーマ別レポート発表と討論
14. 各自のテーマ別レポート発表と討論

15. まとめ

準備学習

世界の航空各社の動向や空港問題、オープンスカイ、LCCの動向やホスピタリティ産業全体のニュースを毎日注目しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

発表当番日は必ず出席の事。正当な理由以外の欠席は認めない。

テキスト

なし。必要に応じて随時紹介する。

参考図書

『航空産業入門』（株）ANA総合研究所（2008）東洋経済新報社

留意事項

発表当番日は必ず出席の事。ゼミでは自主性、積極性、協調性を重視し、各自のテーマ発表内容とそれに対する質疑などを評価する。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		15109	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

宿泊業、料飲業、プライダル業などホスピタリティ産業における『過去・現在・未来』を考察していく。「疑問に思う」「調べる」「考える」「伝える」＝問題解決能力・調査能力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を目標とし、総合的人間力育成を図る。

授業の概要

演習は共通テーマ・個別テーマを設ける。受講生は調査、考察、発表を行う。演習を通して4年次の卒業研究のテーマを見つける予備段階とする。尚、前期・後期を通じてフィールドワーク（ホテルイベント見学等、土曜日・日曜日になることもある）も行う。

授業計画

1. ガイダンス
2. 発表と質疑応答
3. 発表と質疑応答
4. 発表と質疑応答
5. 発表と質疑応答
6. 発表と質疑応答
7. 発表と質疑応答
8. 発表と質疑応答
9. 発表と質疑応答
10. フィールドワーク
11. フィールドワーク
12. 発表と質疑応答

13. 発表と質疑応答

14. 発表と質疑応答

15. まとめ

準備学習

日頃より新聞をよく読むこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は認めない。積極的な参加を求める。

参考図書

コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング（ピアソン・エデュケーション）/コトラーのマーケティング講義（ダイヤモンド社）/ジェフリーロビンソン著「THE HOTEL」

留意事項

演習では積極的な授業参加が求められる。フィールドワークが土曜日、日曜日を実施されることもある。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		15109	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。

授業の概要

観光を考える上で欠かせない「文化」についての研究を行う。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また国内に紹介する意義を考察する。

卒業研究としては、論文の作成を行うので、学術論文の書き方も指導する。

授業計画

1. 課題の設定
2. 個人課題研究の調査
3. 個人課題研究の発表・討論・講評
4. 個人課題研究の発表・討論・講評
5. 個人課題研究の発表・討論・講評
6. 個人課題研究の発表・討論・講評
7. 個人課題研究の発表・討論・講評
8. 個人課題研究の発表・討論・講評
9. 個人課題研究の発表・討論・講評
10. 個人課題研究の発表・討論・講評
11. 個人課題研究の発表・討論・講評
12. 個人課題研究の発表・討論・講評

13. 論文の書き方(構成)
14. 論文の書き方(引用)
15. 参考文献の示し方

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う

テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する

参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究の作成に向けて各自のテーマの絞り込みを図り、文献、資料収集、調査などを毎回積み重ねながら、各自の最終の方向性を確立することを目指す。

授業の概要

前半で各自の研究テーマが絞り込めるよう、参考論文などの文献、資料の調査、収集を図りながら行程表を作成する。後半で各自のテーマにそって経過発表を中心に討議し、最終的な方向性を確立していく。

授業計画

1. 演習Ⅲのガイダンス
2. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
3. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
4. 各自の研究テーマ・研究方法の討議・行程表の作成
5. 各自の研究テーマにそって参考論文、文献、資料調査と課題の発見
6. 各自の研究テーマにそって参考論文、文献、資料調査と課題の発見
7. 各自の研究テーマにそって参考論文、文献、資料調査と課題の発見
8. 各自の研究テーマにそって参考論文、文献、資料調査と課題の発見
9. 各自の研究テーマにそって参考論文、文献、資料調査と課題の発見
10. 各自の研究テーマの内容について中間発表と質疑応答

11. 各自の研究テーマの内容について中間発表と質疑応答
12. 各自の研究テーマの内容について中間発表と質疑応答
13. 各自の研究テーマの内容について中間発表と質疑応答
14. 夏期休業中における各自の研究テーマの調査について
15. まとめ

準備学習

各自の研究テーマにそったトピックについて文献・資料・新聞記事を精読する

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

個人発表があるので欠席は原則として認めない

テキスト

各自の研究テーマに沿って指示、推薦をする

参考図書

各自の研究テーマに沿って指示、推薦をする

留意事項

主体的に各自がテーマを設定し、発表時は全員が積極的に討議に参加することが望まれる。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとして、ホスピタリティ産業の戦略的マーケティングを考えていく。受講生がこれまで取り上げたテーマをより探求する。(演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ研究課題の全体像を描く)

授業の概要

個人テーマを中心に資料収集、レポートの作成、プレゼンテーションに取り組む。

研究の進捗状況を踏まえ、積極的にフィールドワークを行い、ホスピタリティ産業の現状を認識する。

授業計画

1. ガイダンス及び研究計画の立案
2. 研究計画のスケジュールの発表
3. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
4. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
5. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
6. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
7. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
8. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
9. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
10. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
11. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
12. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
13. 個別テーマごとの発表・ディスカッション
14. 個別テーマごとの発表・ディスカッション

15.まとめ

準備学習

新聞・雑誌などから情報収集を行う事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席は認めない。

参考図書

適宜紹介

留意事項

積極的な授業参加を求める。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	必修	2				

授業の到達目標

卒業論文の論題の設定から作成の準備について、全体指導および個人指導を行うとともに、海星ホスピタリティの充満を目指す。

授業の概要

卒業論文について、研究テーマの設定・構成等の考え方、資料等の収集や参考文献検索の指導を行い、また目標にあげた人材育成を兼ねた現地視察などを実施することによりこの成果をあげたい。

授業計画

1. 「演習Ⅲ」の進め方
2. 卒業論文の研究テーマ設定について
3. 卒業論文の研究テーマ(案)の発表①
4. 卒業論文の研究テーマ(案)の発表②
5. 資料の収集・まとめ方について
6. 学外実地研修①
7. 学外実地研修②
8. 学外実地研修の成果・発表・討論・講評
9. 卒業論文の作成準備・発表・討論①
10. 卒業論文の作成準備・発表・討論②
11. 卒業論文の作成準備・発表・討論③
12. 卒業論文の作成準備・発表・討論④
13. 学外実地研修③
14. 学外実地研修④
15. 「演習Ⅲ」のまとめ

準備学習

日常生活においても卒業論文の構成を考えること。

課題・評価方法

課題・評価方法：①平常点(出席点)30% ②卒論推進評価点50% ③ゼミ交流評価点20%

欠席について

大学の規定に従う。

参考図書

「観光・旅行用語辞典」北川宗忠編著 ミネルヴァ書房

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		15113	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。

授業の概要

観光を考える上で欠かせない「文化」についての研究を行う。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評

15. 個人課題の研究発表・討論・講評

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定にしたがう

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

各自が行程表にそって卒業研究を完成させ、できれば将来の進路も展望できるように指導する。

授業の概要

各自の行程表にそって卒業研究を完成させるよう指導。ゼミ生間で情報も共有し、テーマに対するアプローチの方法などをお互いに討議しながら、各自が主体的にテーマに取り組んでいく。

授業計画

1. 演習Ⅳのガイダンス
2. 各自の研究テーマの経過発表と方向性の確認
3. 各自の研究テーマの経過発表と方向性の確認
4. 各自の研究テーマの経過発表と方向性の確認
5. 各自の研究テーマの経過発表と方向性の確認
6. 各自の研究テーマの経過発表と方向性の確認
7. 各自の研究テーマの経過発表と方向性の確認
8. 各自の研究テーマの経過発表と方向性の確認
9. 研究レポートの修正・最終検討
10. 研究レポートの修正・最終検討
11. 研究レポートの修正・最終検討
12. 研究レポートの発表とまとめ
13. 研究レポートの発表とまとめ
14. 研究レポートの発表とまとめ
15. まとめ

準備学習

各自の行程表にそって研究テーマに関する文献・新聞などから資料を準備する

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

個人発表があるので欠席は原則として認めない。

テキスト

各自の研究テーマにそって適宜指示する

参考図書

各自の研究テーマにそって適宜指示する

留意事項

主体的に研究テーマの完成に取り組むこと。ゼミでの発表と討議は積極的に取り組むこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

観光関連科目のまとめとして、ホスピタリティ産業の戦略的マーケティングを考えていく。受講生がこれまで取り上げたテーマをより探求する。(演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ研究課題の全体像を描く。)

授業の概要

卒業研究を前提に個別テーマに取り組む。研究の進捗状況を発表し、検討会をおこなう。

授業計画

1. ガイダンス・研究テーマについて
2. 研究テーマについて
3. 個別研究の進捗状況の発表
4. 個別研究の進捗状況の発表
5. 個別研究の進捗状況の発表
6. 個別研究の進捗状況の発表
7. 個別研究の進捗状況の発表
8. 個別研究の進捗状況の発表
9. 個別研究の進捗状況の発表
10. 個別研究の進捗状況の発表
11. 個別研究の進捗状況の発表
12. 個別研究の進捗状況の発表
13. 個別研究の進捗状況の発表
14. 個別研究の進捗状況の発表
15. まとめ

準備学習

新聞・雑誌などで情報収集

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

認めない

参考図書

適宜紹介

留意事項

積極的な参加を求める。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	必修	2				

授業の到達目標

「演習Ⅰ」～「演習Ⅲ」をふまえて、「演習Ⅳ」では卒業論文の作成から完成・発表まで、全員のレベルアップを図りながら、個人指導を行うとともに、海星ホスピタリティあふれた人材の育成を目標とする。

授業の概要

卒業論文の完成に向けて、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「演習Ⅲ」と積み上げてきたものをこの「演習Ⅳ」でまとめる。卒業論文の完成に向けて、最終の指導、最後の発表機会を通じて成果をまとめる。

授業計画

1. 「演習Ⅳ」の進め方
2. 卒業論文の「論題」決定
3. 卒業論文の「作成」指導①
4. 卒業論文の「作成」指導②
5. 卒業論文の「作成」指導③
6. 卒業論文の「作成」指導④
7. 卒業論文の「まとめ」指導①
8. 卒業論文の「まとめ」指導②
9. 卒業論文の「まとめ」指導③
10. 卒業論文の「まとめ」指導④
11. 卒業論文の発表①
12. 卒業論文の発表②
13. 卒業論文の発表③
14. 卒業論文の発表④

15. 「演習Ⅳ」のまとめ

課題・評価方法

課題・評価方法：①平常点（出席点）30% ②卒論完成への努力点50% ③ゼミ交流点20%

欠席について

大学の規定に従う。

参考図書

「観光・旅行用語辞典」北川宗忠編著 ミネルヴァ書房

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		15117	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

観光とは、ただ視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれる理由を知る。

授業の概要

観光を考える上で欠かせない「文化」についての研究を行う。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また国内に紹介する意義を考察する。

授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評

15. 個人課題の研究発表・討論・講評

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定にしたがう

テキスト

随時紹介する

参考図書

随時紹介する

基礎科目〈基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光とホスピタリティ			15201	I	集中	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	必修	2				

授業の到達目標

サービス業に従事することを目指す者として身につけたいホスピタリティ・マインドとマナーを学習する。また、観光関連事業の各業種別の実務の基本を学び、「夢」を「現実」にするパワーを体得する。

授業の概要

1964年の海外旅行の自由化から、間もなく50年。経済の動向、戦乱、テロ、伝染病等の様々な出来事に翻弄されながらも成長を続けてきた観光業界。それは、まさにホスピタリティ・マインドの成せる技であった。観光業界での30余年にわたる経験に基づいて観光とホスピタリティの相関関係を論じていく。

授業計画

1. ガイダンス・第一印象の重要性
2. 演習としての自己紹介、第一印象についてのまとめ
3. 日本人ならではのホスピタリティ・マインドと国際感覚の両方をみがく
4. 「ホスピタリティ」「サービス」の概念、聖書の中のホスピタリティ
5. ホスピタリティサービス産業の種類、歴史、特性、現状、将来
6. 旅行会社における業務(1)
7. 旅行会社における業務(2)
8. ホテル、旅館における業務
9. 運輸機関における業務
10. 冠婚葬祭関係の業務
11. ホスピタリティ・マインドの育て方
12. 美しい日本語を使う重要性和、外国語を学ぶ意義
13. トラブル、クレーム処理、危機管理能力の育て方と自己の精神力維持法

14. 国際社会における日本とホスピタリティサービス産業
15. まとめ

準備学習

日帰りでも良いので、機会があるごとに観光にでかけること。その際に、関連事業に携わる人々を観察すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席と積極的な授業参加を求める。欠席は1回につき5点の減点とする。

テキスト

特に使用しない。

参考図書

授業において紹介する。

留意事項

サービス業において時間励行は非常に大切なことなので、遅刻しないように最大限の努力をすること。出席と講義における学習態度と意欲を重視する。

基礎科目〈基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			15213	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	必修	2				

授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。

授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、歴史的な発展過程において考察していきたい。また、現代において、その芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時、関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

授業計画

1. 落語(前座の役割「寿限無」「芝浜」)
2. 落語(児童文学としての落語・桂枝雀「くっしゅみ講釈」「まんじゅうこわい」)
3. 落語(海外へ:英語落語の可能性・桂枝雀「鷲取り」)
4. 歌舞伎(江戸歌舞伎の名優 市川団十郎の「勸進帳」)
5. 歌舞伎(現代歌舞伎:野田秀樹による新しい脚本 市川染五郎・中村勘太郎の「研辰の討たれ」)
6. 歌舞伎(日本作品を海外へ:和事歌舞伎の新演出 中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演)
7. 歌舞伎(海外作品を日本へ:NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」)
8. 文楽(文楽を支える芸員とは)
9. 文楽(鑑賞教室の予習)
10. 文楽(鑑賞教室「伊達娘恋緋鹿子」菅原伝授手習鑑)
11. 能楽(狂言:野村萬斎「附子」)
12. 能楽(大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言 東と西の芸風の違いをみる 「棒縛」「末広がり」)
13. 能楽(能:安陪清明「陰陽師」と丑の刻詣り)

14. 能楽(能:シテ方・ワキ方・狂言方)「鉄輪」
15. 能楽(野村萬斎の可能性 狂言風演出の現代劇「中島敦『弟子』」)

準備学習

歴史において、それぞれがどの時代にどのように発展したかを確認しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

6月9日の国立文楽劇場文楽鑑賞教室への参加は絶対条件である。(指定日に参加できないときは、別日に個人で鑑賞することになる。)

テキスト

プリントを配布する。

参考図書

授業中に随時、紹介する。

留意事項

6月9日(土曜日)に国立文楽劇場(大阪市中央区日本橋)へ文楽鑑賞に行く。(14時開演予定。約2時間半。全員参加。)

基幹科目／基礎科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティサービス論			15301	I	集中	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	必修	2				

授業の到達目標

Hospitalityとは何かを学び、Hospitalityをする側、受ける側の心情について研究する。将来、職務についた際に、把握した内容を実際に発揮できるような人材を育成する。

授業の概要

ホスピタリティサービスとはどのようなものであるかを、知識、技術の両面において体得させる。ワークショップ、ケーススタディを取り入れて問題提起をし、学生の問題解決に対する力を養う。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティとサービス
3. ホスピタリティについてのワークショップ1
4. ホスピタリティについてのワークショップ2
5. なぜ今ホスピタリティなのか
6. ホスピタリティとは
7. ホスピタリティをどう発揮するか
8. ホスピタリティ導入におけるリーダーの役割
9. サービス産業に必要な人材は
10. ホスピタリティの訓練
11. マーケティングとホスピタリティ1
12. マーケティングとホスピタリティ2
13. ホスピタリティについてのワークショップ3
14. ケーススタディ
15. まとめ

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

参考図書

適宜紹介

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語Ⅰ	a/b/c	15325	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
入江 和子／平野 真理子／高谷 華	必修	2			

授業の到達目標

世界各国の文化、地理、社会的なテーマ、サイエンス、アドベンチャーなどの幅広い分野を題材にした英文を読みながら語彙力と読解力を深めていく。取り扱うテーマに必要な英語表現やキーワードは確実に習得することを目標とする。さらに、単に英文の内容を理解するだけでなく、現代人として問題意識を持ち自らの考えを明確にすることも目指す。

授業の概要

ナショナルジオグラフィックの写真や映像を併用しながら様々なテーマや社会問題について英文を読み進める。英文を読む際の準備として確認クイズやディスカッションを行う。精読後は英文の構造や内容に関しての問題を解きながらリスニングの方面からも理解を深める。

授業計画

1. Introduction
2. UNIT 1A
3. UNIT 1B
4. UNIT 2A
5. UNIT 2B
6. UNIT 3A
7. UNIT 3B
8. REVIEW 1
9. UNIT 4A
10. UNIT 4B
11. UNIT 5A

12. UNIT 5B
13. UNIT 6A
14. UNIT 6B
15. REVIEW 2

準備学習

必ず予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

- Reading Explorer 4 (a class)
- Reading Explorer 3 (b class)
- Reading Explorer 2 (c class)

基幹科目〈基幹科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英語Ⅱ	a/b/c	15329	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
平野 真理子／入江 和子／高谷 華	必修	2			

授業の到達目標

春学期に引き続き、世界各国の文化、地理、社会的なテーマ、サイエンス、アドベンチャーなどの幅広い分野を題材にした英文を読みながら語彙力と読解力を深めていく。取り扱うテーマに必要な英語表現やキーワードは確実に習得することを目標とする。さらに、単に英文の内容を理解するだけでなく、現代人として問題意識を持ち自らの考えを明確にすることも目指す。

授業の概要

ナショナルジオグラフィックの写真や映像を併用しながら様々なテーマや社会問題について英文を読み進める。英文を読む際の準備として確認クイズやディスカッションを行う。精読後は英文の構造や内容に関しての問題を解きながらリスニングの方面からも理解を深める。

授業計画

1. UNIT 7A
2. UNIT 7B
3. UNIT 8A
4. UNIT 8B
5. UNIT 9A
6. UNIT 9B
7. REVIEW 1
8. UNIT 10A
9. UNIT 10B
10. UNIT 11A

11. UNIT 11B
12. UNIT 12A
13. UNIT 12B
14. REVIEW 2
15. REVIEW 3

準備学習

必ず予習をしてこよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

一回欠席につき、2点減点とする。

テキスト

- Reading Explorer 5 (a class)
- Reading Explorer 3 (b class)
- Reading Explorer 2 (c class)

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門Ⅰ			15333	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	2				

授業の到達目標

韓国語入門Ⅰでは、初めて韓国語を学習する学生が、ハングル（韓国語を表現する文字）及び韓国語の文型と語彙を習い、それを活用して簡単な日常会話が可能になることを授業の目標とする。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「課題の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語についての基本的な説明
2. ハングルの基本母音について
3. ハングルの基本子音について
4. ハングルの合成母音(複合母音)について
5. ハングルのパッチムについて
6. ハングルの基本のまとめ
7. 辞典の引き方、発音変化について、『中間テスト』
8. 会話中心の基本表現-1:『～は、～です。』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-2:『～が、～ですか?』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-3:『～ではありません。～ではありませんか?』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-4:『います/あります。いません/ありません。』表現を中心に
12. 会話中心の基本表現-5:『～します/しますか? 何?』表

現を中心に

13. 会話中心の基本表現-6:『へヨ体(します/しますか?)』、『ヨ体(あります/ありません)』表現を中心に
14. 場面会話演習
15. 授業のまとめ

準備学習

テキストの予習

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（復習反復は重要）

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語入門Ⅱ			15337	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
宋 京珠	選択	2				

授業の到達目標

韓国語入門Ⅱでは、同入門Ⅰで学習した内容を踏まえた上で、更に韓国語の表現方法を学習し、韓国語によるコミュニケーション力を高め、日常会話の幅を広げることを授業の目標とする。

授業の概要

学生の自主参加により、学生の韓国語学習に対する興味を引き出しながら、「学習表現の反復練習とコミュニケーション中心」に授業を展開し、実際に使える韓国語学習の手助けとなるよう授業を進める。

授業計画

1. 授業の概要説明と韓国語入門Ⅰの復習および会話中心の基本表現-7:『～です/ます』表現を中心に(1/2)
2. 会話中心の基本表現-7:『～です/ます』表現を中心に(2/2)
3. 会話中心の基本表現-8:『ヨ体:～です/ます』、『～しに』表現を中心に
4. 会話中心の基本表現-9:『ヨ体:～です』、『漢数詞』表現を中心に
5. 会話中心の基本表現-10:『いくつ』、『〇時△分』表現を中心に
6. 会話中心の基本表現-11:『敬語』、『ヨ体敬語』、『敬語の特殊例』表現を中心に
7. 会話中心の基本表現-12:『用言の否定』、『～するといいです』表現を中心に
8. 『中間テスト』、会話中心の基本表現-13:『過去』表現を中心に
9. 会話中心の基本表現-14:『～しましょう/～しよう/何の～』表現を中心に
10. 会話中心の基本表現-15:『～しています/～してください(1)』表現を中心に
11. 会話中心の基本表現-16:『～できる/～できない』表現を中心に

12. 会話中心の基本表現-17:『～したい/～してください(2)』表現を中心に
13. 会話中心の基本表現-18:『～してもいい/～しないでください』表現を中心に
14. 会話中心の基本表現-19:『～しなければならぬ』、『意志をこめる』表現を中心に
15. 会話中心の基本表現-20:『～と思います/～するつもりです』表現を中心、『授業のまとめ』

準備学習

韓国語入門Ⅰ、テキストの予習

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程、最終成績が低減されます。

テキスト

基礎から学ぶ韓国語講座・初級 / 国書刊行会

留意事項

授業で配る補助プリントは各自でファイリングし、毎授業で持参するなど学習に役立てること（復習反復は重要）

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			15341	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
福智 佳代子	必修	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>古来、日本は、外来文化を受け入れ独自のものに姿を変えてきた。本講義では、日本最初の比較文化論『日欧文化比較』（ルイス・フロイス）に記されている『異文化』の視点から、現代の多民族・多文化社会での異文化理解とは何かを考える。</p> <p>授業の概要</p> <p>授業では、ルイス・フロイスが見た異文化の国・日本と、ルイス・フロイスにとっての自文化・西欧について、比較文化の視点から講義を行う。同時に、現代の多文化社会で共生する視点から、自文化と異文化を比較し紹介する「作品」創りを行い、自文化を大事にする自尊の感情と多文化社会の中での共生を学生自ら発信する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 『日欧文化史』ルイス・フロイスが見た16世紀の日本 食(1)小麦文化と米文化 食(2)食事の仕方の日欧比較 「食」発信 旅行案内パワーポイント作成 「食」発信 旅行案内パワーポイント発表 「衣」(1)ルイス・フロイスが見た当時の西欧と日本の「衣服」と「香り」 「衣」(2)世界の民族服と気候・風土の「昔」と「今」 「住」(1)ルイス・フロイスが見た当時の世界の建物と日本の建物 「住」(2)日本の庭・世界の庭 「音楽」「遊び」の文化 日本の遊び世界の遊び

<ol style="list-style-type: none"> 11. 伝統芸能 12. 宗教文化 13. 女性と結婚 14. 「多文化」紹介 パワーポイント作成・発表 15. 「多文化」紹介 パワーポイント作成・発表 <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>テキスト</p> <p>「比較文化論 異文化の理解」山口 修, 齋藤和枝 世界思想社</p> <p>参考図書</p> <p>ヨーロッパ文化と日本文化(岩波文庫) ルイス フロイス</p> <p>留意事項</p> <p>講義内容を踏まえた比較文化紹介のパワーポイントを作成し発表する。平常点として評価するので欠席しないこと。</p>

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光中国語入門			15349	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
橋本 由美子	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>観光サービス業及び個人観光に役に立つ中国語を身につけるために、中国語の発音をしっかり練習して、会話と作文の内容を自由自在使えるようにする。</p> <p>授業の概要</p> <p>大事な中国語発音を繰り返し練習して、具体的な職場を想定し、その対応方法を会話及び作文の形で習得する。同時に中国文化、生活習慣に触れ、中国の歌も一曲歌えるようにチャレンジする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発音練習。会話:貨幣と両替 2. 発音練習。会話:貨幣と両替 3. 発音練習。会話:料理を注文する 4. 発音練習。会話:料理を注文する 5. 発音練習。会話:電話をかける 6. 発音練習。会話:電話をかける 7. 復習(単語の読み書き、文法の理解、会話練習) 8. 作文:上海の旅 1 9. 作文:上海の旅 1 10. 作文:上海の旅 1 11. 復習(単語の読み書き、文法の理解、記述練習) 12. 作文:上海の旅 2 13. 作文:上海の旅 2 14. 作文:上海の旅 2 15. 全体復習(単語、文法、記述、会話)

<p>準備学習</p> <p>毎回の内容を復習すること。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>大学の規定に従う</p> <p>テキスト</p> <p>プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。</p>
--

基幹科目〈基幹科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語入門			15353	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

＜観光客としてフランス（主にパリ）へ旅行する＞ために最低限必要な知識と会話を学ぶ。

授業の概要

フランスの国自体、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について書かれたテキストを講読する。同時に、少し長めの会話文を通して日常生活に役立つ表現を使いこなせるようにしたい。余裕があれば、ホテルで研修中の4人の若者が主人公のビデオ教材（DVD）を通して、会話や文法を再確認しながら、フランスのイメージを具体化する。希望者に応じて仏検指導も行う。

授業計画

1. オリエンテーション「フランス1」「自己紹介」
2. 「フランス2」「予約する」
3. 「フランス3」「待ち合わせ」
4. 「パリ1」「目的地への行き方1」
5. 「パリ」「目的地への行き方2」
6. 「パリ」「インタビューをする1」
7. 「カフェ」「インタビューをする2」
8. 「カフェ」「インタビューをする3」
9. 「カフェ」「インタビューをする4」
10. 「学生生活とフランスの教育システム」「レストランで1」
11. 「学生生活とフランスの教育システム」「レストランで2」
12. 「学生生活とフランスの教育システム」「レストランで3」
13. 「パン、ワイン、チーズ」
14. 「パン、ワイン、チーズ」 フランス映画鑑賞
15. 「パン、ワイン、チーズ」 フランス映画鑑賞

準備学習

フランス語1～8で既習のフランス語の会話、文法事項を見直しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

病気、やむを得ない事情を除いて授業出席は必要不可欠である。欠席をすると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社（フランス語5～8での使用テキストと同じ）
C'est la vie ①、早美出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

留意事項

当該授業には、フランス語1～8若しくはフランス語1～6を履修しているか、それと同等のフランス語力を備えた学生のみが履修可能である。

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インバウンド英語 I			15401	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

旅行業界全体の仕組みを理解して、インバウンド業務に必要な専門知識と旅行業界でよく使われる専門用語を修得し、旅行に関する英語の理解力と表現力を養う。

授業の概要

インバウンド業務に必要な専門知識と英語力を学ぶ。各テーマ毎に専門知識と専門用語の授業を行う。各テーマとして、「観光地と観光ポイント」では特有の単語や表現方法、「交通機関」では旅行者が利用する航空機、鉄道、バス、船舶などの時刻表や運賃、運送規則などについて、「宿泊施設」ではホテルのロケーション、部屋、設備などについて、「現地旅行会社」では日程表やツアー予約の際の条件などについて学ぶ。

授業計画

1. インバウンド英語 I の概要（テーマの説明と内容の紹介）
2. 観光業界の仕組みと旅行会社の組織（ツアーオペレーター の役割）
3. 観光地・観光のポイント（専門知識・専門用語）
4. 観光地・観光のポイント（専門知識・専門用語）
5. 観光地・観光のポイント（専門知識・専門用語）
6. 交通機関（専門知識・専門用語）
7. 交通機関（専門知識・専門用語）
8. 交通機関（専門知識・専門用語）
9. 交通機関（専門知識・専門用語）
10. 宿泊施設（専門知識・専門用語）
11. 宿泊施設（専門知識・専門用語）

12. 宿泊施設（専門知識・専門用語）
13. 現地旅行会社（専門知識・専門用語）
14. 現地旅行会社（専門知識・専門用語）
15. インバウンド英語 I の総括

準備学習

日頃から海外旅行のガイドブックやパンフレットに目を通しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

止むを得ない事情を除き、欠席は認めない。

テキスト

2012旅行英語（JHRS）をテキストとして使用。他にレジメをプリントして使用する。

参考図書

なし

留意事項

旅行会社、ツアーオペレーター、航空会社、ホテルなどに就職を希望する学生に適している。

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インバウンド英語Ⅱ			15405	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

旅行業界全体の仕組みを理解して、インバウンド業務に必要な専門知識と旅行業界でよく使われる専門用語を修得し、旅行に関するより高度な英語の理解力と表現力を養う。

授業の概要

インバウンド英語Ⅰをベースにして、実際に旅行業界で使用されている各業務資料の専門的な業界用語や表現方法を学んで、更に理解度チェックや手配実習を行う事により、より高度で実践的な手配関連業務の知識と英語力を高める授業を行う。

授業計画

1. インバウンド英語Ⅱの概要(テーマの説明と内容の紹介)
2. 業務資料を理解する(1)
3. 業務資料を理解する(2)
4. 業務資料を理解する(3)
5. 業務資料を理解する(4)
6. 業務資料を理解する(5)
7. 業務資料を理解する(6)
8. インバウンド英語実習(理解度チェック1)
9. インバウンド英語実習(理解度チェック2)
10. インバウンド英語実習(理解度チェック3)
11. インバウンド英語実習(理解度チェック4)
12. インバウンド英語実習(理解度チェック5)
13. インバウンド英語実習(手配実習1)
14. インバウンド英語実習(手配実習2)
15. インバウンド英語Ⅱの総括

準備学習

日頃から海外旅行のガイドブックやパンフレットに目を通しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

止むを得ない事情を除いて、欠席は認めない。

テキスト

2012旅行英語(JHRS)をテキストとして使用。他にレジメをプリントして使用する。

参考図書

なし

留意事項

旅行会社、ツアーオペレーター、航空会社、ホテルなどに就職を希望する学生に適している。

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business EnglishⅠ	TH		15409	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

実社会で役に立つビジネスイングリッシュの基本を学ぶ。

授業の概要

英語のビジネスレターの読み書き、封筒の宛名の書き方、社内連絡のメモ・FAX、eメール、サンプルレターのファイリングと活用方法、レジメ、カバーレターの書き方、など基本的なことを学ぶ。またあわせて社会、企業での常識、習慣、ビジネスで使われる日本語についても学ぶ。

基本的な実例を学んだ後で演習(英文和訳、和文英訳)を行う。

授業計画

1. 講義概要、評価方法、教科書、シラバス(講義計画)、ビジネスイングリッシュとは何か。
2. ビジネスレターの構成、レイアウト、レターヘッド、インサイドアドレス、本文とパラグラフなど
3. 社内メモ、レイアウト、構成要素、ヘッディング、ガイドヘディング、略号、決まり事。
4. Eメール、社内LAN、社内文書と対外文書、学校英語と実用英語の違い(丁寧表現)
5. レター1(面会の申し込み)、演習
6. レター2(ホテルの予約)、演習
7. レター3(帰国後の礼状)、演習
8. 社内通信文、レター4(紹介)、演習
9. レター5(招待)、演習
10. レター6(昇進祝い)、演習
11. レター7(お悔やみ)、演習
12. 社内メモ(人事異動)と演習
13. 社内メモ(社内会議の招集)と演習

14. レジメとカバーレターの書き方
15. まとめ

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない場合以外の欠席は認めない。普通の授業に重きを置いているので、遅刻、欠席、不真面目は減点の対象となる。

テキスト

「始めて学ぶビジネス英語」 成美堂 田中武雄著

参考図書

「国際秘書英語」 亀山和夫、成美堂 「国際ビジネスコミュニケーション入門」 亀山和夫、八尾晃共著、成美堂 「英文履歴書の書き方」 有元美津世 ザ・ジャパンタイムズ 「マンガ貿易入門」 輸出入のノウハウはこれでOK 宮下忠雄監修 サンマーク出版

留意事項

英語だけでなく社会で使われる正しい日本語も勉強するので目についた印刷物の表現について普段から関心をもつこと。

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English II	TH		15413	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

Business English I は入門編であるが、Business English II は貿易実務の解説ならびに貿易通信文の作成の演習を行う。入社後、会社で役立つ実践英語の学習方法を修得する。

授業の概要

Business English I に引き続き行うので I、II 継続受講が望ましい。教科書は I、II が一冊に収まっている。授業内容としては I の基本をベースに貿易通信文の作成、貿易実務の基本について学ぶ。あわせて職場の常識などを企業在籍の経験談を加えながら指導する。

授業計画

1. 講義概要、シラバス概要、評価方法、貿易と貿易通信文の基本
2. 取引関係の創設、取引先の選定、取引先の斡旋依頼
3. 信用照会、銀行、商業興信所、貿易に係る企業の役割
4. 取引の申し込み
5. 取引申し込みの承諾、一般取引条件協定書の交換
6. 売買契約の成立、一般取引条件協定書の交換
7. オファー
8. カウンター・オファー
9. オファーの受諾
10. 売買契約の履行、信用状
11. 信用状開設手配の通知
12. 信用状の条件変更
13. 船積
14. 船積通知
15. まとめ

準備学習

進むペースが速いので予習・復習が必要。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。

テキスト

⑥「初めて学ぶビジネス英語」田中武雄著、成美堂

参考図書

「貿易実務の基本がわかる本」木村雅晴ほか、ぱる出版「最新ビジネス英語」成美堂、「国際ビジネスコミュニケーション」成美堂、「商業英語（国際ビジネスコミュニケーション）問題集」日本商工会議所、「マンガ貿易入門」輸出入のノウハウはこれでOK 宮下忠雄監修 サンマーク出版

留意事項

国際企業、貿易商社、貿易に係る企業に就職する学生に最適

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
サービス産業英語 I			15417	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
James G. WONG	選択	2				

授業の到達目標

The purpose of this course is to develop students' English language skills so that they may communicate more effectively in the Tourism and Hospitality industry.

授業の概要

This course is organized thematically around situations that workers in the Tourism and Hospitality industry frequently face. Each content unit will take approximately 2 weeks and will include a grammar focus, vocabulary study, listening and speaking exercises and a short writing task. In addition to textbook-based work, students will sometimes need to find and share authentic materials from their own local communities in class.

授業計画

1. Introduction to the course
 - Unit 1: Part I
2. Unit 1: Part II
3. Unit 2: Part I
4. Unit 2: Part II
5. Unit 3: Part I
6. Unit 3: Part II
7. Unit 4: Part I
8. Unit 4: Part II
9. Unit 5: Part I
10. Unit 5: Part II
11. Unit 6: Part I
12. Unit 6: Part II
13. Unit 7: Part I
14. Unit 7: Part II
15. Review and Consolidation

準備学習

The language of instruction in this course is English. Students

who enroll in this course should have enough self-confidence and proficiency to do all of the coursework in English.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

Students should make every effort to attend all of the classes. Students who plan to be absent from class should notify the instructor one week in advance and must submit an official "Notification of Exceptional Absence" form. Students who do not attend 70% of their classes may not receive course credits.

テキスト

Dubicka, I. & O'Keeffe M. (2003) English for international tourism. Harlow, Essex: Pearson ELT. (ISBN:9780582479883)

参考図書

An electronic dictionary with English-Japanese, Japanese-English, and English-English functions will be very useful in this class.

留意事項

Active participation and use of English for all speaking, listening, reading and writing activities is necessary to pass this course. Attendance without active participation will not be counted in the final course grade.

展開科目 < 実用外国語科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
サービス産業英語Ⅱ			15421	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
James G. WONG	選択	2				

授業の到達目標

The purpose of this course is to develop students' English language skills so that they may communicate more effectively in the Tourism and Hospitality industry.

授業の概要

This course is organized thematically around situations that workers in the Tourism and Hospitality industry frequently face. Each content unit will take approximately 2 weeks and will include a grammar focus, vocabulary study, listening and speaking exercises and a short writing task. In addition to textbook-based work, students will sometimes need to find and share authentic materials from their own local communities in class.

授業計画

1. Introduction to the course
Unit 8: Part I
2. Unit 8: Part II
3. Unit 9: Part I
4. Unit 9: Part II
5. Unit 10: Part I
6. Unit 10: Part II
7. Unit 11: Part I
8. Unit 11: Part II
9. Unit 12: Part I
10. Unit 12: Part II
11. Unit 13: Part I
12. Unit 13: Part II
13. Unit 14: Part I
14. Unit 14: Part II
15. Review and Consolidation

準備学習

The language of instruction in this course is English. Students

who enroll in this course should have enough self-confidence and proficiency to do all of the coursework in English.

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

Students should make every effort to attend all of the classes. Students who plan to be absent from class should notify the instructor one week in advance and must submit an official "Notification of Exceptional Absence" form. Students who do not attend 70% of their classes may not receive course credits.

テキスト

Dubicka, I. & O'Keefe M. (2003) English for international tourism. Harlow, Essex: Pearson ELT. (ISBN:9780582479883)

参考図書

An electronic dictionary with English-Japanese, Japanese-English, and English-English functions will be very useful in this class.

留意事項

Active participation and use of English for all speaking, listening, reading and writing activities is necessary to pass this course. Attendance without active participation will not be counted in the final course grade.

展開科目 < 実用外国語科目 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光中国語			15429	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
橋本 由美子	選択	2				

授業の到達目標

観光サービス業及び個人観光に役に立つ中国語を身につけるために、中国語の発音をしっかり練習して、会話と作文の内容を自由自在に使えて、自己紹介ができるようになる。

授業の概要

大事な中国語発音を繰り返し練習して、具体的な職場を想定し、その対応方法を会話及び作文の形で習得する。同時に中国文化、生活習慣に触れ、中国の歌も一曲歌えるようにチャレンジする。中国語検定問題（準4級レベル）を練習する。

授業計画

1. 発音練習。職場対応練習1「関西空港」
2. 発音練習。職場対応練習2「関西空港」
3. 発音練習。職場対応練習3「関西空港」
4. 発音練習。職場対応練習4「関西空港」
5. 発音練習。職場対応練習5「旅行社」
6. 発音練習。職場対応練習6「旅行社」
7. 発音練習。職場対応練習7「旅行社」
8. 復習(単語、文法、会話練習)
9. 職場対応練習8「貿易会社」
10. 職場対応練習9「貿易会社」
11. 職場対応練習10「貿易会社」
12. 職場対応練習11「自己紹介」
13. 職場対応練習12「自己紹介」
14. 職場対応練習13「自己紹介」
15. 全体復習(単語、文法、記述練習、中国語検定問題)

準備学習

毎回の内容を復習すること。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

大学の規定に従う

テキスト

プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

展開科目〈実用外国語科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			15437	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
平田 淳子	選択	2				

授業の到達目標

〈フランスで仕事をする〉〈フランス語を使って仕事をする〉或いは〈フランス関連企業で働く〉ことに必要な知識と会話を学ぶ。

授業の概要

フランスの地方、政治システム、世界におけるフランス語について書かれたテキストを講読する。同時に「観光フランス語入門」に引き続き、会話文を通して日常生活に役立つ表現を使いこなせるようにしたい。またフランスの世界遺産関連映像（DVD）鑑賞を通して、フランスのイメージをより具体化する。要望があれば仏検の指導も行う。

授業計画

- 1.オリエンテーション「ブルターニュ地方」
- 2.「ブルターニュ地方」
- 3.「ブルターニュ地方」
- 4.「プロヴァンス地方」
- 5.「プロヴァンス地方」
- 6.「プロヴァンス地方」
- 7.「アルザス地方」
- 8.「アルザス地方」
- 9.「アルザス地方」
- 10.「政治システム」
- 11.「政治システム」
- 12.「政治システム」
- 13.「世界に於けるフランス語」
- 14.「世界に於けるフランス語」 フランス映画鑑賞
- 15.「世界に於けるフランス語」 フランス映画鑑賞

準備学習

フランス語1～8、及び観光フランス語入門で既習のフランス語の会話、文法事項を見直しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

病気、やむを得ない事情を除いて授業出席は必要不可欠である。欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

テキスト

bis Amicalement、駿河台出版社（フランス語5～8での使用テキストと同じ）
C'est la vie ①、早美出版社

参考図書

必要があれば授業中に紹介する

留意事項

当該授業には、フランス語1～8若しくはフランス語1～6を履修している、観光フランス語入門を履修している、またはそれと同等のフランス語力をもっている学生のみが履修できる。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅠ			15505	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岩橋 博子／若生 茂嗣	必修	1				

授業の到達目標

- ・外見からは分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を知る。
- ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
- ・手話で簡単な会話ができる。

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史や諸問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・聴覚障害者の聞こえのしくみと程度を学ぶ。
- ・基礎的な会話手話の習得。

授業計画

- 1.オリエンテーション
「聞こえないとは」「コミュニケーションとは」/ {表現} 挨拶・自分の名前/指文字
- 2.ビデオ学習「私の大切な家族」/ {表現} 伝えあってみましよう/指文字
- 3.聴覚障害者の日常生活の課題1(生活の工夫)/ {表現} 伝えあってみましよう/指文字
- 4.聴覚障害者の日常生活の課題2(家族)/ {表現} 数字/指文字
- 5.聴覚障害者の日常生活の課題3(学校)/ {表現} 趣味/指文字
- 6.聴覚障害者の日常生活の課題4(地域)/ {表現} 名前・家族/指文字

- 7.聴覚障害者の日常生活の課題5(職場)/ {表現} 住所/指文字
- 8.聴覚障害者の日常生活の課題6(子育て)/ {表現} 仕事/指文字
- 9.聴覚障害者の日常生活の課題7(病院)/ {表現} 自己紹介/指文字
- 10.聴覚障害者とのフリーディスカッション①
- 11.「ろう者の言語とは」「日本語と日本手話」/ {表現} 1日の事
12. {表現} 1ヶ月の事
13. {表現} 1年の事
14. {表現} 会話練習①
15. {表現} 会話練習②

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校規に従う

テキスト

「新・手話教室入門」
「新・手話教室入門」 対応実用手話単語集

参考図書

DVDで学ぶ手話の本（全国手話検定試験5級対応）
DVDで学ぶ手話の本（全国手話検定試験4級対応）
日本語・手話辞典

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			15509	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岩橋 博子／若生 茂嗣	必修	1				

授業の到達目標

- ・外見からは分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を知る。
- ・聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
- ・日本手話の文法を理解する。
- ・講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流ができる。
- ・手話検定5級合格

授業の概要

- ・音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・手話を言語とする聴覚障害者の歴史や諸問題を学ぶ。
- ・聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・基礎的な会話、手話の習得。
- ・障害者福祉の基礎を学ぶ。

授業計画

1. 春学期の復習(夏休みの報告)
2. 手話の7つのポイント ビデオ(聴覚障害者の生活紹介)
3. "
4. "
5. "
6. "
7. "
8. 特別講義「聴覚障害者の社会参加について」
9. 総合学習

10. "
11. "
12. "
13. "
14. "
15. 聴覚障害者とのフリーディスカッション②

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

校規に従う

テキスト

「新・手話教室入門」
「新・手話教室入門」対応実用手話単語集

参考図書

DVDで学ぶ手話の本 (全国手話検定試験 5級対応)
DVDで学ぶ手話の本 (全国手話検定試験 4級対応)
日本語・手話辞典

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホテルマネジメントⅠ			15513	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

日本の新たな国家戦略は観光立国である。観光領域での主たる産業はホテル業である。ホテル業を基礎から学び、産業の全般について理解を深める。本講座はツーリズム全体を理解する上での要となる。

授業の概要

本講座では、「ホテル産業史」・「ホテルの組織・役割」を中心に構成される。ホテルマネジメントの入門講座として歴史、組織、経営などを解説し、理解しやすい講義を目指す。

授業計画

1. ホテルマネジメント1 ガイダンス
2. ホテル産業史1
3. ホテル産業史2
4. ホテル産業史3
5. 宿泊産業概要(カテゴリー別宿泊産業)
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業:フロント、予約
8. 宿泊事業:フロントサービス、コンシェルジュ
9. 宿泊事業:客室、セキュリティ
10. 料飲事業:レストラン&バー
11. 料飲事業:バンケット&ブライダル
12. 料飲事業:ケータリング&外販部門
13. 購買とFBC
14. 人事・ホテル関連法律
15. まとめ

準備学習

テキスト「基本ホテル経営教本」一読のすること

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

「基本ホテル経営教本」柴田書店

参考図書

授業で紹介する。

留意事項

ホテルはホスピタリティ産業の中心的産業です。ホスピタリティ産業を目指す学生は履修が望まれる。ホテルマネジメントⅠの発展科目がホテルマネジメントⅡになります。両科目を履修すること。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホテルマネジメントⅡ			15517	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

日本の新たな国家戦略は観光立国である。観光領域での主たる産業はホテル業である。ホテル業を基礎から学び、産業の全般について理解を深める。本講座はツーリズム全体を理解する上での要となる。ホテルマネジメントⅠを基礎にホテル経営と運営を理解する。

授業の概要

本講座はホテルマネジメントⅠを基礎知識としてより具体的にホテル経営戦略を学ぶ。マーケティングを中心にアカウントまでより広い知識を習得する。(ホテルマネジメントⅠ履修済みが受講条件)

授業計画

1. ホテルマネジメントⅡガイダンス
2. ホテル収益(カテゴリー別収益性と経営方法)
3. ホテルマーケティングⅠ
4. ホテルマーケティングⅡ(ルーム)
5. ホテルマーケティングⅢ(バンケット)
6. ホテル会計(ユニホームシステムⅠ)
7. ホテル会計(ユニホームシステムⅡ)
8. イールドマネジメント(意味と概要)
9. イールドマネジメント(システムと事例)
10. バリアフリーⅠ(概要と法律)
11. バリアフリーⅡ(施設と今後のあり方)
12. リスクマネジメント
13. ホテルアンケートとクレーム処理

14. ホテルの経営戦略(ミッションとコミットメント)
15. まとめ

準備学習

テキスト「基本ホテル経営教本」を一読すること

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

「基本ホテル経営教本」柴田書店

参考図書

ホテルのサービス・マーケティング(柴田書店)/米国外ホテル会計基準(税務経理協会)

留意事項

ホテルはホスピタリティ産業の中心的産業です。ホスピタリティ産業を目指す学生は履修が望まれる。ホテルマネジメントⅠの発展科目がホテルマネジメントⅡになります。両科目を履修すること。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			15521	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

近代になり産業文明の発達と同時に自然環境にも影響を与え、さらに地球規模での温暖化が進行している。環境分野の先進国アメリカやイギリスでは100年以上前から自然環境を守る取り組みが始まり、今世界各地で新たなツーリズムが実践されている事を理解する。

授業の概要

1960年代以降、先進諸国により多くの観光地が「マス・ツーリズム」化した。同時にこれは地球規模の環境問題を引き起こす一因となった。この中で世界的な環境保全運動が高まり、それが1992年の「環境と開発に関する国連会議(地球サミット)」に結集した。この地球サミットで持続可能な開発「サステイナブル・デベロップメント」の基本理念が採択されたのを受けて、各地で環境保全と観光の視点から新たなツーリズムが始まった。これまでに至る経緯とアメリカやイギリスで誕生した自然環境保護思想や世界各地で始まったエコツーリズムなどの持続可能なツーリズムについて考察する。

授業計画

1. 科目概要。地球温暖化について
2. 近代観光の発達とマス・ツーリズム
3. 地球環境保全へのながれ、その1
4. 地球環境保全へのながれ、その2
5. リゾートの歴史と発展
6. アメリカの自然環境保護
7. 英国から始まったナショナル・トラスト活動
8. エコツーリズムとエコツアー
9. 日本におけるエコツーリズム
10. 世界遺産をめぐる諸問題
11. 環境ツーリズムの先進事例 ハワイ
12. 環境ツーリズムの先進事例 カナダ
13. 環境ツーリズムの先進事例 コスタリカ
14. 環境ツーリズムの先進事例 オーストラリア
15. 温暖化対策への取り組みとツーリズム

準備学習

エコツーリズムや世界の温暖化対策への取り組みについての新聞報道などに注目しておく事

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない1回の欠席は5点減点。欠席した場合は授業内容を友人と確認しておくこと

テキスト

教科書は特に指定しない。随時プリントを配布する。講義によりDVDなどの映像でも紹介する

参考図書

『観光学入門』 岡本伸之著 有斐閣アルマ
 『アメリカの環境保護運動』 岡島成之著 岩波新書
 『ナショナル・トラスト(新版)』 木原啓吉著 三省堂
 『エコツーリズムってなに?』 小林寛子著 河出書房新社
 『沈黙の春』 レイチェル・カーソン著 新潮文庫

留意事項

出席と授業態度を重視する。注意事項は授業中に指示する。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ	TH		15525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正／有村 理	選択	2				

授業の到達目標

旅行会社、ホテル、航空関連会社、企業等におけるインターンシップ（就業体験）を通して自己の適性を知り、職業観を築く。

授業の概要

オリエンテーションを含め事前研修を実施する。特に外部講師を招いた3回の研修は全員出席の事。実際のインターンシップ体験は夏季休業期間中でホテル、航空関連会社、旅行会社、プライダル関連会社など主に観光関連企業等に依頼し1週間から2週間程度行われる。その成果を事後研修（1回）の授業で発表する。受け入れ企業によりインターンシップ期間は異なることがある。

授業計画

- 1.オリエンテーション、事前研修とインターンシップの目的
- 2.事前研修 業種別受け入れ企業の説明
- 3.事前研修 学生と受け入れ企業のマッチング
- 4.インターンシップ（受け入れ企業により期間は異なる）事前研修
- 5.インターンシップ
- 6.インターンシップ
- 7.インターンシップ
- 8.インターンシップ
- 9.インターンシップ
- 10.インターンシップ
- 11.外部講師による研修 その1 社会人に求められるエチケット、服装、身なり、挨拶、姿勢
- 12.外部講師による研修 その2 正しい言葉づかい 敬語、丁寧語、声の大きさ、表情
- 13.外部講師による研修 その3 電話対応の基本 社会常識、会社

の常識

- 14.事前レポート・最終注意事項・必要書類配布・質疑応答
- 15.事後レポート提出・成果発表

準備学習

社会常識的なマナーは身につけておく事。派遣先決定後はその企業と業界について事前勉強しておく事。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

インターンシップに先立ち事前研修が必修。事前研修、事後研修を欠席した場合は単位認定しない。

テキスト

なし

参考図書

企業や業界地図についての参考書、会社四季報

留意事項

インターンシップは企業の協力のもとで行うので海星の代表としての自覚をもち、真面目に取り組むこと。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			15529	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
小郷 行男	必修	2				

授業の到達目標

授業の目標は、「ホスピタリティ」の意味と意義の理解を通して、実際の仕事に役立つようにすることである。これからの有望な産業である「観光関連産業」に関わる「ホスピタリティ・マネジメント」の学習から、即戦力となる人材を養成する。

授業の概要

旅行事業、宿泊事業、航空運輸事業などの各種観光関連事業におけるホスピタリティのあり方を学び、更に経営参加の視点を持つことによって、顧客満足の更なる充実をめざすよう学習する。

授業計画

- 1.講義の概要
- 2.ホスピタリティの成り立ちと歴史
- 3.ホスピタリティとサービスの違いとは
- 4.ホスピタリティ・マネジメントとは
- 5.旅行事業とホスピタリティ1
- 6.旅行事業とホスピタリティ2
- 7.宿泊事業とホスピタリティ1
- 8.宿泊事業とホスピタリティ2
- 9.航空運輸事業とホスピタリティ1
- 10.航空運輸事業とホスピタリティ2
- 11.テーマパーク事業とホスピタリティ1
- 12.テーマパーク事業とホスピタリティ2
- 13.冠婚葬祭関連事業とホスピタリティ
- 14.苦情処理、トラブル処理とホスピタリティ

15.まとめ

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別に認められての欠席以外は認めない。欠席が三分の一を超えた場合は授業放棄とみなす

テキスト

「サービス&ホスピタリティ・マネジメント」 産業能率大学 出版部

参考図書

「ホスピタリティ・マネジメント入門」第2版 服部勝人著 丸善株式会社
 「観光のマーケティング・マネジメント」～ケースで学ぶ観光マーケティングの理論～
 編著者 高橋 一夫 JHRS発行
 観光業の現場から学ぶ「観光ホスピタリティ読本」 JHRS発行

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
エアラインサービス論 1 (グラウンドサービス)			15533	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

航空会社の日々のオペレーションを支えている空港での旅客サービス業務、および旅客ハンドリング業務を中心として、航空輸送事業の内容を全般にわたり学習する。併せて関連の地上業務などの仕事についても理解する。

授業の概要

航空輸送事業についての歴史と近年の動向や日本の空港の現状、および航空会社の空港業務の概要について参考テキストをベースに学習する。今後もさらに需要の伸びが期待される航空旅客へのサービス向上も踏まえ、空港で働くスタッフの質の充実が求められている。将来この分野で活躍することを希望する学生の履修が望まれる。授業に関連した空港関係の仕事内容や羽田空港などの情報は最新のDVDの映像でも紹介する。

授業計画

1. 講義概要の説明
2. 日本における航空輸送事業の歴史と近年の動向
3. 航空輸送の特性
4. 航空各社の経営戦略・アライアンス
5. 日本の空港
6. 空港運営上の課題と国内空港整備計画の現状
7. 世界のハブ空港
8. 国際航空輸送と国際航空運賃
9. 航空会社の空港旅客業務(出発時)・グラウンドスタッフ業務
10. 航空会社の空港旅客業務(到着時)
11. スペシャル・ハンドリング、手荷物に関する基礎知識
12. ホスピタリティ産業としての基本的な心構え、基本接客用語

13. トラブル対応
14. 運航管理・整備・ケータリング・運航支援業務
15. 航空業界の用語とまとめ

準備学習

航空各社の動向や空港問題、オープンスカイ、LCCなどのニュースや新聞報道に注目しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

止むを得ない場合を除き、評価の対象にする。特別の理由のない欠席1回につき5点減点する。

テキスト

『エアポートビジネス入門』 (株) ジェイティービー能力開発

参考図書

『航空業界大研究』 中西克吉 (株) 山岳社
『月刊エアライン』 イカロス出版

留意事項

授業中に指示する。

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
エアラインサービス論 2 (インフライトサービス)			15537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
熊澤 洋子	選択	2				

授業の到達目標

航空会社において、旅客運送という利益獲得手段の最前線に位置するのがインフライト(機内)サービスである。そのため各社は客室乗務員の資質の向上と機内のサービス内容の充実を常に図っている。インフライトサービスの歴史的推移と現在、さらにLCCの台頭を含む今後について理解を深めたい。

授業の概要

インフライトサービスを担う客室乗務員には二つの大切な役割がある。つまり狭い機内の限られた時間内において、第一にはお客様の安全のための保安要員として、第二は快適な空の旅を提供するサービス要員としての役割りである。客室乗務員の具体的な仕事内容、航空業界全般の知識、人となり、立居振舞い、各社の採用状況、待遇等について学ぶ。

授業計画

1. ホスピタリティーとインフライトサービス
2. 世界の航空産業とインフライトサービスの歴史
3. 日本における客室乗務員の過去と現在
4. 航空会社内の組織と機能、そして客室乗務員の役割り
5. 内外航空会社における待遇と契約
6. 実際のフライトにおける仕事の流れ
7. 客室乗務員に必要な航空用語 1
8. 客室乗務員に必要な航空用語 2
9. 機内アナウンスの重要性とアナウンス実習

10. 立居振舞いおよび、人となり
11. 食事サービス・機内販売・各国通貨・税金・経由地などの知識
12. 保安要員としての役割り、特殊な旅客への対応(車椅子・病人・幼児等々)
13. 旅客の心理及び客室乗務員の心理
14. 航空各社の採用状況と入社試験について
15. インフライトサービスのまとめ

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席重視

テキスト

プリントを用意します。

参考図書

AIR STAGE イカロス出版株式会社

展開科目〈ホスピタリティ関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
イベント・コンベンション論			15541	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>イベント・コンベンションは現代社会に何をもたらしているのか。イベントとは何か。イベントの効果、イベントの本質を探る。講義を通じてイベントの歴史を学び、イベントの種類、運営方法などを理解する。イベント初級講座とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>イベント・コンベンションの起源から現代までを歴史から学ぶ。特に神戸市の事例を中心に都市戦略としてのイベントを考察する。また、イベントの作り方、運営方法を解説する。総論ではなく具体的内容を中心に講義をする。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. イベントの歴史・万国博覧会 3. 近代日本におけるイベントの歴史 4. 事例研究(地方博) 5. 事例研究(地方博) 6. 事例研究(地方博) 7. 行政とコンベンション都市 8. イベントの形態 9. イベントの仕組み・作り方 10. イベント会場設営 11. イベント会場運営 12. イベント集客 13. コンベンション 14. 国際会議

<p>15. インセンティブ まとめ</p> <p>準備学習</p> <p>メディアで紹介されるイベントに関心を持ち、パンフレットの収集や記事のスクラップなどを心がけること。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席は平常点に反映する。</p> <p>テキスト</p> <p>レジュメの他、必要に応じて資料配布。</p> <p>参考図書</p> <p>イベント学のすすめ(ぎょうせい)/コンベンション施設の開発(鹿島出版会)/JACEイベント講座1, 2, 3(日本イベント産業振興協会)</p>

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			15601	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	必修	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>キーワード：「国際観光旅行」「世界遺産」「資源の保護と活用」</p> <p>授業の目標は、キーワードの理解を重点目標として、今や国際観光交流の中心的存在となっている「世界遺産」の状況とその保護、活用について学習する。</p> <p>授業の概要</p> <p>授業の目標を達成するために、世界遺産についての理解につとめる。国内・国際観光交流のなかで「世界遺産」の有無は各国で観光立国推進上の重要な観光対象となっている。この授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際観光交流の現状と世界遺産 2. 世界遺産条約と世界遺産登録と現状 3. わが国の世界遺産の理解 4. 世界の世界遺産の理解 5. 世界遺産の保護と活用 6. 危機遺産と環境問題 <p>などに視点をあて、またこれらの理解のためにビデオを利用して世界遺産についての現況、保護意識を求める。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 「観光立国」の現状 2. 観光資源・世界遺産と「観光」 3. 世界遺産とはⅠ(遺産条約・登録) 4. 世界遺産とはⅡ(現状) 5. わが国の世界遺産Ⅰ(概要) 6. わが国の世界遺産Ⅱ(自然遺産) 7. わが国の世界遺産Ⅲ(文化遺産)
--

<p>8. 国際観光交流における世界遺産Ⅰ</p> <p>9. 国際観光交流における世界遺産Ⅱ</p> <p>10. 国際観光交流における世界遺産Ⅲ</p> <p>11. 国際観光交流における世界遺産Ⅳ</p> <p>12. 国際観光交流における世界遺産Ⅴ</p> <p>13. 世界遺産・危機遺産と課題</p> <p>14. 「世界遺産の「保護」と「活用」</p> <p>15. 「観光と世界遺産」のまとめ</p> <p>準備学習</p> <p>事前にテキストをよく読んでおくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>平常点(出席・課題評価・小レポート)が50%あるので、欠席が多いとこの評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価が得られなくなる可能性がある。</p> <p>テキスト</p> <p>テキストについては、授業中に指示する。</p> <p>参考図書</p> <p>『観光・旅行用語辞典』北川宗忠編 ミネルヴァ書房</p>

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
欧米観光文化地理			15605	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生	選択	2				

授業の到達目標

欧米の歴史、地理、文化など幅広く学習。欧米各国の基本的、常識的知識を修得する。
国家試験の総合旅行業務取扱管理者試験対策にもなる。

授業の概要

ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカの歴史、地理、文化、など幅広く学ぶ。
あわせて時差、緯度、経度、気候、航空路、鉄道、クルーズ、などの常識、一般基礎知識を学ぶ。毎回欧米各地で起こっているできごとを話題に地図で場所を確認したり問題の本質についても学習することにより普段から地図に親しむ習慣を身につける。
課題として毎回各自が収集した話題を提供してもらう。

授業計画

1. 講義概要、シラバス概要、教科書、参考書、評価方法
2. 今週の欧米トピックス、緯度、経度、北半球、南半球、時差、地球儀の楽しみ方、
3. 今週の欧米トピックス、欧米の言語分布、宗教分布
4. 今週の欧米トピックス、欧米の祭り、行事と宿泊、交通事情
5. 今週の欧米トピックス、ヨーロッパの航空路、距離と飛行時間、時間帯、時差
6. 今週の欧米トピックス アメリカの航空路、距離と飛行時間、時間帯、時差
7. 今週の欧米トピックス アメリカの国立公園、観光地
8. 今週の欧米トピックス 映画、文学、音楽の舞台、観光地
9. 今週の欧米トピックス 欧米の美術館、博物館、観光地
10. 今週の欧米トピックス 欧米のスポーツ分布、競技場、観光地
11. 今週の欧米トピックス 欧米の産業、各国の主要産業(自動車、航空機)、観光地
12. 今週の欧米トピックス 欧米の農業、酪農、漁業、グリーンツーリズム
13. 今週の欧米トピックス 欧米の宗教、聖地、聖地巡礼、服装ドレスコード
14. 今週の欧米トピックス ヨーロッパ、鉄道、汽車の旅、ユーレイル

パス、時刻表の見方

15. 今週の欧米トピックス まとめ

準備学習

身近に地図を準備して気軽に見る習慣をつけよう。中学、高校で買った地図を活用しよう。テレビ、新聞などの話題の場所は地図で確認しよう。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

普段の授業参加に重点を置いているので積極的に双方向の授業に参加すること。遅刻、欠席は慎むこと、減点対象となる。

テキスト

「今がわかる、時代がわかる世界地図2012」（または2011） 成美堂出版

参考図書

図書館の新聞、都市紹介ビデオ、旅行業務シリーズ「海外観光資源」JHRS発行

留意事項

図書館2階にある新聞に目を通し欧米の話題をチェック。理解を深めるため、楽しい授業にするため双方向の授業をこころがける。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光資源論			15613	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	選択	2				

授業の到達目標

キーワード：「自然資源」「ニューツーリズム」「文化資源」
授業の目標は、さまざまな「観光資源」について、キーワードに関わる事項を重点的にして、資源の状況、資源の内容理解につとめ、観光資源と資源を取り巻く環境などを学ぶ。特にわが国の「自然公園」や「文化財」の概要や現状を知り、秋学期の「観光と世界遺産」を学ぶ上での基本的な授業ともいえる。

授業の概要

授業の目標を達成するために、全般にわたりキーワードの理解につとめる。これらから、観光事業や観光関連サービス事業に関わる上で

1. ニューツーリズム時代の観光の理解：
観光立国時代の観光と観光対象の考え方、新しい観光魅力の創造
2. 観光事業等に関わる際に必要な基本的な「観光資源」の理解
さまざまなツーリズムと観光資源の創出など
3. 自然観光資源の理解
国立公園や国定公園の状況、温泉の活用など
4. 文化観光資源の理解
文化財（国宝・重要文化財）の保護や活用など
について学習する。
なお、「観光と世界遺産」（秋学期：必修）の予備知識としての履修が望まれる。

授業計画

1. 講義の概要 観光立国へのみち
2. 観光と観光資源
3. グリーンツーリズムとエコツーリズム
4. 自然観光資源 I

5. 自然観光資源 II
6. 「温泉」資源
7. 自然公園 I
8. 自然公園 II
9. 自然公園 III
10. 文化観光資源 I
11. 文化観光資源 II
12. 文化財 I
13. 文化財 II
14. 文化財 III
15. 「観光資源論」のまとめ

準備学習

テキストに従って進めるので事前によく読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点（出席・課題評価・小レポート）が50%あるので、欠席が多いとこの評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価が得られなくなる可能性があるので充分注意をすること。

テキスト

今年度のテキストは、授業中に指示する。

参考図書

『観光・旅行用語辞典』北川宗忠編 ミネルヴァ書房

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
食文化論			15617	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標

関西人は「うどん」好きだが関東人は「そば」好きだ。飽食の時代といわれている現代だが、時代や地域による食文化の違いはまだ存在する。食を通じて人類の歴史や文化の違いを理解する。そして、日本が抱える食の問題点を見つける。

授業の概要

気候、風土、宗教により食べるものの意味も違う。食は文化を構成し国境を越えクロスし成長する。食の歴史を通して人類が得たものは何かを学ぶ。毎回テーマに添って講義し、内容は多彩である。

授業計画

1. ガイダンス(講義概要の説明)
2. 食と文化(人類が誕生し食の変遷を知る。生活様式と食。)
3. 主穀の歴史(ジャガイモ、トウモロコシ、麦、米)
4. 牧畜と家畜(乳製品の始まり)
5. 保存の歴史
6. 箸と匙の文化
7. 食と宗教(タブー)
8. 日本のコメ文化(コメを選んだ日本。コメ文化の歩み。)
9. 食と行事(日本の行事における食の風習)
10. 食の伝播
11. ホテルとフランス料理
12. 日本の食文化(伝統料理、日本料理)
13. 現代食文化(屋台からミシュラン3星レストランまで)
14. 世界を取り巻く食糧事情(食材のグローバル化と問題点)

15. 食の安全、安心

準備学習

テキスト「食文化入門」を一読する

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は平常点に反映する。

テキスト

講談社「食文化入門」石毛直道他編

参考図書

日本の「行事」と「食」のしきたり(青春出版)/京都料亭の味わい方(光文社新書)/食の世界地図(文春新書)

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光メディア文化論			15621	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

メディアが観光産業の発展に果たす役割は大きい。特にメディアの中でインターネットが主流となりつつある現状を踏まえて、旅行業界における現状のメディアの取り組み、最新の情報、事例などをベースに将来のマーケットや環境の変化に対応できる知識を養う。

授業の概要

旅行産業とメディアとの関わりでは、これまでの歴史やメディアの種類と役割について、インターネット時代の旅行では航空会社、旅行会社、ホテルなどの業界ウェブサイト进行分析、マーケティングと旅行業界のメディアPRでは最新の情報や事例からマーケットに対応するメディアのPR戦略について学ぶ。

授業計画

1. 観光メディア文化論概要(全体のテーマと内容の概略を紹介)
2. 旅行産業とメディアとの関わり・種類と役割(1)
3. 旅行産業とメディアとの関わり・種類と役割(2)
4. 旅行産業とメディアとの関わり・種類と役割(3)
5. 旅行産業とメディアとの関わり・種類と役割(4)
6. 旅行産業とメディアとの関わり・種類と役割(5)
7. インターネット時代の旅行(1)
8. インターネット時代の旅行(2)
9. インターネット時代の旅行(3)
10. インターネット時代の旅行(4)
11. インターネット時代の旅行(5)

12. マーケティングと旅行業界のメディアPR(1)
13. マーケティングと旅行業界のメディアPR(2)
14. マーケティングと旅行業界のメディアPR(3)
15. 観光メディア文化論総括

準備学習

観光パンフレットや旅行業界のホームページをチェックしておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

止むを得ない事情を除いて、欠席は認めない。

テキスト

レジメをプリントして使用する。

参考図書

なし。

留意事項

第1 コンピューター室、或いは第2 コンピューター室を使用する。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
WEBトラベル・プレゼンテーション			15625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
釜須 久夫	選択	2				

授業の到達目標

旅行関連のホームページ分析を通して、WEBプレゼンテーションの役割とポイントを学習し、基本条件や専門知識を修得して、実習では理想的なWEBプレゼンテーションのテクニックを養う。

授業の概要

WEBプレゼンテーションに必要な基本条件や専門知識を学び、テクニックを習得する為に、WEBで企画書やパンフレットを作成してプレゼンテーションの実習を行う。

授業計画

1. WEBトラベル・プレゼンテーション概要(テーマの説明と内容の紹介)
2. 旅行業界のホームページ分析(旅行会社・航空会社・ホテルなど)
3. WEBプレゼンテーションの基本条件(テーマ、イメージ、キーワード)
4. WEBプレゼンテーションの基本条件(レイアウト、デザイン、配色)
5. 企画書作成のポイント
6. プレゼンテーションのポイントと役割
7. 企画書作成とプレゼンテーション(実習1)
8. 企画書作成とプレゼンテーション(実習2)
9. 企画書作成とプレゼンテーション(実習3)
10. 企画書作成とプレゼンテーション(実習4)
11. 企画書作成とプレゼンテーション(実習5)

12. 企画書作成とプレゼンテーション(実習6)
13. 企画書の分析と評価(1)
14. 企画書の分析と評価(2)
15. WEBトラベル・プレゼンテーション総括

準備学習

旅行業界のホームページや旅行のパンフレットに目を通しておくこと。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

止むを得ない事情を除いて、欠席は認めない。

テキスト

レジメをプリントして使用。

参考図書

なし

留意事項

第1コンピューター室或いは第2コンピューター室を使用。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務総論			15627	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
青木 幹生／一尾 敏正／有村 理	選択	2				

授業の到達目標

- 1) 旅行業を理解する。旅行業の基本用語を理解する。
- 2) ホテル業務を理解する。ホテルの基本用語を理解する。
- 3) 航空業界を理解する。航空業界の基本用語を理解する。

授業の概要

- 1) 旅行業の実務を解説。国家試験受験ガイドス
- 2) テキスト、DVDでホテル用語、業務のながれを中心に学習する。
- 3) 航空産業の特徴、航空産業の歴史、各社の戦略や業界のしくみを学習する。
内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

授業計画

1. 講義概要、3講師輪講の取り決め(欠席の取扱い・評価・試験)、旅行業について
2. 旅行業の実務、手配旅行、受注型企画旅行、募集型企画旅行、旅行業法と標準旅行業約款、国内旅行、海外旅行
3. 旅行業の実務(国内、海外、店頭、渉外、企画、商品造成、手配、見積、プライシング、清算)
4. 旅行業の実務(国内・海外添乗、現地ガイド、現地受入のしくみ、業務パートナーとの連携)
5. まとめ、試験
6. ホテルの実務・フロント業務
7. ホテルの実務・フロント業務
8. ホテルの実務・フロントサービス業務
9. ホテルの実務・ハウスキーピング業務
10. ホテルの実務・ハウスキーピング業務 まとめ、試験
11. 航空産業の特徴
12. 航空産業のしくみと業界の基礎知識
13. エアラインサービス研究、航空業界の基礎知識
14. 航空の実務と各社の戦略
15. 航空産業の最新動向 まとめ、試験

準備学習

テレビ、インターネット、新聞などを日頃から積極的に見て何事にも関心をもつ習慣をつけることが望ましい。旅行やホテルのパンフレット、航空会社の時刻表の教材になります。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

平常点を重視するので欠席が全体の3分の1を超すと履修放棄とみなす。それ以下でも1講師あたり3回の欠席があれば全体で3分の1以下であったも履修放棄とみなす。遅刻、欠席、授業態度などは減点対象になる。

テキスト

旅行業務、航空業務については適宜プリントを配布。ホテル業務については「ホテルの基本サービス・フロント編」「ホテルの基本サービス・ハウスキーピング編」日本ホテル協会発行をテキストとする。

参考図書

「観光概論」「観光学基礎」「旅行業概論」(いずれもJTB能力開発JHRS発行)「航空業界大研究」産学社

留意事項

観光ビジネス実務士資格を取得するための必修科目の一つ

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			15633	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
一尾 敏正	選択	2				

授業の到達目標
 マーケティングとは何か。大変難しく思えますが、私たちの現代社会はマーケティングの中で生活をしている。自らの行動を、マーケティングの世界に置き換えて考えていく。観光におけるマーケティングとは何か、どの様に行うのか。講義を通して観光マーケティングの基礎を理解する。将来、ツーリズム産業で活かされる知識の習得を目指す。

授業の概要
 観光マーケティング論ではホスピタリティ産業の中心であるホテル業、旅行業を中心に航空業やマクドナルドなどのファストフードも含め事例を取り上げる。マーケティング理論、とケーススタディ中心に構成されている。

授業計画

1. ガイダンス
2. マーケティングとは
3. ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングにおけるサービスの特性
4. 戦略計画におけるマーケティングの役割
5. マーケティング環境
6. マーケティング情報システムとマーケティング・リサーチ
7. 市場細分化、ターゲット設定、ポジショニング
8. マーケティングミックス(製品・価格)
9. マーケティングミックス(流通・プロモーション)
10. 宿泊機関のマーケティング
11. 旅行会社の商品企画とマーケティング

12. 海外旅行マーケティング(デスティネーション・時期・セグメンテーション)
13. 国内旅行マーケティング(デスティネーション・時期・セグメンテーション)
14. 訪日旅行マーケティング(デスティネーション・時期・セグメンテーション)
15. まとめ

準備学習
 日頃より新聞の経済記事を読み企業の新商品、イベント等の情報に関心を寄せること。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席は平常点に反映する。

テキスト
 資料を配布する。

参考図書
 コトラーのホスピタリティ&ツーリズムマーケティング(ピアソン・エデュケーション)/コトラーのマーケティング講義(ダイヤモンド社)

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光政策論			15637	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
北川 宗忠	選択	2				

授業の到達目標
 キーワード：「観光政策」「観光立国」「現代の観光事業」
 授業の目標は、キーワードにあげた用語の理解を重点目標として、観光立国時代におけるわが国の観光交流政策の流れとその展開、観光立国に向けての諸政策を理解することを目指す。

授業の概要
 授業は、将来、観光関連産業やサービス関連産業などの「業界」を目指す人、これらの分野に「興味」を持つ人に対応して、観光政策の流れとこれにかかわる業界の現状を新しい資料を掲示しながら進める。
 これら授業の目標を達成するため、
 I わが国の近代以降の観光政策と観光交流事業
 II 観光立国への対応政策
 を理解した上で、
 III 観光立国と国際観光交流の現状
 III 観光政策と観光交流事業の展開
 IV 国際観光交流時代に対応した観光関連産業の現状
 などを学習、イベント、コンベンション事業や観光立地に伴う観光開発事業の展開などについて学ぶ。

授業計画

1. 講義の概要 「観光立国」の状況
2. わが国の観光事業と政策史 I
3. わが国の観光事業と政策史 II
4. アウトバウンド推進の観光政策
5. インバウンド推進の観光政策
6. リゾート事業

7. イベント・コンベンション事業
8. テーマパーク事業 I
9. テーマパーク事業 II
10. 旅行事業 I
11. 旅行事業 II
12. 宿泊事業 I
13. 宿泊事業 II
14. 交通運輸事業
15. 「観光政策論」のまとめ

準備学習
 事前にテキストをよく読んでおくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 平常点(出席・課題評価・小レポート)が50%あるので、欠席が多いと評価が低くなり、定期試験の成績が良くても授業評価点が得られなくなる可能性があるので充分注意をすること。

テキスト
 『現代の観光事業』北川宗忠編、ミネルヴァ書房

参考図書
 『観光・旅行用語辞典』北川宗忠編、ミネルヴァ書房

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			15641	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理	選択	2				

授業の到達目標

ツーリズム産業の中での航空業界の全体像を把握し、一段とグローバル化が進む世界のアライアンスの競争、LCCの成長も含め航空業界の現状を理解する。

授業の概要

社会基盤としての航空事業とツーリズムの関係を捉え、航空業界の歴史から航空会社の戦略やツーリズム産業での重要な役割を理解していく。その中で現在の世界的なグローバル・アライアンスの進展や既存の航空会社とLCCとの競争、オープンスカイ政策を取り始めた日本の航空政策も考察する。今年は特に日本でも国内線を中心に本格的なLCCの参入が始まるので、その動向を注目したい。また将来の地球環境を保全する為の航空業界の対策などにも目を向ける。

授業計画

1. 科目概要、航空事業とツーリズム
2. 社会基盤としての航空事業
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアとオセアニアの規制緩和とASEAN
6. アジア・ゲートウェイ構想と日本の規制緩和
7. 世界で躍進するローコスト航空会社(LCC)の誕生
8. アメリカ・ヨーロッパ・アジアのLCC
9. 世界の航空アライアンスの進展
10. 国際ハブ空港の競争
11. 航空会社の経営戦略
12. 航空会社とブランド
13. 航空機の進化と航空機製造競争

14. 航空会社の地球環境対策
15. 航空ツーリズムの最新動向とまとめ

準備学習

オープンスカイ協定、世界の航空アライアンスの競争、LCCの最新動向について新聞やニュースに注意しておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席1回につき5点減点する。

テキスト

なし。関連事項は適宜プリントで渡す。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

- 『航空産業入門』(株)ANA総合研究所
『日本の空を問う』伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版社

留意事項

授業中に指示する。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
旅と法律 I			15645	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
芹田 健太郎	選択	2				

授業の到達目標

人々の日常的な行動は、単に事実行為としての意味しか持たないものと、法律行為としての意味を持つものに分けられる。「旅」をテーマにすることによって、日常と非日常を区別し、人生の旅について理解を深めことによって、多くの人たちと心を通わせるようになることを目指す。

授業の概要

旅とは何かを心に描きながら、旅の目的、旅の主体、旅の場所、旅の手段、社会の秩序維持について考えていく。

授業計画

1. 「旅」の魅惑—旅とは何か、心の旅路
2. 旅、観光、ツーリズムの違い
3. 法と法律
4. 旅の目的—巡礼、留学、出張、行楽
5. 旅の主体、旅の態様
6. 国内の旅、海外の旅—国境を越えることの意味：国家とは何か
7. 国際社会
8. 汽車の旅、車の旅—土地は誰のものか
9. 海の旅—海は誰のものか
10. 海上の秩序維持
11. 空の旅—空は誰のものか
12. 国際民間航空機関(ICAO)
13. 国際航空運送協会(IATA)
14. ハイジャック防止条約等

15. 日本の法律か外国の法律か

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規定に従う。

テキスト

特になし。

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
関西文化論			15653	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
箕野 聡子	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>文学と地域の関係性を学ぶ。関西、なかでも阪神地区を舞台にした文学作品を講読し、絵画を鑑賞する。そこに描かれた関西文化を考察する。</p> <p>授業の概要</p> <p>旅育という言葉がある。旅をとおして新しい世界と出会うことで、日本の歴史・文化・産業を学ぶ試みのことである。旅育を支える新しい旅を企画する基盤を養いたい。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 阪神とはどのような地域なのか。 2. 小林一三と阪急電車 国鉄に挑んだ一私鉄の物語 3. 有川浩「阪急電車」鉄道が生み出した文化 西宮北口から宝塚 4. 神戸モダンイズムとは 5. 神戸における「モダンとレトロ」発表 6. 神戸における「モダンとレトロ」発表 7. 白井鉄蔵「パリゼット」宝塚歌劇と宝塚音楽学校 8. 手塚治虫「リボンの騎士」 宝塚が育てた天才マンガ家の遺産 9. 谷崎潤一郎「細雪」芦屋貴婦人達の文化 10. 小川洋子「ミーナの行進」戦後の芦屋文化の変化 11. 神戸の港 その歴史 平清盛と神戸 12. 横光利一「灘にいたころ」神戸青谷に暮らす 13. 岡部伊都子「ザークの孤独」 神戸文学館訪問 神戸を描いた文学

<p>14. 自らが提案する「まち歩き」発表</p> <p>15. 自らが提案する「まち歩き」発表</p> <p>準備学習</p> <p>地元が舞台の文化を取り扱う。自ら現場に赴くことも重要である。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>規定に従う</p> <p>テキスト</p> <p>授業時に随時、紹介する</p> <p>参考図書</p> <p>授業時に随時、紹介する</p>
--

展開科目〈観光関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			15661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
有村 理／一尾 敏正	選択	2	(輪講制)			

<p>授業の到達目標</p> <p>戦後、日本企業は大いなる成長を遂げた。企業は生まれ、成長、発展する。企業のメカニズムや成長の秘訣を知る。事例研究を通して企業の社会的責任、社会貢献などを理解する。グローバル化の時代において将来の職業選択、企業選びに役立てる。</p> <p>授業の概要</p> <p>沢山の産業の中から講義の主体をホスピタリティ産業に絞る。事例研究を通して企業と業界を解説する。講義では適宜映像を通して企業理解を図る。また、講義を学外に移し、実際に企業訪問を行う。生の企業に触れその実態を見る。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 事例研究A-1 (宿泊産業) 3. 事例研究B-1 (運輸業・航空) 4. 事例研究A-2 (飲食業・レストラン) 5. 事例研究B-2 (旅行業) 6. 事例研究A-3 (運輸業) 7. 事例研究B-3 (食品産業) 8. 事例研究A-4 (飲食業FC) 9. 事例研究B-4 (京都の企業) 10. 企業訪問の事前学習 11. 企業訪問の事前学習 12. 企業訪問 13. 企業訪問の事後発表
--

<p>14. 企業訪問の事後発表</p> <p>15. まとめ</p> <p>準備学習</p> <p>新聞をよく読むこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点70%、定期試験30%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席は平常点に反映する。</p> <p>テキスト</p> <p>日経業界地図 (日本経済新聞出版社)</p> <p>参考図書</p> <p>会社四季報</p> <p>留意事項</p> <p>学外活動あり (企業訪問)</p>
--

現代人間学部 心理こども学科

専 門 科 目

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族や家庭生活の研究に必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

ほとんどの人は家族のなかに生まれ育つ。そこで家族や家庭生活のあり方は、子どもを最初に大きく方向づける。また、誰でも自分なりの家族観をもち、家族について意見を述べるができる。ところが、家族や家庭生活を客観的にとらえることは、意外にむずかしい。この演習では、女性の晩婚・晩産化、少子化、仕事と家族的責任の調和、親子関係、離婚、再婚など、家族をめぐる様々なテーマに学際的に接近したい。まず演習 I においては、家族研究に必要な基礎知識を身につける。

授業計画

1. 家族研究の方法 1
2. 家族研究の方法 2
3. 研究テーマの設定
4. 文献・資料の収集と整理
5. 家族研究の基礎知識 1
6. 家族研究の基礎知識 2
7. 家族研究の基礎知識 3
8. 家族研究の基礎知識 4
9. 発表 1
10. 発表 2
11. 発表 3
12. 家族の研究論文を読む 1
13. 家族の研究論文を読む 2

14. 家族の研究論文を読む 3
15. まとめ

準備学習

家族社会学や家族関係学のテキストを1冊読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

湯沢・宮本『データで読む家族問題』日本放送出版協会

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

授業で学んだことや実習体験の中で、特に関心・興味をもったことを卒業研究に向けての「テーマ」探しとして確認・整理していく。出身園や実習園など、教育・保育の場を選択し、先のテーマにそって調査・分析していきたい。

授業の概要

授業の目標の内容を中心に、ゼミ生、担当教員との討議や発表を通して、卒業研究への具体的な方向性を明らかにする。

授業計画

1. はじめに
2. 演習の取組み方について
3. ゼミ生の発表1(研究の方向性を自由に発表)
4. ゼミ生の発表2
5. ゼミ生の発表3
6. ゼミ生の発表4
7. 資料の輪読1
8. 資料の輪読2
9. 資料の輪読3
10. 資料の輪読4
11. ゼミ生の発表5
12. ゼミ生の発表6
13. ゼミ生の発表7
14. ゼミ生の発表8
15. まとめ

準備学習

発表の際にはレジュメを用意すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回欠席につき2点減点

テキスト

山田剛史・林 創「大学生のためのリサーチリテラシー入門」ミネルヴァ書房

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

児童文学を通じた「言葉の力と心の教育」に関する卒業研究のテーマを設定するために、文献や資料を収集し、意見交流を行う。

授業の概要

小学校国語教科書に掲載されている作品や、各市・出版社等が子どもたちに読ませたい本として取り上げている作品を調べる。また、児童文学の種類や選び方、絵・文章の読み方、作家と作品、解釈の仕方等を学び、研究テーマの方向性を決定していく。

授業計画

- 1.オリエンテーション 演習の進め方
- 2.児童書の選択
- 3.絵本とは何か①
- 4.絵本とは何か②
- 5.「もりのなか」を読む①
- 6.「もりのなか」を読む②
- 7.「おおかみと七ひきのこやぎ」を読む
- 8.絵本作家と作品①
- 9.絵本作家と作品②
- 10.絵の力、文章の力①
- 11.絵の力、文章の力②
- 12.昔話の世界
- 13.「私が選んだ絵本」発表と討議①
- 14.「私が選んだ絵本」発表と討議②

15.まとめ

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

松井直著『絵本のよこび』日本放送出版協会

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

自分から進んで研究に取り組もうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者としてのみならず、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に思考を展開し、他者に表現できるような姿勢を構築する。

授業の概要

人間のコミュニケーション活動の発達に関する論文をいくつかとりあげ、それについて学生各自が理解した内容を、プレゼンテーションの資料を作成して報告を行う。内容についてグループ内で討議することを通じて、そこで問題とされた話題や研究の目的、研究の方法とそれに基づく結果と解釈について理解し、各自の問題意識を明確にしてゆく機会とする。

授業計画

- 1.オリエンテーション:講読する論文のまとめ方と報告の様式について
- 2.テーマに関わる文献の講読1
- 3.文献をまとめる際の基本的な技法
- 4.テーマに関わる文献の講読2
- 5.各自の興味ある研究に関する文献検索の方法
- 6.テーマに関わる文献の講読3
- 7.テーマに関わる文献の講読4
- 8.テーマに関わる文献の講読5
- 9.テーマに関わる文献の講読6
- 10.心理学研究法の紹介:実験
- 11.心理学研究法の紹介:
- 12.心理学研究法の紹介:
- 13.各自のテーマ設定のための報告と討議1
- 14.各自のテーマ設定のための報告と討議2

15.全体のまとめ

準備学習

学内図書館で、自分の関心あるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

大野木 裕明・二宮 克美・宮沢 秀次編 調査実験 自分でできる心理学 ナカニシヤ出版

参考図書

研究法、データ処理法にかかわる文献は適宜紹介する。

留意事項

各自の調査研究において、観察・実験等で、学外での活動を行う場合がある。文献購読および各自の調査研究をすすめるうえで、「心理調査・データ処理法」、「心理統計学」、「臨床発達心理学（行動観察・評価法）」を履修していることがのぞましい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

家族研究の基礎を学び、卒業研究のテーマを設定する。

授業の概要

演習Ⅰにひきつづき、家族研究のための基礎知識を学び、卒業研究のテーマを設定する。また、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、家族や家庭生活についての理解を深めていく。

授業計画

1. 現代家族の問題 1
2. 現代家族の問題 2
3. 個人研究発表 1
4. 個人研究発表 2
5. 個人研究発表 3
6. ディスカッション 1
7. ディスカッション 2
8. 研究テーマの確認と今後の研究計画
9. 論文の書き方 1
10. 論文の書き方 2
11. 個人研究発表 4
12. 個人研究発表 5
13. 個人研究発表 6
14. 個人研究発表 7
15. まとめ

準備学習

家族関係に関するテキストを1冊読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

なし

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

授業で学んだことや実習体験の中で、特に関心・興味をもったことを卒業研究に向けての「テーマ」探しとして確認・整理していく。出身園や実習園など、教育・保育の場を選択し、先のテーマにそって調査・分析していきたい。

授業の概要

ゼミ生、担当教員との討議や発表を通して、卒業研究へ向けての具体的な方向性を明らかにする。

授業計画

1. はじめに
2. 実習の学びについて報告・発表1
3. 実習の学びについて報告・発表2
4. 実習の学びについて報告・発表3
5. 研究計画・文献収集に関する指導1
6. 研究計画・文献収集に関する指導2
7. 研究計画・文献収集に関する指導3
8. 研究計画・文献収集に関する指導4
9. 研究の進捗状況の報告1
10. 研究の進捗状況の報告2
11. 研究の進捗状況の報告3
12. 研究の進捗状況の報告4
13. 研究の進捗状況の報告5
14. 研究の進捗状況の報告6
15. まとめ

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回欠席につき2点減点

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

児童書を通じた「言葉の力と心の教育」に関する卒業研究のテーマを設定するために、文献や資料を収集し、意見交流を行う。

授業の概要

様々なジャンルの児童文学作品や、作品・作家に関する文献を購読し、登場人物の言動・生き方、作品の特徴、解釈の仕方等について発表や討議を行い、各自の研究テーマを設定していく。

授業計画

1. 今後の研究の進め方について
2. 研究方法と内容の考察①
3. 研究方法と内容の考察②
4. 研究方法と内容の考察③
5. 研究の経過報告と討議①
6. 研究の経過報告と討議②
7. 研究方法と内容の考察④
8. 研究方法と内容の考察⑤
9. 研究方法と内容の考察⑥
10. 研究の経過報告と討議③
11. 研究の経過報告と討議④
12. 研究方法と内容の考察⑥
13. 研究方法と内容の考察⑦
14. 研究方法と内容の考察⑧
15. 研究の経過報告と討議⑤

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献や資料を毎回持参すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者としてのみならず、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に思考を展開し、他者に表現できるような姿勢を構築する。

授業の概要

人間のコミュニケーション活動の発達に関する論文をいくつかとりあげ、それについて学生各自が理解した内容を、プレゼンテーションの資料を作成して報告を行う。内容についてグループ内で討議することを通じて、そこで問題とされた話題や研究の目的、研究の方法とそれに基づく結果と解釈について理解し、各自の問題意識を明確にしてゆく機会とする。

授業計画

1. 各自のテーマに即した今後の研究の進め方について
2. 文献講読:論文執筆にかかわる手法の紹介 1
3. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 1
4. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 2
5. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 3
6. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 4
7. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 5
8. 文献講読:論文執筆にかかわる手法の紹介 2
9. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 6
10. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 7
11. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 8
12. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 9
13. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 10
14. 文献講読:心理学研究法・データ処理法にかかわる実習ないし文献紹介

15. まとめと今後の展望に関する討議

準備学習

学内図書館で、自分の関心あるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

大野木 裕明・二宮 克美・宮沢 秀次編 調査実験 自分でできる心理学 ナカニシヤ出版

参考図書

適宜指示する。

留意事項

各自の調査研究において、観察・実験等で、学外での活動を行う場合がある。文献購読および各自の調査研究をすすめるうえで、「心理調査・データ処理法」、「心理統計学」、「臨床発達心理学(行動観察・評価法)」を履修していることがのぞましい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容から、テーマを決定し、卒業研究作成に取り組む。

授業の概要

研究テーマに沿って今後の計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

授業計画

1. 卒業研究の書き方
2. 卒業研究のテーマ設定について
3. 研究の進め方と討議①
4. 研究の進め方と討議②
5. 研究の進め方と討議③
6. 研究の進め方と討議④
7. 研究の進め方と討議⑤
8. 研究の進め方と討議⑥
9. 研究の進め方と討議⑦
10. 研究の進め方と討議⑧
11. 卒業研究の指導①
12. 卒業研究の指導②
13. 卒業研究の指導③
14. 卒業研究の指導④
15. 卒業研究の指導⑤

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために必要な文献や資料の準備をして、授業に参加すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	必修	2				

授業の到達目標

三年次の演習Ⅰ・Ⅱでの学習成果を踏まえ、自分の興味・関心のある事柄を選び、卒業研究のテーマの方向性を見極めて、取り組む。

授業の概要

各自の研究テーマにそって研究計画を立て、幼稚園や保育所へのボランティアや文献講読など適切な方法で情報収集に努め、テーマへの学びが深まるようにする。

授業計画

1. 各自の研究テーマ・研究方法を確認する。
2. 各自の研究テーマ・研究方法を確認する。
3. ゼミ生間で、テーマの確認と共通理解をする。
4. ゼミ生間で、テーマの確認と共通理解をする。
5. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
6. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
7. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
8. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
9. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
10. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
11. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
12. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
13. 研究の進捗状況の報告と発表及び相互批評
14. まとめと課題・今後の展望
15. まとめと課題・今後の展望

準備学習

幼稚園や保育所へのボランティアや施設見学などを積極的に行うこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき5点の減点とする。

テキスト

特に無し

参考図書

必要に応じて適宜紹介・提示する。

留意事項

研究テーマを常に念頭に置き、主体的に取り組むと共に積極的にゼミに参加すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	必修	2				

授業の到達目標

心の理解者としてのみならず、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に思考を展開し、他者に表現できるような姿勢を構築する。

授業の概要

人間のコミュニケーション発達に関する論文作成を目的とした学生各自の研究に関して、各自の研究主題にかかわる論文のレビュー、研究方法の紹介、データの整理方法と分析結果および考察などを、プレゼンテーションの資料をもとにして報告を行う。内容についてグループ内で討議することを通じて、主題の独自性と論理性を明確にしてゆく機会とする。

授業計画

1. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介 1
2. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介 1
3. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介 1
4. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議 1
5. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 1
6. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 2
7. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 3
8. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介 2
9. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介 2
10. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介 2
11. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議 2
12. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 4
13. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 5

14. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 6
15. まとめと今後の展望

準備学習

学内図書館で、自分の関心あるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席をする場合は事前あるいは事後に、その旨連絡すること。補填が必要な場合は課題等を与える。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

研究法、データ処理法にかかわる文献は適宜紹介する。

留意事項

各自の調査研究において、観察・実験等で、学外での活動を行う場合がある。文献購読および各自の調査研究をすすめるうえで、「心理調査・データ処理法」、「心理統計学」、「臨床発達心理学（行動観察・評価法）」を履修していることがのぞましい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	必修	2				

授業の到達目標

個々の研究テーマに沿って文章を推敲し、卒業研究を完成する。

授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ね、学び合うことを通して卒業研究を完成していく。

授業計画

1. 卒業研究の形式と内容
2. 卒業研究の作成①
3. 卒業研究の作成②
4. 卒業研究の作成③
5. 卒業研究の作成④
6. 卒業研究の作成⑤
7. 卒業研究の作成⑥
8. 卒業研究の作成⑦
9. 卒業研究の発表と討議①
10. 卒業研究の発表と討議②
11. 卒業研究の作成⑧
12. 卒業研究の作成⑨
13. 卒業研究の作成⑩
14. 卒業研究の作成⑪
15. まとめ

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

自主的・積極的に卒業研究に取り組むこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	必修	2				

授業の到達目標
各自が自分の設定した研究テーマに応じて深く掘り下げ、その結果を卒業研究としてまとめる。

授業の概要
自分の研究テーマにそって実施した幼稚園や保育所等での実践記録や調査・文献等からの収集に努め、それらをまとめて演習の時間に発表する。
討論や指導を受けてその内容を深め、卒業研究を作成する。

授業計画

1. 進捗状況の確認と発表
2. 進捗状況の確認と発表
3. 進捗状況の確認と発表
4. 発表及び討論
5. 発表及び討論
6. 発表及び討論
7. 発表及び討論
8. 発表及び討論
9. 発表及び討論
10. 研究の修正とまとめ
11. 研究の修正とまとめ
12. 研究の修正とまとめ
13. 研究の修正とまとめ
14. 研究の修正とまとめ
15. 研究の修正とまとめ

準備学習
発表毎に省察し、課題を明確にして取り組むこと。

課題・評価方法
平常点30%、定期試験70%

欠席について
一回の欠席につき5点の減点とする。

テキスト
特に無し

参考図書
研究テーマにそって随時指示・紹介する。

留意事項
積極的に、そして真摯に取り組んでもらいたい。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	必修	2				

授業の到達目標
心の理解者としてのみならず、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら独自に思考を展開し、他者に表現できるような姿勢を構築する。

授業の概要
演習Ⅲに引き続き、人間のコミュニケーション発達に関する論文作成を目的とした学生各自の研究に関して、各自の研究主題にかかわる論文のレビュー、研究方法の紹介、データの整理方法と分析結果および考察などを、プレゼンテーション資料をもとに報告を行う。内容についてグループ内で討議することを通じて、主題の独自性と論理性を明確にしてゆく機会とする。

授業計画

1. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介 1
2. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介 1
3. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介 1
4. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議 1
5. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 1
6. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 2
7. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 3
8. 文献購読:心理学研究法にかかわる文献の紹介 2
9. 文献購読:データ処理法にかかわる文献の紹介 2
10. 文献購読:論文執筆にかかわる手法の紹介 2
11. 研究の報告と相互批評:コミュニケーション関係の実験・観察資料の報告と討議 2
12. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 4
13. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 5

14. 研究の報告と相互批評:文献研究の報告 6
15. 各自の最終報告とまとめ

準備学習
学内図書館で、自分の関心あるテーマの文献を書架や端末で検索する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法
平常点30%、定期試験70%

欠席について
欠席をする場合は事前あるいは事後に、その旨連絡すること。補填が必要な場合は課題等を与える。

テキスト
適宜紹介する。

参考図書
研究法、データ処理法にかかわる文献は適宜紹介する。

留意事項
各自の調査研究において、観察・実験等で、学外での活動を行う場合がある。文献購読および各自の調査研究をすすめるうえで、「心理調査・データ処理法」、「心理統計学」、「臨床発達心理学(行動観察・評価法)」を履修していることがのぞましい。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	必修	2				

授業の到達目標

人間の行動や心を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化しつつあるものとしてそれを捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。

授業の概要

本講義では、人間の心というもののが他者を含む環境との相互的かわりを通して発達していくことを、精神活動の成立と展開についての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、各時期における具体的な保育・教育実践の課題と関連付けて解説してゆく。

授業計画

1. 精神機能を発生的に把握するということ:生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握するということ:遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降)
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係の発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点:ブロンフェンブレンナーの理論
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

準備学習

発達的变化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

必要な図書を講義中に適宜紹介する。

参考図書

Piaget, J. & Inhelder, B. 新しい児童心理学 白水社
 矢野喜夫・落合正行編著 発達心理学への招待 サイエンス社
 佐藤眞子編 人間関係の発達心理学2 乳幼児期の人間関係 培風館
 荘巖舜哉・根ヶ山光一編著 行動の発達を科学する 福村出版

留意事項

講義は各回が前回の内容を前提として進められるので、講義内容の流れを常に把握しておくこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	必修	2				

授業の到達目標

- 1 保育所保育指針を学び、保育の全体的な構造を理解する。
- 2 保育内容の歴史の変遷について学ぶ。
- 3 子どもの発達の特徴を踏まえ観察や記録の観点を修得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。
- 4 養護と教育の一体性について具体的な保育実践につなげて理解する。
- 5 保育の展開について具体的に学ぶ。

授業の概要

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の理解を通して、子どもたちに体験させたい保育の内容について理解を深めていく。教育課程の意義、編成、指導計画について学ぶとともに、保育所保育の全体的な計画や保育の内容についても考慮し、乳幼児全体を視野に入れた保育内容について学習する。

授業計画

1. 保育の基本と保育内容
2. 保育の全体構造
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特徴と保育内容
5. 個と集団の発達と保育内容
6. 保育における観察と記録
7. 養護と教育の一体化
8. 環境を通して行う保育
9. 遊びによる保育
10. 生活や発達の連続性に考慮した保育

11. 家庭、地域、小学校との連携
12. 保育の多様な展開1 乳児保育
13. 保育の多様な展開2 長時間保育
14. 保育の多様な展開3 特別な支援を必要とする子どもの保育
15. 保育の多様な展開4 多文化共生の保育

準備学習

「保育原理 I」の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

参考図書

授業時に指示する。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
性格心理学			17309	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
林 敬子	選択	2				

授業の到達目標

性格の諸理論から性格が形成される諸要因を理解し、又性格の不応の問題についても理解を深める。性格の自己分析を通して、自己認知を促す。

授業の概要

性格心理学の基本問題とともに、性格に関する身近なトピックスも取り上げる。性格とは何か。性格はいかにして形成されるのか、いろいろな学派の性格の諸理論を説明しながら、性格の測定と評定、性格の異常と不適応などの問題から性格心理学の課題を考える。血液型と性格、性格と病気など最近の興味あるトピックスにも触れる。

授業計画

1. I. はじめに: 自分史小論
性格心理学前史
2. II. 現代の性格心理学
①性格と人格、類型論と特性論
3. III. 性格の形成・発達(1)
①遺伝と性格
4. ②環境と性格形成
5. IV. 性格の形成・発達(2)
①フロイト
6. ②エリクソン
7. V. 性格の測定と評定
8. 性格検査施行(バウムテスト・TEG・SCT)
9. バウムテスト・TEG分析

10. SCT分析
11. 自己診断レポートとまとめ
12. VI. 血液型と性格
13. VII. 性格と病気
①心身症
14. ②うつ病
15. ③肥満と性格

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

特別欠席以外の通常欠席については1回欠席につき2点を試験評価から原点します。

テキスト

必要な文献は授業中に紹介します。プリントを配布します。

参考図書

詫摩武俊編著 性格の理論 誠信書房

留意事項

出席重視

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情心理学			17317	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

感情が人間の生活においてどのような役割を果たしているかを再認識したうえで、感情のメカニズム、感情の発達、感情の障害・病理について考察を深める。

授業の概要

感情の喚起と脳のメカニズム、感情の主観的経験とその表出および理解、感情の調節に至るまでの過程を自らの体験と照らし合わせながら理解を深めていく。また、他者と同じ感情を分かち合う共感の過程について、さらには感情の障害とそれへの対応についても認識を深める。

授業計画

1. 感情の意義と役割
2. 感情喚起のメカニズム
3. 情動的知能
4. 感情の主観的経験
5. 感情表出のメカニズム
6. 他者の感情の認知・理解
7. 共感のメカニズムとカウンセリング
8. 感情の調節
9. 感情経験と表出の発達
10. 感情調節の発達
11. 共感能力の発達
12. 感情と言語
13. 感情の障害と臨床(1)不安
14. 感情の障害と臨床(2)うつと攻撃性

15. 今後の研究課題

準備学習

とくになし。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『感情の発達と障害－感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社

参考図書

『感情心理学パースペクティブズ』畑山俊輝 編、北大路書房

留意事項

授業の中で課す小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達心理学			17321	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	選択	2				

授業の到達目標

人格の発達にとって、年齢によって変化する身体と社会的な諸関係、文化というものが重要な役割をはたすことについて、各発達段階ごとの課題や危機の理解をふまえた説明ができることを目標とする。

授業の概要

人間の心理的発達の特殊性は、文化を担った社会的環境の中で他者との関係を築き上げながら変化して行くことにあると考えられる。また、その変化は、具体的な身体を有する人間と人間との々の時期に応じた葛藤をはらんで展開するものであると考えられる。本講義では、おもに精神の情動的側面の意義についての考察をふまえ、エリクソンの人格発達理論に依拠しながら、他者との関係性の発達としての人格発達について論じてゆく。

授業計画

1. 人間の発達における情動のもつ本質的役割
2. 人格発達における対人関係の葛藤とその克服の意義
3. 自他未分化の世界における信頼関係:自己を映し出す鏡としての他者
4. 活動における自律性と自我の発生:自我の芽生えと対人的葛藤
5. 社会的役割関係への関心:幼児期における親世代との葛藤
6. 人格発達の躰き1(乳幼児期)
7. 規範性の世界への参入:学童期の同世代の仲間関係のなかでの自己
8. 自我同一性と同一性拡散:「私とはなにか」という問いと進路選択
9. 人格発達の躰き2(学童期・青年期)
10. 成人他者との社会的関係の維持・発展:生活の共有関係における自己実現と妥協
11. 次世代(子ども)との安定した関係の構築:次世代を育てる関係の維持
12. 喪失体験と死を前にした人生の統合:過去経験の統合と受容
13. 人格発達の躰き3(成人期・老年期)
14. 人格発達を背後で支える自然・社会環境について
15. まとめ

準備学習

発達的变化に着目できるように、前回の講義内容をよく念頭に入れて受講するようにしてください。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出る。

テキスト

必要な文献は適宜紹介する。

参考図書

浜田寿美男 ピアジェとワロン ミネルヴァ書房
エリクソン, E.H. 幼児期と社会Ⅰ・Ⅱ みすず書房

留意事項

講義内容を理解してゆく前提として「発達心理学」を受講しておくことが望ましい。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学			17325	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
津田 明子	選択	2				

授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観する中で、その発展に寄与した代表的な学者の考えを学習し、臨床心理学の基礎的な考え方を身に付ける事を目標とする。

授業の概要

本講義では、臨床心理学の歴史の変遷を概観しながら、その発展を支えた代表的な学者の考え方や理論を併せて解説している。また、現在それらの理論がどのような形で用いられているのか、最近の臨床心理学の動向についても解説する。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解するという事について、考えていきたい。

授業計画

1. 臨床心理学とは
2. 臨床心理学の歴史①
3. 臨床心理学の歴史②
4. フロイトの精神分析①
5. フロイトの精神分析②
6. ユングの考え方①
7. ユングの考え方②
8. ロジャーズの考え方
9. エリクソンの考え方
10. クラインの考え方
11. マーラーの考え方
12. ウイニコットの考え方
13. アドラー、ホーナイ、サリバンの考え方

14. 最近の臨床心理学の動向
15. 総括(臨床心理学的人間理解とは)

準備学習

特に必要なし

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

テキスト

特に決まったテキストは用いない。

参考図書

授業の中でその都度紹介する。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
認知心理学			17329	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	選択	2				

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることへの理解を深める。

授業の概要

見る、聴く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。

人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということ、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

1. 認知心理学はなぜ注目されるのか
2. 人間の知覚特性: 視覚
3. 人間の知覚特性: 聴覚
4. 人間の知覚特性: 運動感覚と認知
5. 人間の知覚特性: 空間知覚
6. 注意と記憶 1
7. 注意と記憶 2
8. イメージ処理
9. 言語と談話理解 1
10. 言語と談話理解 2
11. 推論と問題解決
12. 思考と言語 1
13. 思考と言語 2
14. 社会的認知

15. まとめ

準備学習

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

必要な文献は講義中に適宜指示する。

参考図書

ナイサー 認知の構図 サイエンス社
 大山正 他編 認知心理学講座 [全4巻] 東京大学出版会
 佐伯 胖 他編著 コレクション認知科学 [全12巻] 東京大学出版会

留意事項

心理学の基本的な研究法や概念は理解しているものとしてすすめるので、基礎的な科目を履修していることが望ましい。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理統計学			17337	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹内 伸宜	選択	2				

授業の到達目標

統計の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味について解説する。講義はできるかぎり具体的なデータを学生が扱いながら、記述統計から推測統計まで、その処理プロセスと統計手法の個々の概念について学んでゆく。

授業計画

1. データの性質について: 名義尺度から比例尺度まで
2. データの性質について: 名義尺度から比例尺度まで
3. 標本と母集団、および分布と確率
4. データの表現: ヒストグラムの作成
5. 代表値と散布度 1: 平均値、中央値、最頻値
6. 代表値と散布度 2: 分散と標準偏差
7. 変数の比較における標準化の意味
8. 相関関係とはなにか: 2変数間の関係
9. 相関と回帰: 散布図の作成
10. 相関と回帰: 相関係数の算出と解釈
11. 平均値の差の検定: t検定
12. ノンパラメトリックな検定: カイ二乗検定
13. データの分散と条件の比較: 分散分析の読み取り方
14. 多数の変数をまとめる: 多変量解析(因子分析)への導入
15. まとめ

準備学習

記述統計の基本について、よく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
 吉田寿夫 1998 本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
 田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
 南風原朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義は「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学基礎実験		17341	Ⅱ	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。

授業の概要

知覚から動機までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 知覚 1 — ミューラー・リヤー錯覚
3. 知覚 2 — ミューラー・リヤー錯覚
4. 認知・学習 1 — 鏡映描写
5. 認知・学習 2 — 鏡映描写
6. レポートに関するコメント(1)
7. 記憶と忘却 1
8. 記憶と忘却 2
9. 要求水準 1
10. 要求水準 2
11. 情報伝達 1
12. 情報伝達 2
13. レポートに関するコメント(2)

14. イメージ測定
15. 総合レポートの作成

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

2週で1セットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートが書けないことになる。

テキスト

なし

参考図書

『ユーザーのための教育心理統計と実験計画法』 田中・山際、1992年、教育出版

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法		17345	Ⅱ	秋	35
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹内 伸宜	選択	2			

授業の到達目標

調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込んで評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。具体的な調査を実際に行いながら、調査実施を問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。

授業計画

1. 調査研究の方法:実験法・検査法との比較
2. 調査研究の方法:実験法・検査法との比較
3. 調査研究の方法:質問紙調査法と面接調査法
4. 調査法における心理尺度の構成
5. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施
6. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現)
7. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の統計解析 1
8. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の統計解析 2
9. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:解析結果の表現と解釈
10. 報告作成上の留意点と書式
11. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 1

12. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 2
13. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 3
14. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用 4
15. まとめ

準備学習

心理統計学の基本的な用語や計算手法をよく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房

参考図書

田中・山際 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人格発達障害論			17361	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
日潟 淳子	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>本授業では、人格がどのような心の構造や動きから生み出されるのかを理解し、人格と適応との関連についての知識を深めることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>人格とは、個人特有の心の動きのパターンである。本授業を通して、「人格のパターンがどのように生じるのか」、「自分の人格とは」、「自分にとって大切な他者はどのような人格のパターンをもっているのか」といった自分や他者の人格についての疑問に対しての理解を深める。また、人格と適当との関連から、人格の発達のプロセス、人格の障害が生じる要因や、それらへの対応、さらには人格の成熟などのテーマをとりあげ、人格とは何かについて多面的に考える。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人格とは 2. 人格を知る方法 3. 人格の発達(1) 4. 人格の発達(2) 5. 人格の発達(3) 6. 人格についての理論(1) 7. 人格についての理論(2) 8. 人格についての理論(3) 9. 人格についての理論(4) 10. 人格と適応(1) 11. 人格と適応(2)

<ol style="list-style-type: none"> 12. 人格と適応(3) 13. 人格と適応(4) 14. 人格は変えられるのか 15. まとめ <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>規則に従う</p> <p>テキスト</p> <p>なし</p> <p>参考図書</p> <p>人格心理学－パーソナリティと心の構造 鈴木乙史・佐々木正弘著 河出書房新社</p>
--

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
精神保健			17365	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
西田 仁美	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>精神健康とはいかなる状態、様子の事をさすのかを精神障害者処遇の歴史を検討しつつ、学者の定義も参考に各自に定義づけてもらいたい。保育所、幼稚園等でみうける各小児疾患への対応策も身につけてもらいたい。</p> <p>授業の概要</p> <p>精神保健の歴史は、精神障害者処遇の歴史と捉えてもよい。そこで各地域別に事例を概観しつつ、ヨーロッパ、アメリカ、日本の3地域での人々の特徴を指摘したい。日本での法律の変化とその意味も解説する。ストレスマネジメントでは、各自のストレスレベルをチェックし、適切なストレスサーへの対処法を学んでもらいたい。近ごろ話題にされる事が多い、虐待児問題、登園拒否、引っ込み思案、摂食障害(過食・肥満)等についても、生活環境の変化を含めて考察していきたい。職場での人間関係も仕事を適切にこなす上で重要なので、この点にも触れておく</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 精神保健、その内容と対象について 2. 精神保健の歴史 (1)精神障害者処遇の歴史 ヨーロッパ・アメリカ・日本の特徴 3. 精神保健の歴史 (2)日本での法律の変化 4. 精神的健康 ジャホダの規準・シュルツの規準 5. ストレス・マネジメント その意味の検討、各自のストレスレベルのチェック 6. ストレス・マネジメント 同上
--

<ol style="list-style-type: none"> 7. 親子関係から生じる情緒障害 排泄・喘息・チック・食事に関する問題行動 8. 仲間関係から生じる情緒問題 友達ができない・引っ込み思案・緘黙 9. 言葉の指導 (1)①吃音児 ②場面緘黙児 ③言語発達遅滞児 10. 言葉の指導 (2)①自閉症に伴う言語障害児 ②脳性麻痺に伴う言語障害児 11. 子どもの生活環境 環境の変化、躰が困難な社会 12. 保育・養育環境 我々が学ぶべき心の2つの面、自己というフィルター役割 13. 今日的な問題 (1)①被虐待児 ②肢体不自由児 14. 今日的な問題 (2)①登園拒否児 ②多動児 15. 保育者の精神保健 職場での人間関係 <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>規則に従う</p> <p>テキスト</p> <p>精神保健 第4巻 改訂 保育士養成講座編纂委員会/編</p>
--

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習1（心理テスト法）			17373	Ⅲ	春	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
林 敬子	選択	1				

授業の到達目標

保健所、児童相談所、病院などの心理臨床現場における3歳児検診や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査を身につけることを目標とする。

授業の概要

心理検査において検査者と被験者を体験し、実施方法や結果のまとめ方を身につけ、課題毎に所見をレポートにして提出する。

授業計画

1. はじめに:心理テスト概論・利用法
2. 東大式エゴグラム
3. YG検査
4. CMI (コーネル・メディカル・インデックス)
5. PFスタディ
6. SCT (文章完成テスト)
7. K式発達検査
8. WISC知能検査1
9. WISC知能検査2
10. クレペリン作業検査
11. バウムテスト
12. 風景構成法
13. 箱庭療法
14. 箱庭療法
15. 総括

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

実習なので欠席は認めません

テキスト

その都度紹介する

留意事項

ペアで実施するので特別な事情以外は欠席を認めません

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習2（カウンセリング法）			17377	Ⅲ	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項			
林 敬子	選択	1				

授業の到達目標

ビデオ教材の視聴や受講生同士の対話ビデオの分析などを通してコミュニケーションの基本モデルについて学び、自己チェックを繰り返しながら、技法のマスターに努め、幼稚園をはじめさまざまな臨床の場での実践につないでいけるように指導する。

授業の概要

心理臨床の基本技能である面接法（カウンセリング）について学ぶ。カウンセラーに必要な基本的方法の学習を通してカウンセラーに必要な資質とは何かを会得する。ロールプレイ実技とケース記録を提出させ、授業の中でケースカウンファレンスを行うことでクライアントの気持ちを理解するとともに、カウンセラーの対応の仕方を学んでいく。この両者を並行して行うことで基礎訓練を行う。

授業計画

1. カウンセリングの定義・方法
2. カウンセリングの基本モデル
3. 精神分析(フロイト)
4. 来談者中心療法(ロジャーズ)
カウンセリングのモデル(DVD)
5. 傾聴的態度と非言語的コミュニケーション
共感性、思いやり、純粋性の訓練
6. 認知行動療法
7. 認知行動療法のモデル
8. 自己開示の訓練
直面化の訓練
9. 自己開示の訓練

10. 疑似ケース クライアントとカウンセラーの体験とスーパーバイズ
11. 疑似ケース クライアントとカウンセラーの体験とスーパーバイズ
12. 疑似ケース クライアントとカウンセラーの体験とスーパーバイズ
13. 疑似ケース クライアントとカウンセラーの体験とスーパーバイズ
14. 疑似ケース クライアントとカウンセラーの体験(ビデオでスーパーバイズ)
15. 疑似ケース クライアントとカウンセラーの体験(ビデオでスーパーバイズ)
まとめ

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

実習なので基本的に欠席は認めない

参考図書

随時推薦する

留意事項

出席重視

専門分野科目〈心理・行動・臨床〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学文献講読 1		17385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典にあたりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。

授業の概要

母親の育児態度・感情が子どもの心理的発達にどのような影響を与えていくかについての論文を講読する。発表者は割当てられた論文について、要点を簡潔にまとめたレジюмеを作成し、それに基づいて皆にわかるように説明していく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(1)
3. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(2)
4. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(3)
5. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(4)
6. 母親の育児態度・感情に関する研究論文の講読(5)
7. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(1)
8. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(2)
9. 母親の育児態度の検査に関する研究論文の講読(3)
10. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(1)
11. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(2)
12. 子どもから見た母親の育児態度に関する論文の講読(3)
13. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読(1)

14. 母親の育児態度・感情の変化に関する論文の講読(2)
15. 今後の研究課題

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

発表者は発表の仕方を工夫すること。発表を聞く側は質問をし、また自分の意見、感想を記述すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育心理学	PC	17409	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

子どもの発達と心理的問題をどのように理解し、援助していくかについて学ぶ。とくに、児童・生徒の人間形成にかかわるさまざまな要因について理解する。

授業の概要

不登校やいじめなど子どもの問題行動をどのように理解し、対処すればよいのかを論じたのち、子どもの人格形成や自己理解、対人関係にかかわる心理学的課題をとりあげ、また学習指導と評価のあり方について論じる。最後に、発達障害をもつ子どもに対する理解や援助の仕方を学ぶ。

授業計画

1. 子どもの問題行動の理解と援助ー不登校
2. 子どもの問題行動の理解と援助ーいじめ
3. 子どもの問題行動の理解と援助ー虐待
4. 子どもの問題行動の理解と援助ー摂食障害・対人恐怖
5. 教師と児童生徒の人間関係
6. 家庭的背景の理解
7. 学級への適応
8. 発達観と教育
9. 人格の形成
10. 自己理解を育てる
11. 感情を育てる
12. 社会性と道徳性
13. 教育評価と学習指導
14. 発達障害の理解ーADHD、学習障害

15. 発達障害の理解ーアスペルガー症候群

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『こころの発達と教育臨床』澤田瑞也 ほか著 2001年、培風館

参考図書

随時紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 1	①/②/③		17417	I	春	10~12
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、保育者・指導者として実践に必要な「歌唱」「音楽理論」「ピアノ演奏」の基礎的能力を習得することがねらいである。

授業の概要

「歌唱」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、正しい発音で表情豊かに歌えるように演習する。「音楽理論」については、コード習得のための理論を、こどもの歌のコード伴奏が瞬時にまたスムーズにできることを目標に学習する。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。

授業計画

1. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 楽典の基礎。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 音遊び。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード演奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード演奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. コード演奏演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声とソルフェージュ。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

14. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. コード伴奏での弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

準備学習

ピアノ譜(ト音記号とヘ音記号)の読譜ができることが望ましい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA)ピアノテキスト[Piano Lesson 60時間]「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時提示する。

留意事項

最初の授業までに、大学入学までのピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽 2	①/②/③		17421	I	秋	10~12
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

こどもの発達に応じた表現活動について研究し、そのために必要な音楽能力の向上を目指す。幼児・児童が楽しみながら音楽活動を展開していくために、「歌唱」「ピアノ演奏」の技能を高め、保育者・指導者としての知識を習得することがねらいである。

授業の概要

こどもの発達を踏まえながら歌唱教材を研究し、楽曲にふさわしい伴奏型で弾き歌いが出来るように演習する。さらに、身体表現にも役立つピアノ曲を数多く習得すると同時に、楽典も学習していく。また、音遊び、手遊び、振り付けなどの体験学習を通して、表現活動の意味や指導法についても研究する。

授業計画

1. コード復習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 調性について。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 調性について。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. コードの連結。弾き歌いと各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コード伴奏の演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コード伴奏の演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. いろいろなコードネーム。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. 発声とソルフェージュ。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. 歌唱の教材研究と弾き歌い演習。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. こどもの発達と歌唱教材。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. こどもの発達と歌唱教材。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

14. 様々な表現活動について。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. 様々な表現活動について。各自の進度に応じたピアノ個人レッスン。

準備学習

春学期に学習した楽典とコードの基礎知識を完全に習得しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

テキスト

「歌おう♪弾こう♪こどもとともに」(YAMAHA MUSIC MEDIA)ピアノテキスト[Piano Lesson 60時間]「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

参考図書

授業内で随時表提示する。

留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC	17437	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
箕野 聡子／福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

初等国語の一貫として、日本及び西洋の児童文学を学ぶことにより、それぞれの文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。

授業の概要

(日本児童文学)近代の児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。その近代児童文学が現代児童文学に与えた影響を読み取っていく。(西洋児童文学)児童文学には感性を育む豊かな想像の世界が広がっている。絵とことばを巧みに組み合わせた絵本、リズムカルなことばの詩・ナーサリーライム(マザーグース)、児童が主人公として体験できる夢と冒険の世界を描いた作品を取り上げる。

授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」と芥川龍之介の「桃太郎」(箕野)
2. 小川未明「赤い蠟燭と人魚」とディズニーの「リトルマーメイド」(箕野)
3. 浜田広介「泣いた赤鬼」とあまんきみこ「おにたのぼうし」(箕野)
4. 宮沢賢治「注文の多い料理店」と木村裕一「あらしのよるに」(箕野)
5. 千葉省三「拾った神様」と映画「憑神」(箕野)
6. 坪田譲治「河童のはなし」と映画「河童のクウと夏休み」(箕野)
7. 椋鳩十「山の太郎熊」と斉藤洋「ルドルフ ともだち ひとりだち」(箕野)
8. 松谷みよ子「貝になった子供の話」と「わたしのいもうと」(箕野)
9. 「ブラウン・ベア」とエリック・カールの絵本の世界(福智)
10. 日常に生きている伝承唄・ナーサリー・ライム(マザーグース)の

世界(福智)

11. プレゼンテーション「読み聞かせ」とその意義 (福智)
12. 「大草原の小さな家」少女が見た開拓者生活の自然と日常の世界(福智)
13. 「トムソーヤとハックルベリ・フィン」マーク・トウェインの冒険の世界(福智)
14. 「星の王子様」アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ(福智)
15. 「はてしない物語」ミヒャエル・エンデのファンタジーの世界(福智)

準備学習

作品をあらかじめ読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規定に従う。

テキスト

大藤幹夫『展望日本の児童文学』(双文社)(箕野)
本田英明、桂香子、小峰和子『英米児童文学』(ミネルヴァ書房)(福智)

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・発達論		17441	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹内 伸宜	選択	2			

授業の到達目標

他の動物とは異なる人間の発達の特異性が、文化を学習してゆくという点にあることを、各年齢期の課題や、文化剥奪、特別支援教育をめぐる具体的な課題引き寄せて説明できるようになることを目標とする。

授業の概要

身体の成長に伴いより深く入り込んでゆく社会的活動様式から常に学習する機会を得ることで展開してゆく、という人間発達の歴史・文化的な側面について、文化の伝承や障害の克服という学習課題などにも触れながら論じてゆく。

授業計画

1. 人間の発達と歴史・文化の役割
2. 発達を構成する主体はだれか
3. 発達をめぐるピアジェとヴィゴツキーの論争について
4. 「児童の自己中心性」と「思考と言語」の関係
5. 「話しことば」から「書きことば」への移行が意味するもの
6. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」とダイナミックな評価
7. 認知能力変容のための「道具的媒介」の過程 1
8. 認知能力変容のための「道具的媒介」の過程 2
9. 状況に埋め込まれた学習
10. 人格としての発達と学習:「年齢期の問題」をめぐる
11. 人格としての発達と学習:遊びの中での学習
12. 文化を奪われた人々の学習と発達
13. 精神発達の障害と学習
14. 実習とまとめ 1
15. 実習とまとめ 2

準備学習

発達および教育心理学の知識を活用するので、よく復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト

武安宥・角本尚紀 2009 教職概論 昭和堂

参考図書

神谷栄司 2007 保育のためのヴィゴツキー理論 三学出版
フォイヤヤーシュタイン他 1998 「このままでいい」なんていわないで! : ダウン症をはじめとする発達遅滞者の認知能力強化に向けて 関西学院大学出版会
ヴィゴツキー 2006 情動の理論:心身をめぐるとデカルト、スピノザとの対話 三学出版

留意事項

実習的な要素を取り込む予定なので、連続して受講しないと理解ができない場合があるので注意すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学		17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
林 敬子	選択	2			

授業の到達目標

乳幼児期の母子関係から、心身の発達と知性・言葉・社会性・遊びの発達を通して乳幼児期の精神発達の要因を明らかにする。

授業の概要

生涯発達心理学の視点に立って、周産期的発達に心理学的検討を加えることから始めて、個人の性格特徴の基礎となる乳幼児期の母子関係における諸問題とその成否がもたらす発達上の問題を明らかにし、乳幼児が母子一体の共生関係から母親と別個の個体として心理学的に誕生していく分離・固体化のプロセスを探ることによって、乳幼児期の精神発達の生涯とその防止を取り上げる。

授業計画

1. はじめに: 「子どもへの関心の高まり」「子ども観」について
2. 生涯発達と周産期 胎児の発達
生涯発達と周産期 胎児の発達と妊産婦との相互作用
3. 胎児の成長と行動学的発達・胎教・出産・誕生における母子相互作用
4. 人の生物学的特色
5. 身体・運動の発達
6. 胎児・乳児の一年間の驚くべき能力(DVD)
7. 知性の発達—ジャン・ピアジェ—
8. 言葉の発達
9. 道徳性の発達
10. 心からの親切・やさしさとは(話し合いとレポート)

11. 母性と父性の本質
12. きょうだいの関係
13. 社会性の発達
14. 遊びの発達
15. 乳幼児のソーシャルトレーニング

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

特別欠席以外の通常欠席については一回の欠席について2点を試験の評価から原点します。

参考図書

武藤 隆・高橋恵子・田島信元編 心理学入門Ⅰ乳児・幼児・児童 東京大学出版会

留意事項

出席を重視します。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
算数科概論	PC	17457	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
樋口 勝一	選択	2			

授業の到達目標

現在多くのメディアでこどもの算数学力低下が叫ばれている。それに伴い算数の基礎教育に関心が集まり、「こどものいかに数という概念を教えるか」は教育者をめざす者、子育てをする者にとって非常に重要なことであると再認識されつつある。本講義では、幼稚園や小学校で必要とされている算数の内容を習得することを目的とする。

授業の概要

算数の内容を生徒に教えるためには、自分自身が正確に内容を理解しておく必要がある。まず、「計算」を正確に実行できる力を養成し、次に、日常生活の中で必要不可欠な「割合」の考え方を身につける。さらに、どのようにして物事を「かず」に置き換えるかを指導する。最後に、生徒に対して「いかに興味を持たせて学ばせるか」について考える。

なお、学習の動機付けとして就職試験に出題される算数や数学の内容も学習する。

授業計画

1. 基礎学力確認
2. 算数基礎1—整数問題
3. 算数基礎2—割合と比
4. 算数基礎3—図形
5. 数学基礎1—正負の数
6. 数学基礎2—式の計算
7. 数学基礎3—方程式・不等式
8. 数学基礎4—関数

9. 生活とかず1—割合基礎
10. 生活とかず2—割合応用
11. 生活とかず3—表計算
12. 生活とかず4—つるかめ算など
13. 生活とかず5—旅人算など
14. 総復習
15. まとめ

準備学習

小学校、中学校の算数・数学の基本的な問題集で勉強しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は不可とする。

テキスト

後日指示する。

留意事項

幼稚園、小学校算数レベルからはじめるので、算数・数学の苦手な人も安心して受講してもらいたい。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの発達・学習	PC	17461	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹内 伸宜	選択	2			

授業の到達目標
 ことばの学習と獲得に前提として必要な能力は何か、ヒトはどのような点でそれに適した身体・精神構造と活動形態をもっているのかについて理解し、言語発達の指導にも適用できる基礎知識を獲得することを目標とする。

授業の概要
 ことばはコミュニケーションの手がかりとして、最もその運用システムが高度に組織化されたものであり、人間の活動を、認識およびコミュニケーション双方の点から、強力に支持する機能を担っているといえる。そのことばを獲得する能力をどのようにしてヒトは可能にしてゆくのかについて、前言語的なやりとりの時期から、聴覚、構音機能、文法機能の獲得などについて、最近の研究の成果を紹介しながら学んでゆく。

授業計画

1. 人間にとっての言語活動とは
2. 言語獲得理論の動向
3. やりとりからことばへ
4. 言語的音声の獲得1
5. 言語的音声の獲得2
6. 言語と認知(象徴機能の獲得)
7. 語彙の獲得1
8. 語彙の獲得2
9. 文法の獲得1
10. 文法の獲得2
11. 養育放棄事例のことばの発達

12. 障害児のことばの発達(視覚障害)
13. 障害児のことばの発達(聴覚障害)
14. ことばの獲得を支えるもの
15. ことばの発達と学習のまとめ

準備学習
 テキストを事前・事後によく読んで講義の内容を自分で説明ができるように理解すること

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 欠席した場合の補填を希望する場合は、必ず次週にその旨申し出ること。

テキスト
 小林春美・佐々木正人編 2008 新・子どもたちの言語獲得 大修館書店

参考図書
 トマセロ、M. 大堀壽夫・中澤恒子・西村義樹・本多啓訳 2006 心とことばの起源を探る：文化と認知 勁草書房

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ I	PC	17465	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標
 2011年度より全国の小学校で、英語活動が始まっている。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。

授業の概要
 本授業では、ワークショップ形式で、

1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方を考え
2. 歌、チャンツ、TPR、絵本、ゲーム、クイズ、ごっこ遊びなど発達過程を考えた授業法を体験
3. 実際にこれらの授業法を使った活動のプレゼンテーションを行い、指導者として「授業ができる」実践力を身につける。

授業計画

1. ガイダンス 児童英語教育の意義と目的
2. 国際理解につながる小学校英語活動のあり方
3. 歌の活用の意義と指導
4. チャンツを取り入れた授業法 (1)
5. チャンツを取り入れた授業法 (2)
6. TPR(身体で表現する活動)を取り入れた授業法 (1)
7. TPR(身体で表現する活動)を取り入れた授業法 (2)
8. 「ゲーム」を活用した授業法
9. 「スキット、ロールプレイング、ごっこ遊び」を取り入れた

活動

10. 『タスク型英語活動とプロジェクト型英語活動』
11. 物語を楽しむ英語活動 「ストーリーテリング」 (1)
12. 物語を楽しむ英語活動 「ストーリーテリング」 (2)
13. 活動案作成 (1)授業案作成のポイント
14. 活動案作成 (2)教材製作 発表準備
15. プレゼンテーション まとめ

課題・評価方法
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 参加・発表型の授業であるので、必ず出席すること

テキスト
 「小学校英語の教育法」アレン玉井光江 大修館書店

留意事項
 子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュII	PC	17469	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
福智 佳代子	選択	2			

授業の到達目標

2011年度より全国の小学校で、英語活動が始まっている。本授業では、児童英語教育に効果的な教授法をワークショップ形式で体験し、幼稚園、小学校、英会話学校等で指導できる実践力を身につけることを目指す。

授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、異なることばや文化・生活に自然にふれる楽しい活動を考える。授業では、
 1. 発達過程を考えた幼稚園・小学校での英語教育のあり方と、
 2. 発達過程を考えた園児・小学生英語の授業法を考え、
 3. 学年毎の授業案作成及び模擬授業を通じて、
 発信型英語能力開発の一環として、学生自身が将来の実践に役立つ授業創り・模擬授業をする。

授業計画

1. ガイダンス ビデオによる授業観察と授業案作成のポイント
2. 幼稚園児対象授業案作成 (1)
園児の英語活動にふさわしい活動
3. 幼稚園児対象授業案作成 (2)
園児の英語活動にふさわしい活動で使う教具作成
4. 低学年対象授業案作成 (1)
低学年の英語活動にふさわしい活動で使う語彙と表現
5. 低学年対象授業案作成 (2)
低学年の英語活動にふさわしい活動で使うワークシート
6. 中学年対象授業案作成 (1)
中学年の英語活動にふさわしい活動で使うゲーム
7. 中学年対象授業案作成 (2)
中学年の英語活動にふさわしいアクティビティ
8. 模擬授業／実践授業
9. 高学年対象授業案作成 (1)
ICT及びデジタルコンテンツ研究
10. 高学年対象授業案作成 (2)
ICT及びデジタルコンテンツ研究
11. 模擬授業準備

- 授業練習とアナログ教材製作
- 12. 模擬授業
- 授業練習と電子黒板使用デジタル教材製作
- 13. 小学校実習授業
- 14. 授業評価、ポートフォリオ作成
- 15. まとめ

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

テキスト

「小学校英語の教育法」アレン玉井光江 大修館書店

参考図書

児童英語テキスト、小学生英語テキスト
授業中に随時紹介する。

留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽3	①/②/③/④	17473	Ⅲ/Ⅱ	春／秋	10~16
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2	クラス①、② (Ⅲ：春) /③、④ (Ⅱ：秋)		

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的スキルを高める。また、現代の環境等に即した指導法や教材を研究し、子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指す。

授業の概要

表現活動のためのピアノ曲を中心に、ピアノの個人レッスンを行う。また、コード伴奏で子どもの歌、生活の歌、季節の歌を、明瞭な日本語で表情豊かに弾き歌いができるように演習する。さらに、ピアノ以外の打楽器、鍵盤楽器の奏法を習得し、楽譜の書き方、編曲の仕方を学び、音楽会のための合奏曲を仕上げる。

授業計画

1. 初等音楽1・2で習得したコードの復習と弾き歌いの演習。
2. 表現活動のねらいと内容。
3. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
4. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
5. リズム遊び、リズム奏、手拍子の音楽などリズムについて。
6. 打楽器の奏法とリズム合奏。
7. 合奏曲の演奏と編曲法。
8. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
9. 合奏曲の演奏と編曲法。楽譜の書き方。
10. 合奏曲の演奏と編曲法。楽譜の書き方。
11. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
12. 季節の歌、コード奏による弾き歌い。
13. 合奏編曲作品の発表と考察。
14. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
15. こどもの発達と表現活動についての研究とまとめ。

準備学習

初等音楽1・2で習得したコードを理解し、反射的にピアノで弾けるように練習しておく。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

『歌おう♪弾こう♪こどもとともに』(YAMAHA MUSIC MEDIA)
『マイレパートリー』(YAMAHA MUSIC MEDIA)

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽4	①/②	17477	Ⅲ	秋	10~16
担当者名	区分	単位	特記事項		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

子どもたちが豊かな感性で音楽活動を楽しむことができるように、各自の音楽的スキルを高める。また、初等音楽3で学習した内容をもとに、実際に保育現場で役立つ音楽活動のシミュレーションを行い、幅広い表現活動ができる指導力を身につける。

授業の概要

表現のためのピアノ曲のレッスンの他に、ピアノのできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習する。また、コード奏による弾き歌いのレパートリーを増やし、歌唱指導の実践を行う。さらに、日本の伝統音楽に親しむために和太鼓を学び、合奏する。総括として、各グループごとに設定した音楽会プログラムの計画、指導、練習を経験することにより総合的に音楽をプロデュースする力をつける。

授業計画

1. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
2. 季節の歌、コード奏による弾き歌い。
3. ピアノの特殊効果と変奏。
4. 身体表現のための変奏の習得と発表。
5. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
6. 歌唱指導の実践。
7. 歌唱指導の実践。
8. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
9. 和太鼓、打法と合奏。
10. 和太鼓、打法と合奏。
11. 表現活動のためのピアノ曲の個人レッスン。
12. さまざまな表現活動とその展開。

13. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
14. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
15. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。

準備学習

バイエル終了以上の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

1回につき3点減点。

テキスト

『歌おう♪弾こう♪こどもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）
『マイレパートリー』（YAMAHA MUSIC MEDIA）

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

ほぼ毎回の授業時に提示される課題をして授業に臨むこと。初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育情報学		17485	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹内 伸宜	選択	2			

授業の到達目標

ITC技術を教育の場に導入し、その特性や限界についての理論的理解をふまえて子どもとの活動において活用できる技術修得をめざす。

授業の概要

子どもが自分をとりまく自然や科学技術、文化について学ぶ活動を支援するものとして、パソコンなどのデジタル情報端末が教育の現場に浸透している。また、それらを用いた電子情報環境の利用は、携帯情報端末やゲーム機器など、教育現場にとどまらず日常生活においても重要な役割を果たすようになってきている。一方、教師の教育活動を背後で支援する情報処理の重要性もさらに増している。これらの新しい技術を導入し、子どもとの活動において活用する際には、その特性や限界について学ぶ必要がある。本講義では、教育の場において電子情報機器やソフトウェアが果たす役割について、具体的に教材を作成し、機器を操作するなかで、その教育的な意味について考えてゆく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 情報機器を介したネットワーク社会と子ども
3. 生活経験のデジタル情報化と表現
4. Webを介した情報の検索を通じた学習
5. Webを介した情報発信を通じた学習・表現活動1
6. Webを介した情報発信を通じた学習・表現活動2
7. 子どもの生活における情報処理:生活・学習経験の情報化と交流
8. 子どもの表現活動における情報処理:PowerPointによるプレゼンテーション1
9. 子どもの表現活動における情報処理:PowerPointによるプレゼンテーション2
10. 子どもの表現活動における情報処理:PowerPointによるプレゼンテーション3
11. 子どもの科学学習における情報処理:Squeakを用いた学習1
12. 子どもの科学学習における情報処理:Squeakを用いた学習2
13. 教師の情報処理:ネットワーク利用による情報統合 Wikiのシステム利用1

14. 教師の情報処理:ネットワーク利用による情報統合 Wikiのシステム利用2
15. まとめ

準備学習

日頃から情報はパソコンで処理し、管理し、阜する習慣をつけておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席をした場合は、その旨連絡すること。補填が必要な場合は課題等を与える。

テキスト

別途指示を予定。必要に応じて資料（文献、オンライン情報）を紹介する。

参考図書

ババート,S. 1982 マインドストーム 未来社
ケイ,C.A. 1992 アラン・ケイ アスキー
佐伯 胖他編 1992 学校の再生をめざして2教室の改革 東京大学出版会
佐伯 胖他編 1998 現代の教育8:情報とメディア 岩波書店

留意事項

実習的な要素を多分に含む科目であるので、継続した参加が必要であることに留意すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職初等	17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)

10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

準備学習

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

『学校教育相談』丸藤太郎・菅野信夫編著、ミネルヴァ書房

留意事項

小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②	17509	I	春	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
神代 千恵子	選択	2			

授業の到達目標

子どもにとって物を作る活動は、生活そのものであり、それが学びとなり創造性を育む。基本的な素材(紙・絵の具・ねんど・空箱等)や用具を使って、その素材の持つ特徴を引き出し、工夫し、造形遊びを体験する。柔軟な発想、高度な技術や感覚で造形の基礎的能力を高め、教育に必要な実践力を身につける。

授業の概要

図画工作に必要な素材や用具を実技を通して体験し、創造することの意義や喜びを実感する。これを基に素材や用具の特徴を学びオリジナルな創作活動を体験するとともに教材の研究を行う。

授業計画

1. オリエンテーション ―子どもの造形表現について―
2. 子どもの造形表現と発達過程
3. 子どもの描画の発達の特徴
4. 子どもの遊びの中からの教材研究と実技 ―ものと表現
5. 発想を育てる教材研究と実技 色遊び
6. 発想を育てる教材研究と実技 描く遊び(1)
7. 発想を育てる教材研究と実技 描く遊び(2)
8. 発想を育てる教材研究と実技 写す遊び(1)
9. 発想を育てる教材研究と実技 写す遊び(2)
10. 素材を使った教材研究と実技 紙、木片、空箱、空容器など
11. コミュニケーション教材の研究と実技(1) 遊べるおもちゃ
12. コミュニケーション教材の研究と実技(2) ペープサート 紙芝居
13. コミュニケーション教材の研究と実技(3) パネルシアター 指人形

14. 子どもが参加できる壁面制作
15. まとめ 相互評価

準備学習

授業に必要な準備物を確認し、忘れないように持参すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

準備や実技の進行に影響をきたすため、欠席はいないように。欠席は、1欠席1回につき5点減点とする。

テキスト

「保育の中の造形表現」造形教育 実践編 林建造・岡田啓吾 共著 サクラクレパス出版部

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

授業時に指示する。

関連科目 くごども関連科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育	①/②	17513	Ⅱ	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	2			

<p>授業の到達目標</p> <p>子どもの発達を理解し、運動機能や身体表現に関する知識・技術を学ぶ。そして子どもたちが運動遊び・表現運動を通じて、楽しく自然に仲間と交流し、また運動機能の向上もしているよう、指導方法を身につけることを目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>体づくり運動（体ほぐし・多様な動きをつくる運動遊び）、器械運動（マット運動・跳び箱・鉄棒など）、ボール運動（サッカー・バスケットボールなど）、陸上運動（ハードル・高跳び・リレーなど）、水泳（水遊び）、表現運動などの基本的な運動技術・知識を段階的に学び、子どもたちが安全に楽しく運動が行えるよう、指導方法を学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体づくり運動①(体ほぐし・多様な動きをつくる運動遊び) 2. 体づくり運動②(体ほぐし・体力を高める運動) 3. ボール運動①(バレーボール・その他) 4. ボール運動②(サッカー・その他) 5. ボール運動③(バスケットボール・その他) 6. 陸上運動①(走法・ハードル走・その他) 7. 陸上運動②(幅跳び・高跳び・その他) 8. 陸上運動③(リレー系・その他) 9. 器械運動①(マット運動:前転・後転・その他) 10. 器械運動②(跳び箱運動) 11. リズム遊び・表現運動 12. 鉄棒運動(逆上がり・その他)

<p>13. 水泳(水遊び・泳法・その他)</p> <p>14. 保健</p> <p>15. まとめ</p> <p>準備学習</p> <p>ボール運動のルールを簡単に学習しておくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>規則に従う。</p> <p>留意事項</p> <p>体操服・運動靴・体育館シューズ（雨天時と体育室利用時）を持参のこと。</p>

関連科目 くごども関連科目	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職初等	17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

<p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。 2 教育の思想と歴史的変遷について学ぶ。 3 教育の制度について学ぶ。 4 教育実践の取組みについて理解する。 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 <p>授業の概要</p> <p>教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の意義と作用 2. 教育の本質と教育目的 3. 教育思想の歴史的展開 4. 社会・文化と教育 5. 家庭教育の特質と機能 6. 学校教育の特質と組織 7. 社会教育と生涯教育 8. 福祉社会の形成とその担い手 9. 教育制度 10. 教育法規 11. 教育内容 12. 教育課程

<p>13. 教育実践の基礎理論</p> <p>14. 生涯学習社会と教育</p> <p>15. 講義全体のまとめ</p> <p>準備学習</p> <p>テキストを一読しておくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>欠席1回につき2点減点。</p> <p>テキスト</p> <p>戸江茂博編『教育原理』あいら出版</p>
--

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童家庭福祉			17526	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清原 国臣	選択	2				

授業の到達目標

今日の厳しい社会状況を反映して家庭を取り巻く環境も大きく歪になりつつある。健全な児童の育成とは原点に戻って問われるところの、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育を意味し、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が緊要に求められている。その中において子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。

授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。そうしてどうすれば地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題をもう一度考察し、その有り態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶことになる。

授業計画

1. 人口減少時代と子ども家庭福祉
2. 子ども家庭福祉とは
3. 子ども家庭福祉のあゆみ
4. 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5. 子どもと家庭を支援する法律の体系
6. 子どもと家庭を支援する制度の体系
7. 子どもと家庭を支援する施設の体系
8. 子どもと家庭を支援する専門職
9. 子どもと家庭を支援する活動方法

10. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－虐待について
11. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－親子関係
12. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－非行
13. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－非行に関する今後の課題
14. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－保育
15. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応－ひとり親家庭

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規程に従う。

テキスト

北川清一・小林理編著『子どもと家庭の支援と社会福祉－子ども家庭福祉入門－』（2010・ミネルヴァ書房・刊）

参考図書

適時授業時に紹介する。

留意事項

授業に積極的に参加すること。小テストも評価の対象とする。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	選択	2				

授業の到達目標

子どもが生きていく中で直面する様々なこころの問題や障害を紹介し、それらへの対応や援助方法について具体的に学び、子どもが生きやすい環境のあり方を理解する。

授業の概要

子どもの情緒（感情）の問題や障害について、それらをどのように理解し、予防し、対応したらよいか考察する。また、子どもの発達障害として、ADHD、学習障害、自閉症、アスペルガー症候群をとりあげ、それらへの理解と支援の方法について解説する。

授業計画

1. 情緒障害とは
2. 愛着障害の理解と介入
3. 子どもの内在化障害の予防と対処－不安障害
4. 子どもの内在化障害の予防と対処－抑うつ障害
5. 子どもの内在化障害と感情調節
6. 子どもの外在化障害－攻撃性と反社会的行動－と感情調節
7. 子どもの外在化障害への介入と予防
8. 女子の内在化障害
9. 女子の外在化障害
10. 発達障害の理解と支援
11. ADHDをもつ子どもの理解と指導
12. 学習障害をもつ子どもの理解と指導
13. 自閉症児の理解と対応

14. アスペルガー症候群の子どもの理解と対応
15. 知的障害－ダウン症－の理解と指導

準備学習

2年次または3年次春学期に「感情心理学」を履修しておくことが望ましい。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『感情の発達と障害－感情のコントロール』澤田 瑞也著、2009年、世界思想社

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（造形表現）	①/②	17601	I	秋	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
神代 千恵子	必修	1			

授業の到達目標

幼児における造形表現の意義や保育内容とその保育のあり方について理論と実技の両面から研究すると共に、幼児の造形表現の発達や造形の意味について理解する。

授業の概要

幼児の造形表現の発達を理解し、造形表現の内容、保育のあり方について実技を通して、素材体験や教材の研究をおこなう。

授業計画

1. 領域「表現」の造形表現について
2. 子どもの造形表現
3. 幼児の造形活動の特徴 実技
4. 環境と造形表現のかかわり 実技
5. 幼児の生活と表現活動 実技
6. 造形表現における保育のポイント 実技
7. 造形表現活動の実践 “新聞紙を使った造形遊び”
8. 評価

準備学習

使用する材料や用具を事前に連絡するので忘れないように準備し出席する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき5点減点

テキスト

「保育の中の造形表現」 造形教育 実践編 林建造・岡田啓吾 共著 サクラクレパス出版部

参考図書

「幼稚園教育要領」 「保育所保育指針」

留意事項

授業時に指示する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理 I		17605	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

- 1 保育の意義について理解する。
- 2 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
- 3 保育の内容と方法の基本について理解する。
- 4 保育の制度・思想の歴史の変遷について理解する。
- 5 保育の現状と未来について理解する。

授業の概要

保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的な知識を学ぶとともに、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。保育の社会的役割を検討し、保育の何たるかを学んでいきたい。

授業計画

1. 今なぜ保育なのか—保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の語義と概念
3. 養護と教育の一体性
4. 「子育ての社会化」としての保育
5. 児童の権利と保育
6. 家庭・地域の子育て機能
7. 現代社会と子育て
8. 保育制度の成り立ち
9. 保育所・幼稚園の戦後史
10. 少子化の進行と保育所への期待
11. 保育内容の公的基準
12. 子どもの健康な生活と保育
13. 子どもの発達と遊び
14. 幼保関係の歴史

15. これからの保育所と幼稚園

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『保育原理』あいり出版
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」フレーベル館
『最新保育資料集2012』ミネルヴェ書房

参考図書

授業時に指示する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論	教職幼		17613	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

教育・保育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職・保育職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。

授業の概要

教育の意義と教師（保育者）の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。

教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師（保育者）への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 教育とは何か……人間形成と教師（保育者）の役割
3. 教職の意義
4. 教職の歴史
5. 保育・初等教育と教員
6. 教師（保育者）に求められる資質と能力
7. 保育士の制度的位置づけ、教員の身分及び服務義務
8. 教員の職務について（1）
9. 教員の職務について（2）
10. 教育課程とは
11. 障害を受けている子どもの教育と課題
12. 開かれた保育所・幼稚園・学校づくり・地域社会との連携

13. 子どもと保護者、保育・教育の現状と課題
14. 優れた教師・魅力的な教師（保育者）を目指して
15. まとめ

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

長尾和英編『教職と人間形成』八千代出版

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617	II	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

本講義においては幼児教育の意義や目的、歴史について学び、幼児教育の原理について理解を深めるとともに、今日のわが国や世界における幼児教育の課題について考えたい。

授業の概要

近代の幼児教育思想家たちをとりあげ、彼らの理論について学ぶ。さらに、今日のわが国の幼児教育の課題、世界の幼児教育の課題についても考察する。

授業計画

1. 幼児教育の意義
2. 西洋の教育思想と子ども観（1）
3. 西洋の教育思想と子ども観（2）
4. 西洋の教育思想と子ども観（3）
5. 西洋の教育思想と子ども観（4）
6. 日本の教育思想と子ども観（1）
7. 日本の教育思想と子ども観（2）
8. 日本の教育思想と子ども観（3）
9. わが国の幼児教育の課題（1）
10. わが国の幼児教育の課題（2）
11. わが国の幼児教育の課題（3）
12. 世界の幼児教育の課題（1）
13. 世界の幼児教育の課題（2）
14. 世界の幼児教育の課題（3）
15. 世界の幼児教育の課題（4）

準備学習

「教育原理」の内容を復習しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

小田豊・森真里編『教育原理』北大路書房

参考図書

必要に応じて適宜指示する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程の研究			17621	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>幼児期の発達と生きる力の育成についての理解を深め、幼児教育における保育・教育課程の基本的な考え方を学ぶ。教育課程・保育課程に関する基本的な用語・知識・課程編成の原則等、基本的事項と指導計画の作成について学ぶ。</p> <p>授業の概要</p> <p>幼児たちが日々充実した園生活を送り健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・保育課程・指導計画に基づく保育者の周到な環境構成や援助が不可欠である。教育現場での実践例やビデオ視聴なども通しながら、幼児の主体性と保育者の意図のバランスを理解すると共に指導案の作成を学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 幼稚園教育要領と保育所保育指針 2. 教育課程・保育課程の意義と編成 3. 保育の「ねらい」と「内容」 4. 指導計画(長期的・短期的)の作成と作成上の留意事項 5. 長期の指導計画 6. 短期の指導計画 7. 生活や遊びを通した学びの過程(ビデオ視聴) 8. " 9. " 10. " 11. 週案作成の実際 12. 日案作成の実際

<p>13. "</p> <p>14. "</p> <p>15. "とまとめ</p> <p>準備学習</p> <p>「幼稚園教育要領」 「保育所保育指針」を読んでおくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>一回の欠席につき、5点の減点とする。</p> <p>テキスト</p> <p>「幼稚園教育要領解説」 「保育所保育指針」</p> <p>参考図書</p> <p>「初等教育資料」 文部科学省 「幼稚園じほう」 国公立幼稚園長会 「指導計画の作成と保育の展開」 フレーベル館</p> <p>留意事項</p> <p>毎回のどの授業を欠席しても次回の授業の理解が困難になる。また配布資料も多いので欠席をしないようにされたい。</p>
--

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	教職初等		17625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>保育・教育課程の意義や類型、それを編成するときの背景について理解する。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義では、保育・教育内容の充実と質の向上に資する保育・教育計画とその評価、指導計画の作成、実践や省察、改善の必要性について学ぶ。保育・教育課程の類型、理論的背景や歴史的な動向についても概観する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 保育・教育課程とは 3. 保育・教育課程の意義 4. 保育・教育課程の歴史的経緯 5. 保育・教育課程の類型(1) 6. 保育・教育課程の類型(2) 7. 保育・教育課程の類型(3) 8. 保育・教育課程作成の背景(1) 9. 保育・教育課程作成の背景(2) 10. 保育・教育課程作成の背景(3) 11. 保育・教育評価の意義 12. 保育・教育評価の方法 13. 指導計画の作成と展開(1) 14. 指導計画の作成と展開(2) 15. まとめ
--

<p>準備学習</p> <p>テキストを一読しておくこと。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>1回につき2点減点</p>
--

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	必修	2				

授業の到達目標

幼児期における人間関係について理論的、実践的に学ぶ。子どもがおとなや仲間との人間関係を通じて、どのように人格を形成し、社会性を発達させていくのかについて認識を深める。また、仲間とのかかわりで生じる葛藤の解決や思いやり行動を高めるための保育者としての援助や指導のあり方を理解する。

授業の概要

現代の子どもの親子関係や仲間との関係の特徴を理解したうえで、親、保育士、教師として、どのように養育し、指導していけばよいかについて学ぶ。

授業計画

1. 現代のこどもの生活空間と生活時間
2. 保育者として子どもへのかかわり方
3. 子どもの叱り方
4. けんかへの対応
5. 子どもの愛着関係についての理解
6. 子どもの自立と自律を育てる
7. 子どもの自己表現を育てる
8. 遊びを育てる(1)
9. 遊びを育てる(2)
10. 子どもの反社会的行動と非社会的行動
11. 子どもの道徳性と思いやりを育てる
12. 保育者としての親へのかかわり方
13. 自己認識と他者認識を深める(1)
14. 自己認識と他者認識を深める(2)

15. ストレスについての理解

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『事例で学ぶ保育内容—人間関係』無藤隆監、岩立京子編、萌文書林

参考図書

『思いやりを育む保育』平井信義・帆足英一編、新曜社

留意事項

授業の中で課する小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
澤田 瑞也	必修	2				

授業の到達目標

乳児期から幼児期(0歳~5歳)にかけての言葉の発達の様相を各年齢ごとに詳述するとともに、親、保育者が子どもの言葉の発達を促す上で、どのような点に留意すべきか、とくに子どもとのかかわり方、ことばの環境設定のあり方について把握する。

また、保育者として理解しておくべき言葉の障害のいくつかのタイプをとりあげて説明し、言葉の障害をもつ子どもをどのように指導・配慮していくかを学ぶ。

授業の概要

言語習得以前の乳児の非言語的コミュニケーションに始まり、言語習得後の言語発達の様相を概観し、親や保育士、教師として子どもの言語発達を援助していく際のポイントを詳述する。また、言葉の障害について、その理解と対応のあり方を論じる。

授業計画

1. 動物のコミュニケーション
2. 人間の非言語的コミュニケーション
3. 言葉の役割
4. 言葉の獲得過程
5. 言葉の発達(1)
6. 言葉の発達(2)
7. 言葉の発達(3)
8. 言葉と環境
9. バイリンガルの問題

10. 言葉の障害(問題)(1)
11. 言葉の障害(問題)(2)
12. 言葉の障害(問題)(3)
13. 文字の読み書きの発達と指導
14. 絵本の読み聞かせ
15. 「言葉」の領域のねらいと内容

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『子どもの育ちと「ことば」』横山真貴子編、保育出版社

参考図書

『よくわかる言語発達』岩立志津夫・小椋たみ子 編、ミネルヴァ書房

留意事項

授業の中で行う小テストにしっかりと取り組むこと。小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護			17638	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	2				

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について概括します。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とします。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習します。

特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっています。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実践を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とします。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障

8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

準備学習

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておいてください。

課題・評価方法

平常点50%、課題レポート30% 出席状況20%

欠席について

公欠以外の欠席は認めません。

テキスト

特に指定しません。

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をして下さい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健ⅠA			17642	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標

保育形態の多様化により保育現場においては、子どもの健康・安全の領域がますます重視されている。子どもの保健ⅠAでは子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。

授業の概要

成長・発達途上にある乳幼児は、さまざまな面で未熟であり事故発生や感染症等に罹ることが多い。子どもの心身の健やかな成長を見守り援助していくためには、子どもの特徴を把握し、発育・発達についての知識を習得することが必要である。子どもの健康を守り、増進し、順調な発育・発達を促すためにその意義を理解し、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。

授業計画

1. 子どもの健康と保健の意義
2. 子どもの定義と範囲と区分
3. 子どもの成長と発達①
子どもの成長・発達・発育の意味
4. 子どもの成長と発達②
胎児期の発育
5. 子どもの成長と発達③
子どもの身体発育
6. 子どもの成長と発達④
子どもの身体発育
7. 子どもの成長と発達⑤
生理機能の発達
8. 子どもの成長と発達⑥
生理機能の発達
9. 子どもの成長と発達⑦
運動機能の発達
10. 子どもの成長と発達⑧
運動機能の発達
11. 子どもの成長と発達⑨

- 精神機能の発達
12. 子どもの成長と発達⑩
精神機能の発達
13. 子どもの精神保健①
子どもの心の健康とその課題
14. 子どもの精神保健②
子どもの心の健康とその課題
15. 子どもの生活と保健

準備学習

身近なところから子どもに関心を持ち観察する。子どもの事故や感染症流行などの情報に関心を持つように心掛ける。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

保育・教育ネオシリーズ21
子どもの保健 ー理論と実際ー 巷野悟郎・磐田力・前澤真理子編著 同文書院

参考図書

「知れば楽しい おもしろい 赤ちゃん学的保育入門」小西行郎著

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ			17646	Ⅱ	秋	24
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	1				

授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への関わりや援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防及び適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。

授業の概要

保育形態の多様化により保育現場においては子どもの健康・安全の領域がますます重視されている。特に乳幼児が生命を保持していくためには、安全で衛生的な生活を保障する必要がある。子どもが日々快適に過ごすための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学習する。また子どもの疾病とその予防及び適切な対応や事故への応急処置及び救急救命法などを習得する。

授業計画

1. 子どもの成長・発達の観察と測定方法 子どもの発育を知る
2. 母体について(擬妊婦体験) 自分の体を知る
3. 子どもの保健と環境①
乳児の衣生活 衣服・おむつ
4. 子どもの保健と環境②
集団における健康教育 病気・感染の予防 手洗いの方法・実践
5. 救急救命法 救急救命士講習会(成人・小児コース)
6. 救急救命法 救急救命士講習会(成人・小児コース)
7. 子どもの保健と環境③

- 子どものあそび あそびの素材の安全性
- 8. 子どもの保健と環境④
身体の清潔① 沐浴・見学
- 9. 子どもの保健と環境⑤
身体の清潔② 沐浴・実践
- 10. 子どもの保健と環境⑥
乳児の栄養 調乳・授乳
- 11. 保育における看護と応急処置
- 12. 救急用品と管理
- 13. 事故防止及び健康安全管理
保育所における危険予知トレーニング
- 14. 保育所における衛生管理 おもちゃなどの消毒
- 15. 集団における健康教育

準備学習

日頃より衛生管理や安全管理について認識し行動する。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

毎日が実習であるため原則として欠席は認めない。

テキスト

随時プリントにて対応

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの食と栄養			17650	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
依藤 津世子	選択	2				

授業の到達目標

子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活がイメージできる。食育の必要性とその取り組みについての考えを持つことができる。家庭や児童福祉施設での食事、特別な配慮を要する子どもの食事について、保育者として指導の実践がイメージできる。

授業の概要

子どもの食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発育を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基本的知識を習得して、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの成長段階に応じた健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識とスキルを習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食事についても理解を深める。

授業計画

1. 子どもの健康と食生活の意義
2. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(糖質、脂質、たんぱく質)
3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能(ミネラル、ビタミン)
4. 食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5. 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
6. 幼児期の心身の発達と食生活

7. 幼児期の間食
8. 学童期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活
9. 食育における養護と教育の一体性
10. 食育の内容と計画及び評価
11. 食育の取り組みと実際
12. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
13. 疾病及び体調不良の子どもへの対応
14. 食物アレルギーのある子どもへの対応
15. 障害のある子どもへの対応

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席は重視する。

テキスト

新 保育士養成講座 第8巻 「子どもの食と栄養」 新保育士養成講座編纂委員会編

参考図書

適宜紹介する

留意事項

子どもの食事について、課題意識をもって意欲的に受講する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②	17653	Ⅱ	春	20
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	必修	1	(①-⑧)		

授業の到達目標
 幼児期の発達段階を理解し、「豊かな感性や表現する力を養う」「創造性を豊かにする」活動（リズム遊びや表現）を通して幼児が心と身体を解放し、楽しみながら自分なりに表現できるような指導方法を身につけることを目指す。

授業の概要
 身体表現は幼児の心と身体を解放し、創造性を引き出す大切な活動である。幼児の発達段階を理解し、興味・関心を探り、表現につなげていける感性と指導力を身につける必要がある。そのために保育者自身が表現を楽しむことが大切である。身体を自由に動かし、創造的な表現ができるよう、身体表現の基本を理論と実技で学習していく。

授業計画

1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領の「表現」について
2. 乳幼児にとって、身体表現のもつ意味について
3. 生活および発達段階に即した動きと基本リズム
4. 基本的な動き①
5. 基本的な動き②
6. リズム楽器の活用
7. 模倣表現①
8. 模倣表現②
9. 手具を使った表現①
10. 手具を使った表現②
11. 手具を使った表現③
12. 物語を題材にした表現

13. 発表会のための創作ダンス、構成と練習
14. 発表、発表作品の評価・反省
15. まとめ

準備学習
 普段から身体を動かすようにしておくこと。

課題・評価方法
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 規則に従う

留意事項
 第2講義より、2号館体育室で行う。体操服・体育館シューズ持参のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職初等	17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
清水 篤	選択	2			

授業の到達目標
 小学校での「授業づくり」について、教育方法、学習指導の基礎理論と技術の習得を目指す。

1. 授業づくりについての理論と方法を理解する。
2. 授業づくりにおける子ども・教師・教材の相互関係について理解し、授業づくりの実際について構想できるようにする。
3. グループワーク等を通して、専門職としての教師の授業力・実践力を高める。

授業の概要
 教育課程論、単元組織論、目標評価論、学習支援論、教師教育論等を視点にして、「よい授業」の姿を追究する。そのために、単元構想・学習活動・発問・板書など、子どもの「学び」を支える教師の具体的な働きかけを視点にして考察する。なお、本講座は、学校教育における教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）について、学校現場での多くの事例を通して、より実践的に探究する。

授業計画

1. オリエンテーション（「よい授業」の要件とは何か・木下藤次・今井鑑三の実践から）
2. 教育方法論の歴史的展開（兵庫の教育者の実践に学ぶ：芦田恵之助・及川平治・東井義雄）
3. 専門職としての教師（専門的力量としての授業力）
4. 教育課程の変遷（学習指導要領の変遷と教育実践・教育課程の意義・構造・類型）
5. 学習理論の変遷（教授理論の系譜・系統学習と問題解決学習）
6. 学習指導の具体的方法①（「授業」とは何か・子ども・教師・教材・子どもの見方）
7. 学習指導の具体的方法②（授業設計の手順・子どもの変容・授業の4分節）
8. 学習指導の具体的方法③（学習指導案の作成・単元構想・目標の明確化・学習活動）
9. 学習指導の具体的方法④（発問・板書・机間指導・ノート指導・学習形態）

10. 学習指導の具体的方法⑤（教材教具の作成と活用法・学習環境）
11. 学力と教育評価（学習評価の目的と方法・授業研究の方法と評価）
12. 情報化と教育（情報化社会と学校教育・情報メディアと学習指導・情報機器の活用法）
13. 授業分析のワークショップ①（学校現場の授業実践記録の考察と意見交流）
14. 授業分析のワークショップ②（学校現場の授業実践記録の考察と意見交流）
15. 現代の教育の動向と教育実践（PISA調査に見る今後の教育実践の方向性と課題）

準備学習
 ・シラバスをもとにして、参考図書等で予習をし、各自1～2の「質問事項」を持って授業に参加する。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 規則に従う。

テキスト
 随時、資料プリントを配布する。各自ファイリングして毎回持参すること。

参考図書
 文部科学省『小学校学習指導要領』
 佐藤学『教育方法学』（岩波書店）
 大澤真幸『電子メディア論』（新曜社）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

国語科の目標と内容・指導計画・学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を習得する。

授業の概要

国語科の目標と内容・方法・授業の構造・指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科書教材の指導計画の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身につける演習を実施する。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業の内容、座席等についてのガイダンス
2. 国語科教育の変遷と課題
3. 国語科の目標と内容①
4. 国語科の目標と内容②
5. 「読むこと」(文学作品)の指導①
6. 「読むこと」(文学作品)の指導②
7. 「読むこと」(説明文)の指導①
8. 「読むこと」(説明文)の指導②
9. 音読・群読の指導
10. 漢字・書写の指導
11. 「伝統的な言語文化」の指導
12. 学習指導案の作成①
13. 学習指導案の作成②
14. 模擬授業①
15. 模擬授業②

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、授業中随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(準備や提出物含む)を重視する。国語科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

1. 「小学校学習指導要領 社会」の目指す理念や目標を理解することができる。
2. 「小学校学習指導要領 社会」の変遷と、いま求められている社会科学力について理解することができる。
3. 具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。
4. 社会の出来事に関心を持つことができる。

授業の概要

これまでの「小学校学習指導要領 社会」の変遷を概観しながら、現行の「小学校学習指導要領 社会」に基づき、教育内容と指導法を考察し、教材研究の方法や学習指導法、評価方法の習得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力・実践力を高める。

授業計画

1. オリエンテーション:社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり①)
3. 「小学校学習指導要領 社会」の構成と内容(学習指導要領改訂と授業づくり②)
4. 社会科教育の今日的課題:社会科の目標と内容、生活科・総合的な学習の時間との関係
5. 社会科の教材研究と授業の構想①(資料の活用と教材化)
6. 社会科の教材研究と授業の構想②(授業の仕組みと展開)
7. 社会科の教材研究と授業の構想③(学習指導案の書き方と授業の見方・評価)
8. 地域学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
9. 地域学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)
10. 地理的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
11. 地理的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)

12. 歴史的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
13. 歴史的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)
14. 公民的学習の教材研究と授業化①(教材研究と学習指導案の作成)
15. 公民的学習の教材研究と授業化②(模擬授業と相互評価)

準備学習

- ・『小学校学習指導要領解説 社会編』を熟読する。
- ・日々、新聞の社会・政治・経済・文化欄を読み、教材化を構想する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成20年8月 東洋館出版社
適宜、資料プリントを配布する

参考図書

参考図書は、適宜必要に応じて紹介する

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

小学算数科の概略を把握し、その目標と教育内容・方法、そして、教材研究と指導法を習得することと、それらを実際に授業で実践できる力を養成することを目的とする。

授業の概要

まずは、小学校算数科の内容である、
A. 数と計算、B. 量と測定、C. 図形、D. 数量関係と「算数的活動」、「用語・記号」を学び、その教育方法を考察する。さらに、教材・指導案を作成し、それらにもとづいた模擬授業をおこなう。互いの模擬授業については、評価・考察もおこなう。

授業計画

1. オリエンテーション—算数とは
2. 算数科の全体構造
3. A. 数と計算—整数と加減乗除
4. A. 数と計算—小数と加減乗除
5. A. 数と計算—分数と加減乗除
6. B. 量と測定—量の概念、単位
7. B. 量と測定—面積、体積
8. B. 量と測定—速さ、重さ
9. C. 図形—平面図形
10. C. 図形—空間図形
11. D. 数量関係—式、関数
12. D. 数量関係—割合、比、統計
13. 算数的活動について

14. 教材研究・指導案
15. 模擬授業

準備学習

小学校の算数の内容がどんなものであったかを思い出しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超えた欠席は不合格とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 算数編」（平成20年8月版）

留意事項

算数が苦手な人もはじめからいねいに説明するので、安心して受講してほしい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
樋口 勝一	選択	2				

授業の到達目標

小学理科の概略を把握し、その目標と教育内容・方法、そして、教材研究と指導法を習得することと、それらを実際に授業で実践できる力を養成することを目的とする。

授業の概要

まずは、小学校理科の内容である、
A. 「エネルギー」と「粒子」、B. 「生命」と「地球」を学び、その教育方法を考察する。さらに、教材・指導案を作成し、それらにもとづいた模擬授業をおこなう。互いの模擬授業については、評価・考察もおこなう。

授業計画

1. オリエンテーション—理科とは
2. 理科の全体構造
3. A. エネルギー—光と音
4. A. エネルギー—電気
5. A. エネルギー—力と運動
6. A. 粒子—物の様子
7. A. 粒子—物の変化1
8. A. 粒子—物の変化2
9. B. 生命—植物
10. B. 生命—動物
11. B. 地球—地球
12. B. 地球—天体
13. 教材研究・指導案
14. 模擬授業

15. 模擬授業評価・考察

準備学習

小学校理科内容を思い出しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席は、不合格とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」（平成20年8月版）

留意事項

理科が苦手な人もはじめからいねいに説明するので、安心して受講してほしい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

生活科創設の経緯・背景を理解し、生活科の目標と内容を把握する。また、指導計画の作成や学習指導の在り方について実践を通して学び、生活科の授業づくりの基礎を培うことを目的とする。

授業の概要

小学校生活科の学習指導要領や授業例から、どのように学習内容が構成され、指導が進められているのかを考察する。また、生活科の指導案作成や模擬授業等を通して、実践力を育成していく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 生活科創設の理由と意義
3. 生活科の目標と内容①
4. 生活科の目標と内容②
5. 生活科と他教科等との関連
6. 指導計画と学習指導①
7. 指導計画と学習指導②
8. 生活科の授業①
9. 生活科の授業②
10. 生活科の授業③
11. 生活科の授業づくり①
12. 生活科の授業づくり②
13. 生活科の授業づくり③

14. 模擬授業①
15. 模擬授業②

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。生活科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職初等		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

特別活動の意義や役割、具体的な実践例を学ぶことを通して、小学校で特別活動を実施する際に求められる指導力の基礎を培うことを目的とする。

授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握するとともに、目標や内容を明らかにし、理解を深める。また、学校教育計画における特別活動の位置づけや、学級活動・クラブ活動・児童会活動・学校行事の指導について、具体例をもとに学習を進めていく。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 特別活動の構造と役割
3. 特別活動の目標と内容
4. 特別活動の歴史の変遷
5. 特別活動の指導内容と実践①
6. 特別活動の指導内容と実践②
7. 特別活動の指導内容と実践③
8. 特別活動の指導内容と実践④
9. 特別活動の指導内容と実践⑤
10. 特別活動の指導内容と実践⑥
11. 特別活動の指導内容と実践⑦
12. 特別活動の指導内容と実践⑧
13. 特別活動の指導内容と実践⑨

14. 特別活動の指導計画と指導案
15. 模擬授業(学級づくりのゲーム指導)

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。特別活動の意義や指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究Ⅰ	教職幼	17689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	選択	1			

授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教師の仕事とは何かなど、教育実習に参加するために必要な心構えや準備を学ぶ。

授業の概要

1週間の観察・指導実習に向けて、実習の目的や意義、人権教育や教育実習の心構えについて学ぶ。
実習記録のとり方や記録の仕方、部分実習の指導案の書き方を学び書けるようになる。

授業計画

1. 教育実習の概要、意義と目的について
2. "
3. 1週間の観察・参加実習園の選択と決定
4. 先輩の体験発表並びにアドバイス
5. 人権教育について
6. 3週間の実習依頼の仕方と手順・心得について
7. 記録のとり方・書き方について
8. 教育実習記録(Ⅰ)の記入について
9. 実習に当たっての注意点・留意点について
10. 礼状作成
11. 1週間の観察・参加実習の成果や課題を話し合う
12. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
13. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成
14. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けて

の教材作成

15. 実習記録についての個人指導を受ける。指導実習に向けての教材作成

準備学習

幼稚園教育要領を読んで、5領域のねらいや内容を把握しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

一回の欠席につき、10点の減点とする

テキスト

毎回、内容に応じたプリントを配布する。

参考図書

「実習日誌の書き方」相馬和子 中田カヨ子著 萌文書林

留意事項

実習に支障を来すことのないようにするための指導なので、原則として一回の欠席も認められないので、留意すること。やむを得ない理由がある場合はその旨を事前に申し出ること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職初等	17697	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	1			

授業の到達目標

介護等の体験(特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間)によって、教員としての資質を十分に高められるよう事前準備をおこなうことを目標とする。

授業の概要

「個人の尊厳と社会連携の理念」を深め、介護等体験特殊法が制定された主旨を理解する。特別支援学校や福祉施設のしくみとそれぞれの対象者について知る。また、身体的介護、車いすを利用している人などへの介助知識・留意点について学び、安全におこなえるよう指導する。

授業計画

1. 介護施設とは
2. 介護の心構えと実際
3. 高齢者の心と体
4. 認知症・身体障害を伴う高齢者の介護
5. 特別支援学校について
6. 特別支援学校について
7. まとめ
8. 介護等体験のための諸注意

準備学習

テキストを簡単に読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

原則通常欠席は認めない(特例欠席は除く)

テキスト

「特別支援学校における介護等体験ガイドブッカーフィリア 全国特別支援学校校長会 編著 教育新社
「よくわかる社会福祉施設一教員免許志願者のためのガイドブック」
増田雅暢他著 社会福祉法人全国社会福祉協議会

留意事項

8回すべて出席すること(特例欠席は除く)

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事後指導含む)	教職初等	17701	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	1			

授業の到達目標

介護等体験期間中の訪問指導及び介護等体験を終えた後の報告書にもとづき、振り返りをおこなう。

授業の概要

報告書と教職員の訪問報告書により個別の指導をおこなう。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

原則、体験期間中の欠席は認めない。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究Ⅱ	教職幼	17705	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
作 美代子	選択	1			

授業の到達目標

1 週間の実習成果を活かして、更に充実した本実習が出来るように、実習に必要な課題を確認すると共に、教材研究に取り組み実習の成果を確かなものにしていく。
本実習後は幼稚園教諭となるにふさわしい自分を目指して取り組む

授業の概要

1週間の実習園からの評価を基に自分の課題を明確にし、本実習に向けて意欲的に取り組むことが出来るようにする。
実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例を基に教材研究などを具体的に学ぶ。
本実習後は幼稚園教諭になるにふさわしい自分を目指して、課題の克服に努める。

授業計画

1. 本実習幼稚園へのオリエンテーション依頼の電話の掛け方などについて
2. 本実習に向けての教材研究をし指導案の作成に取り組む
3. "
4. "
5. 絵本の読み聞かせや歌唱指導について
6. "
7. 実習園のオリエンテーションを受ける
8. 実習園の教育理念や教育目標・指導方法等を学ぶ
9. 本実習に向けての教材研究をし、指導案の作成に取り組む
10. "
11. 実習記録の書き方などを再確認する
12. 本実習についての注意点や留意事項について
13. 礼状を作成する

14. 実習園の指導と評価に基づいて反省と省察を行い、課題を明確にする
15. まとめ

準備学習

1週間の実習記録や担当教諭からの指導を振り返り、自分の課題を明確にしておくこと

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき10点の減点とする

テキスト

教育実習Ⅰに同じ
随時プリントを配布する

参考図書

「幼児理解と評価」 文部科学省

留意事項

資格を取得するための実習である。遅刻や欠席は言語道断であり、1回の欠席も認められないので、留意すること。 やむを得ず欠席する場合は事前に必ず申し出ること

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職初等PC		17713	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を理解し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責についての理解を深める。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 学校教育の制度①
3. 学校教育の制度②
4. 教育関係法規① 日本国憲法、教育基本法等
5. 教育関係法規② 学校教育法等
6. 学校の組織と経営①
7. 学校の組織と経営②
8. 教職員の職務と制度①
9. 教職員の職務と制度②
10. 学校の危機管理
11. 学校評価
12. 教育行財政
13. 社会教育・生涯学習

14. 学校教育の課題
15. 教育経営の意義

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

佐々木正治・山崎清男・北神正行編著『新 教育経営・制度論』福村出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	必修	2				

授業の到達目標

現代の諸事情により生活スタイルが変容していることを踏まえ、乳幼児の「健康」を守ることの必要性を感じとり、幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容を理解すること。また、実際に身体を動かすことの楽しさ・心地良さを体験し、幼児の発達に応じた運動遊びの指導方法を身につける。

授業の概要

領域「健康」は、「健全な心と身体を育て、自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養う」領域である。毎日の生活において、満足感をもって楽しく充実して過ごすには健康が基本となり、生活上すべての活動の基本である。基本的な生活習慣における自立への指導から、健康な身体づくり・健康管理・安全教育など、心身ともに健康な生活を送るためには何が必要であるかを理解し、子どもの発達段階を踏まえて学習する。

授業計画

1. 健康の意義と乳幼児の健康
2. 子どもの身体の発達
3. 身体の発達と運動能力
4. 安全の指導
5. 領域「健康」と保育の計画
6. 3～5歳児の運動遊びの実践と指導のポイント
7. 運動遊びの指導方法①(伝承遊び・日常生活物を活用した遊び)
8. 運動遊びの指導方法②(移動道具を用いた遊び)
9. 運動遊びの指導方法③(固定道具を用いた遊び)
10. 自然遊びの指導方法

11. 0～2歳児の動きと生活
12. 0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得
13. 0～2歳児の遊び
14. 3～5歳児の生活習慣の獲得
15. 安全への配慮と保育者の役割・まとめ

準備学習

幼稚園教育要領・保育所保育指針の「健康」の解説をよく読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

テキスト

演習 保育内容 健康 河邊貴子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

留意事項

運動遊びの指導方法①～③では、体操服・体育館シューズ・新聞紙を持参のこと。場所はその都度連絡する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
石田 伸子	必修	2				

授業の到達目標

幼児を取り巻く様々な環境（物的・心理的）に目をむけ、環境が成長発達に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは、環境の取り入れ方が分かるようになる。進んで自然に目をむけ、豊かな感性を身につける。また現代社会の環境問題にも関心を持って取り組めるようになる。

授業の概要

幼稚園教育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。幼児にとって身近な環境は、心身の発達や人間らしい心を培うだけでなく、知的好奇心を誘う魅力的な存在でもある。幼児のときから人間を取り巻く環境に目を向けさせ、きれいな環境作りに関心を持たせるためには、どう取り組めば良いのか。日常生活の中での環境についての理解を深める。

授業計画

1. 領域「環境」の意味
2. 領域「環境」のねらいと内容
3. 自然・季節とのかかわりにおける子どもの育ち
4. 教室を出て実際体験する
5. グループでの話し合いと発表
6. 子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題①
7. 子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題②
8. 環境へのかかわり方の発達
9. 子どもの活動を引き出す保育環境

10. 物や生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
11. 地域社会・施設とのかかわりにおける子どもの育ち
12. 情報環境・文化財とのかかわりにおける子どもの育ち
13. 数量・図形への興味と関心の育ち
14. 文字・標識への興味と認識の育ち
15. 子どもの環境へのかかわりを促す保育者の役割・保育計画

準備学習

日ごろから身近な環境に目を向け、疑問や問題意識を持つように心がけておく。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席数は成績評価に反映する

テキスト

保育内容 「環境」第2版 榎沢良彦・入江礼子編著 建帛社

参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
岡田 るみ子	選択	2				

授業の到達目標

「幼稚園教育要領解説」の中で述べられた幼児教育の考え方を理解し、具体的な保育内容や指導・援助の方法について、体験を通して学びながら、保育者として自ら考え、創意・工夫して保育を展開していく実践力を身につけていく。

授業の概要

幼児教育は保育者が幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うことが基本である。幼児は主体的な遊びや活動の中で、様々な体験を通して、望ましい心情・意欲・態度を身につけていくことが必要である。そのために、保育者の指導のあり方（保育内容・環境構成・援助）はどうあるべきかを実技や演習を通して、幼児の視点、教師の視点の両面から考え、学習していく。

授業計画

1. 幼児期の特性と保育者の役割
2. 環境を通して行う保育 幼児の主体性を大切に保育
3. 遊びを通しての指導・援助 一人一人の特性に応じた保育
4. 保育の種類・形態により、保育内容がどのように変わるか
5. 遊びや活動の実際(1) 集団遊び
6. 遊びや活動の実際(2) 造形的活動(製作)
7. 遊びや活動の実際(3) 音楽的活動(楽器遊び)
8. 遊びや活動の実際(4) 運動遊び
9. 遊びや活動の実際(5) 造形的活動(描画)
10. 遊びや活動の実際(6) 行事(誕生会)
11. 遊びや活動の実際(7) ペープサート・指人形等
12. 遊びや活動の実際(8) 音楽的活動(歌唱・身体表現)

13. 幼児教育と小学校教育の連携
14. 保護者への対応・トラブルの指導
15. 幼稚園教育の現状と問題点

準備学習

「幼稚園教育要領解説」を読み、様々な先輩保育者の保育を参観する機会をできるだけもつようにする。

課題・評価方法

課題発表50% レポート50%

欠席について

欠席回数は成績に反映する。

テキスト

「子どもの育ちと保育者のかかわり」 本吉圓子著 萌文書林
「幼稚園教育要領解説」 文部科学省

参考図書

「幼児教育の方法」 小田豊・青井倫子編著 北大路書房

留意事項

授業中に使用する物を事前に知らせるので、忘れずに持ってくる。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論（カウンセリングを含む）			17729	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
神代 千恵子	必修	2				

授業の到達目標

- ・幼児理解に基づく指導や環境構成の意義と教師の役割についての理解を深める。
- ・幼児の心身の発達の道筋を理解し、発達課題に即した適切な支援のあり方を学ぶ。
- ・カウンセリングマインドの内容を理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの援助者として、心の拠り所となれる保育者の役割を理解する。

授業の概要

幼児の指導は、生活の主体者である幼児と、多様な意味を持つ援助者である保育士との相互作用により成り立つものである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた、具体的な環境を整えることで自発的、能動的な活動を引き出し、幼児が望ましい方向に発達していくための援助や指導の方法を知ることである。本講義では、幼児を指導するということの本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、具体的な事例を挙げながら解釈する。

授業計画

- 1.オリエンテーション ―幼児指導とは幼児を知ること―
- 2.幼児指導の基本
- 3.環境構成の意義と保育者の役割
- 4.幼児期の発達の課題と保育
- 5.遊びの意義と指導
- 6.保育者の役割
- 7.個の育ち、集団の育ちと保育者の役割

- 8.幼児理解について考える(1)ビデオ視聴
- 9.幼児理解について考える(2)ビデオ視聴
- 10.幼児理解の方法 ―コミュニケーション能力を高める―
- 11.カウンセリングマインドに基づく幼児理解
- 12.カウンセリングマインドに基づく指導方法
- 13.問題状況が起こったときの対応について考える
- 14.幼児の心と身体の発達上に生じる諸問題を考える
- 15.カウンセリングマインドに基づく幼児指導の方法を理解する

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回欠席につき5点減点とする。

テキスト

「幼稚園教育要領解説」文部科学省
随時資料を用意する

参考図書

随時紹介する

留意事項

授業の中で質疑応答を活発にする。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
南 夏世	選択	2				

授業の到達目標

小学校音楽科の教育課程に関する知識・技能及び指導力を身につけることを目的とする。今日の教育課題である意欲・興味・関心といった意識の向上を捉えつつ、幅広い音楽活動の指導ができる指導者の育成を目指す。

授業の概要

概説として、『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得する。特に明治以降の音楽教育について考察を深め、これからの音楽教育についてのディスカッションも行う。実践としては、歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習を行い、音楽の基礎知識を習得しながら各自の音楽技能を高めていく。さらに、模擬授業や音楽会のための計画、発表を行うことにより指導力を身につけ、子どもの豊かな音楽表現を引き出せる指導法を研究する。

授業計画

- 1.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 2.『小学校学習指導要領(音楽)』の概説
- 3.楽典の基礎。ピアノ演習
- 4.リコーダーの理解と奏法
- 5.いろいろな楽器の理解と奏法
- 6.合奏教材の研究と演習
- 7.歌唱教材の研究と演習
- 8.指揮法の基礎と指導の演習
- 9.鑑賞教材の研究 西洋音楽の理解

- 10.日本の伝統音楽の理解
- 11.西洋音楽と明治以降の歴史の学習
- 12.日本の音楽教育の歴史とこれからの課題についての考察
- 13.音楽科指導計画と学習指導案
- 14.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習
- 15.音楽会のための計画、指導、演奏の総合演習

準備学習

バイエル終了程度の読譜力と楽典の基礎知識。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回につき5点減点

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』

参考図書

教育芸術社『小学校の音楽1～6』

留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	2				

授業の到達目標

図画工作科を指導するために必要な基礎的知識・技術を習得する。また、各学年の目標や内容、材料の扱い方等を理解し、実践的な指導力を身につける。

授業の概要

図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について講義を行う。また、実践例をもとに授業分析を行い、制作を通して各学年の指導技術を学ぶ。

授業計画

1. 受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
2. 図画工作科の目標及び内容
3. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法①
4. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法②
5. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法③
6. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法④
7. 第1学年及び第2学年の目標と内容、指導法⑤
8. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法①
9. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法②
10. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法③
11. 第3学年及び第4学年の目標と内容、指導法④
12. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法①
13. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法②
14. 第5学年及び第6学年の目標と内容、指導法③
15. 作品制作

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作科編』日本文教出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度（準備や提出物含む）を重視する。図画工作科の指導法を学ぼうとする意欲をもって、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身につける。現代社会の要請や小学生の発達段階・生活実態をふまえた家庭科の授業づくりができるようする。

授業の概要

小学校家庭科教育のために必要な学習指導の理論、知識、技術を学ぶ。現代社会の要請をとらえ、小学生の発達段階や生活実態をふまえた家庭科の教材開発を行う。小学校教育における家庭科の位置づけだけでなく、変動する経済・社会との関連で、家庭科のあり方を考えていく。

授業計画

1. 家庭科教育の本質
2. 家庭科教育の目標
3. 家庭科教育の内容
4. 家庭科教育の学習指導
5. 家庭科教育の指導計画 1
6. 家庭科教育の指導計画 2
7. 家庭科教育の評価 家庭科教育の施設・設備
8. 家庭科の担当教師
9. 諸外国における家庭科教育
10. 家庭科教育における実践的研究
11. 模擬授業 1
12. 模擬授業 2
13. 模擬授業 3
14. 家庭科教育の課題と展望

15.まとめ

準備学習

高等学校までの家庭科を復習する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

教師養成研究会・家庭科教育学部会編著『小学校家庭科教育研究』学芸図書

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭科編』必要に応じて授業中に指示する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
竹安 知枝	選択	2				

授業の到達目標

小学校体育の目標や内容を基に、実際の指導に即した具体的な指導計画の立案、指導方法の習得等、実践的な指導力を育成する。

授業の概要

小学校体育に関する基本的な考え方を理解し、発達段階に応じた指導の方法を学ぶ。具体的には、体育の特徴・目標・内容・計画・評価等について学ぶ。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 体育授業を実践していくために
3. 子どもの心と体と体育
4. 体育の目標と体育授業の特徴
5. 体育の内容と学習過程
6. 体育授業の指導計画
7. 体育授業の考え方・進め方①
8. 体育授業の考え方・進め方②
9. 体育授業の考え方・進め方③
10. 体育授業の考え方・進め方④
11. 体育授業の考え方・進め方⑤
12. 体育授業の考え方・進め方⑥
13. 体育授業の計画と評価①
14. 体育授業の計画と評価②
15. まとめ

準備学習

『小学校学習指導要領解説 体育編』をよく読んでおくこと

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

規則に従う。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」東洋館出版社

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業時に指示する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職初等		17749	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
作 美代子	選択	2				

授業の到達目標

道徳教育を、人間の生き方そのものが問われる全人格的な教育として捉え、人と人との関わりの中でどのように生きる事がより豊かなのか、道徳的価値に関する感覚及びそれに基づいた態度をどのように育成できるのかを、教育の現場において子どもに指導できる能力を育成することを目指している。

授業の概要

道徳教育の意義・目的・方法などを理解した上で、学校における道徳教育及び道徳の授業について具体的・実践的に学んでいく。道徳教育の今日的課題について検討すると共に、視聴覚教材や副読本・学習指導要領なども活用しながら実践的・多面的に学んでいく。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 生きる力と道徳性の芽生えについて
3. 道徳教育年間指導計画について
4. 道徳と道徳教育(主として自分自身に関する事)
5. " (主として自分自身に関する事)
6. " (主として他の人とのかかわりに関すること)
7. " (主として他の人とのかかわりに関すること)
8. " (主として集団や社会とのかかわりに関すること)
9. " (主として集団や社会とのかかわりに関すること)
10. " (主として自然や崇高なもののかかわりに関すること)

11. " (主として自然や崇高なもののかかわりに関すること)
12. 教材の開発と発表
13. "
14. "
15. まとめ

準備学習

自分の生活の中から教材となるような事柄に目を向け、教材開発に努める。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回の欠席につき5点の減点とする。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 道徳編」

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

教材となる事柄が身近に存在している。常に問題意識をもって主体的に取り組むようにされたい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職初等		17753	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
清水 篤	選択	2				

授業の到達目標

1. 学校現場における生徒指導・進路指導の内容と課題を理解する。
2. 課題解決に向けて、実践的な指導力を身につける。
3. 小学校の教員としての資質・能力を高める。

授業の概要

急激な社会変化や格差社会の拡大のなかで、児童をめぐる環境について多くの課題が指摘されている。一方、学校現場でもいじめや不登校、学級崩壊などの生徒指導の問題や自分の進路をつかめない児童の問題等、課題が山積している。授業では、『生徒指導提要』に基づき、児童の気持ちを大切に生徒指導・進路指導のあり方を考察する。また、生徒指導・進路指導に関する基礎知識を理解し、実践的な指導力を身につけることを目指す。

授業計画

1. オリエンテーション(生徒指導の現状・生徒指導の意義と役割)
2. 適応と発達(適応と適応機制・発達の理論・青年期の発達)
3. 生徒理解(生徒理解の方法と留意点)
4. 学校運営と生徒指導(問題行動・生徒指導体制)
5. 生徒指導と法制度(懲戒と体罰)
6. 生徒指導と教育相談(教育相談と進路指導・カウンセリング)
7. 生徒指導と学級経営
8. 生徒指導と学習指導(教科指導と道徳指導・特別活動と生徒指導)
9. 生徒指導の今日的課題①(暴力行為・非行・性非行と性被害・薬物乱用)
10. 生徒指導の今日的課題②(不登校・中途退学・いじめ)
11. 生徒指導の今日的課題③(スウェーデンのいじめ対策・いじめエクササイズ)

12. 生徒指導と特別支援教育
13. 開発的生徒指導
14. 生徒指導と危機管理
15. 教職科目としての生徒指導論

準備学習

- ・文部科学省『生徒指導提要』を熟読する。
- ・テレビ、新聞等の報道を通して、児童生徒にかかわる社会・教育時事に関心を持つ。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

文部科学省『生徒指導提要』
 本田由紀『「家庭教育」の隘路—子育てに脅迫される母親たち』
 楠本恭久・藤田圭一編著『新生徒指導論1 2 講』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
小児保健Ⅱ			17761	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標

「小児保健Ⅰ」の子どもの心身の発育・発達について理解した上で、保育者に必要とされる小児保健分野をより深め、保育現場においての病気や事故の予防と対応、環境と育児、小児保健行政についての知識を身につけることを目的とする。

授業の概要

成長・発達途上にある乳幼児は、さまざまな面で未熟であり、事故発生の危険や感染症などに罹ることが多い。保育者は日々子どもの心身の健康を守り、増進し、順調な発育・発達を促すことは、保育する上において最も基本的な要件である。「小児保健Ⅰ」で基礎的な知識についての理解を得た上で、「小児保健Ⅱ」では子どもの病気に対する予防や対応、事故に対する応急処置の仕方などについて学ぶ。また、集団生活の場での保健活動や母子保健に関する行政のかかわりや法制度についての現状や、保育者自身の健康管理の必要性も学ぶ。

授業計画

1. 乳幼児の病気①
乳幼児の病気の特徴 発育期から見る子どものからだと病気
2. 乳幼児の病気②
感染症 基礎知識と対応
3. 乳幼児の病気③
4. 乳幼児の病気④
5. 乳幼児の病気⑤
6. 乳幼児の病気⑥
7. 乳幼児の病気⑦
8. 病気の早期発見①
子どもの症状を見るポイント
9. 病気の早期発見②
子どもの症状に合わせた対応のしかた
10. 病気の早期発見③
子どもの症状に合わせた対応のしかた
11. 乳幼児の病気の予防①
予防接種

12. 乳幼児の病気の予防②
予防接種
13. 集団保育と保健安全管理①
母子保健施策
14. 集団保育と保健安全管理②
集団保育における保健行事
15. 集団保育と保健安全管理③
保護者および保育者の保健管理

準備学習

小児の病気や事故に関する参考文献を講読する。また、子どもの事故や感染症の流行などの情報に関心を持つように心掛ける。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

「保育のための小児保健」高内正子編著 保育出版社

参考図書

子どもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳澤正義/監修 講談社
 保育に役立つ「子どもの健康+病気ハンドブック」 学習研究社

留意事項

「小児保健Ⅰ」を履修した者

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
養護内容			17765	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	2	(①-⑧)			

授業の到達目標
 模範的に居住型の児童福祉施設などを利用している児童の立場になったり生活プログラムを作成するなどの演習を通して、日常的に展開されている具体的な児童の生活や援助者の援助を理解し、児童の心身の成長や発達を保障し援助するために必要な知識や技能を養います。

授業の概要
 現在のわが国の子どもを取り巻く現状について、臨床場面を取り上げながら、講義を進めます。特に、被虐待児、障害をもつ子どもたちに関して子ども、家族への関わりと、具体的支援についても、具体的事例から取り上げます。児童養護は、子どもの権利と生活を護るだけでなく、社会の中での子どもの生命を護るということに気付けるような双方向の講義とします。

授業計画

1. 人生の時期と援助の意義
2. 人生の時期と援助の意義
3. 養護問題
4. 療育問題
5. 対人援助方法
6. 幼児虐待
7. 施設内事故等
8. 里親制度
9. ノーマライゼーション、バリアフリー
10. 施設課題のまとめ
11. 児童の基本的ニーズ

12. 福祉施設の運営
13. エンパワメントとは何か
14. エンパワメントを支える援助者の視点
15. まとめ

準備学習
 養護原理で学んだことを、復習しておいてください。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 公休以外は、認めません。

テキスト
 『児童の福祉を支える演習養護内容』萌文書林
 高橋一弘・村田紋子・吉田眞理著

留意事項
 日常から、子どもの福祉について関心を持ってください。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会福祉援助技術			17769	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
佐々木 勝一	選択	2				

授業の到達目標
 保育実践にとって必要な社会福祉援助技術の概要と歴史、その方法及び内容を理解してください。保育士の職務として活用する機会の多い個別及び集団援助技術を事例を用いて演習形式で学び、またコミュニティーワークについても学ぶことを目標とします。

授業の概要
 対人援助の原則について、これまでの欧米とわが国の歴史について知り、ソーシャルワークにおけるケースワークとグループワークなど、対人援助職の行う技術・知識についての理解を深めます。また、保育士、幼稚園教諭、児童福祉施設職員に求められる対人援助職としての倫理についても理解し、児童だけでなく家族、地域への援助のあり方についても臨床場面を取り上げながら講義を行います。

授業計画

1. 社会福祉援助の概要と歴史
2. 社会福祉援助の概要と歴史
3. 社会福祉援助者としての自己理解・自己覚知 その1
4. 社会福祉援助者としての自己理解・自己覚知 その2
5. コミュニケーション技法 その1
6. コミュニケーション技法 その2
7. 個別援助技術の方法 その1
8. 個別援助技術の方法 その2
9. 個別援助事例検討 その1
10. 個別援助事例検討 その2

11. 集団援助技術の方法
12. 集団援助技術演習
13. 援助職の職業倫理
14. 援助職の専門性と専門技術
15. まとめ

準備学習
 保育士として求められる対人援助場面について、考えておいてください。

課題・評価方法
 平常点30%、定期試験70%

欠席について
 公休以外は、認めません。

テキスト
 『保育分野における相談援助・相談支援』晃洋書房 監修 西尾 祐吾

留意事項
 対人援助の基本を知り、子ども・保護者への関わりに興味を深めてください。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家族援助論			17773	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
浅井 由美	選択	2				

授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割、子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況等を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制等を熟知したうえで、ニーズに応じた的確な家庭支援を考えることができるようにする。

授業の概要

まず、「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義と役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

授業計画

1. 家族・家庭とは
2. 少子高齢社会と家族・家庭
3. 男女共同参画社会と家族・家庭
4. 家族と子育て 1
5. 家族と子育て 2
6. 現代家庭の子育てと支援の必要性 1
7. 現代家庭の子育てと支援の必要性 2
8. 子育て支援の体制と方法 1
9. 子育て支援の体制と方法 2
10. 子育て支援の体制と方法 3
11. 多様化する家庭支援のニーズと課題

12. 諸外国における家庭支援
13. 家庭支援の事例 1
14. 家庭支援の事例 2
15. まとめ

準備学習

家族に関する基本的なテキストを読む。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき3点減点する。

テキスト

小田豊ほか編著『家庭支援論』北大路書房

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

留意事項

「現代家族関係論」を履修していることが望ましい。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育			17777	I	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
河田 貴子	選択	2				

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。なお健やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して習得する。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育士としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実践を踏まえて専門的な能力を身につけ、乳児保育の理論と実践の統合を図る。

授業計画

1. 乳児保育とは 乳児保育の役割と機能
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 3歳未満児の発達と保育内容①
保育所保育指針より0.1.2歳児の発達過程を捉える
4. 3歳未満児の発達と保育内容②
保育所保育指針より0.1.2歳児の保育にかかわる配慮事項を捉える
5. 乳児期の心身の発達①
人生の基礎としての乳児期
6. 乳児期の心身の発達②
乳児のこころの発達・人とのかかわり・愛着の形成
7. 乳児期の心身の発達③
乳児の言葉の発達
8. 乳児期の心身の発達④
乳児のからだの発育と運動機能の発達
9. 乳児保育の実践①
個々の発達を促す生活と遊びの環境
10. 乳児保育の実践②
職員間の協働・保護者との連携
11. 乳児保育の実践③

保育課程と指導計画

12. 乳児院における乳児保育
13. 保育所における乳児保育①
保育所で過ごす一日の流れ 0歳児
14. 保育所における乳児保育②
保育所で過ごす一日の流れ 1歳児
15. 保育所における乳児保育③
保育所で過ごす一日の流れ 2歳児

準備学習

乳児保育に関する参考文献に目を通したり、身近な乳児に関心を持って見守る。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする

テキスト

はじめて学ぶ 乳児保育 同文書院 編著者 志村聡子

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榎原洋一 フレーベル館

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
東口 たまき	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>障がい児のためだけではなく、彼らを取り巻く人々にそれぞれの障がいを理解してもらうための保育論です。障害の歴史、障害の理解、障がい児の支援方法、障がい児のいるご家庭の支援方法など、様々な教育、支援ができる保育者育成を目指します。</p> <p>授業の概要</p> <p>障がい児いるクラスの集団的保育、また、それぞれ子どもに合ったオーダーメイドの保育ができるようにいくつかの理論を使って保育方法、支援方法を学びます。また、最近増えている発達相談を取り上げ、実際保育者として相談を受けた時にどのように相談に応じればいいのかも学びます。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の歴史 2. 身体障害について 3. 発達障害について① 4. 発達障害について② 5. その他の障害について 6. 障がい児と感覚統合運動① 7. 障がい児と感覚統合運動① 乱暴な子どもについて 8. 障がい児と感覚統合運動② 落ち着きのない子どもについて 9. 障がい児と感覚統合運動③ 大人しい子どもについて 10. TEACCH プログラムについて 11. 発達相談とその対応 ① 事例研究

<ol style="list-style-type: none"> 12. 発達相談とその対応 ② 事例研究 13. 発達相談とその対応 ③ 事例研究 14. 発達検査について 15. 障がい児、障がい者の理解と実践 <p>課題・評価方法</p> <p>平常点30%、定期試験70%</p> <p>欠席について</p> <p>原則として欠席は認めません。また、3回の遅刻は、1回の欠席扱いとします。</p> <p>テキスト</p> <p>『障害者の発達と教育・支援』菅野 敦・橋本 創一 他 山海堂</p> <p>参考図書</p> <p>授業中に紹介します</p> <p>留意事項</p> <p>障がい児や障がい者に関わるボランティアに参加されたら、レポートを提出してください、評価の対象にします。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
大岸 啓子	選択	1	(①-⑧)			

<p>授業の到達目標</p> <p>小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身につける。</p> <p>授業の概要</p> <p>教育実習に際して不可欠な基礎的・基本的な知識、教育現場の状況や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例を通して、小学校教師の様々な仕事について学んでいく。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 小学校教育実習の目的と意義 2. 教育実習が始まる前に 3. 実習中の心得① 4. 実習中の心得② 5. 学習指導案の書き方① 6. 学習指導案の書き方② 7. 実習日誌の書き方 8. 今後の予定と教員採用試験に向けて <p>課題・評価方法</p> <p>平常点50%、定期試験50%</p> <p>欠席について</p> <p>原則として欠席は認めない。欠席した場合は10点減点し、遅刻は3点減点する。</p>

<p>参考図書</p> <p>必要に応じて、授業中に随時紹介する。</p> <p>留意事項</p> <p>小学校教育実習の知識・授業の技術、教師としての心構えを学ぶ講義であることを認識して、参加すること。</p>
--

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導			17793	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美／河田 貴子	選択	1	通年で1単位			

授業の到達目標

保育所実習の意義・目的を理解し自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくための知識や技術を習得し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習をより効果的に行う。

授業の概要

保育実習を受けるにあたり保育所や児童福祉施設等の機能や保育士の役割、子どもの生活と援助のしかたについて理解する。なお事前学習を通して保育実習の意義・目的・内容・実習の方法・実習の心構え・実習記録の意義と書き方について学ぶ。事前・事後の実習指導においては保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲの関連性を持たせ、より実習内容を充実したものにす。また事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業計画

1. 実習の意義・目的・概要を理解する
2. 実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて実習の方法を理解する
3. 実習生としての心構えについて理解する
4. 子どもの人権や最善の利益の考慮など実習に際しての留意事項を把握する
5. 実習の内容と課題を明確化する
6. 実習施設を理解する①
7. 実習施設を理解する②
8. 保育課程・指導計画を理解する
9. 実習における計画と実践の方法を学ぶ
10. 実習における観察、記録及び評価のしかたを学ぶ
11. 実習に関する事務手続きについて把握する
12. 欠席や事故などの連絡方法について理解する

13. 事後指導における実習の総括と自己評価
14. 事後指導における課題の明確化
15. 今後に向けての学習目標を明確にする

準備学習

各自が実習施設について事前調査をし、保育所等の施設の特徴や保育内容などわかる範囲で把握しておく

課題・評価方法

授業出席・事前指導レポート・諸手続き・事後指導レポート・実習報告書提出等、保育実習1・2・3の総合評価とする。定期試験は実施しない。

欠席について

原則として欠席は認めない

テキスト

MINERVA保育実践講座13
保育実習の展開 坂根美紀子・佐藤哲也編著

参考図書

必要書類については、随時プリントを配布する

留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・製作・手遊び・歌など）

現代人間学部 英語キャリア学科
教職に関する科目

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論	教職中等		14101	I	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

教育の専門家として必要な基礎的知識を身につけると共に、教職に就いてさまざまな問題に直面したとき、適切に判断し、行動することが出来るような資質を養成することを目的とする。

授業の概要

教育の意義と教師の役割や職務内容などについて学び、自らの進路に教職を選択することの可否を適切に判断することに資する各種の機会を提供する。

教職に対する理解を深めていくと共に、豊かな人間性・実践的な専門性・開かれた社会性等、良き教師への意欲を高め使命感を持つことについても考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.教育とは何か……人間形成と教師の役割
- 3.教職の意義
- 4.教職の歴史
- 5.初等中等教育と教員
- 6.教師に求められる資質と能力
- 7.教員の身分及び服務義務
- 8.教員の職務について(1)
- 9.教員の職務について(2)
- 10.教育課程とは
- 11.障害を受けている子どもの教育と課題
- 12.開かれた学校づくり・地域社会との連携
- 13.子どもと保護者、教育の現状と課題

- 14.優れた教師・魅力的な教師を目指して
- 15.まとめ

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点

テキスト

長尾和英編『教職と人間形成』八千代出版

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職中等		14115	II	春	
担当者名	区分	単位	特記事項			
中田 尚美	選択	2				

授業の到達目標

- 1 教育の意義、目的及び児童福祉との関わりについて理解する。
- 2 教育の思想と歴史的変遷について学ぶ。
- 3 教育の制度について学ぶ。
- 4 教育実践の取組みについて理解する。
- 5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

授業の概要

教育の意義や目的、児童福祉との関連性および歴史について学ぶとともに、教育の制度と実践原理および指導原理について理解する。生涯学習社会における教育のあり方について考え、現代の教育問題についても検討する。

授業計画

- 1.教育の意義と作用
- 2.教育の本質と教育目的
- 3.教育思想の歴史的展開
- 4.社会・文化と教育
- 5.家庭教育の特質と機能
- 6.学校教育の特質と組織
- 7.社会教育と生涯教育
- 8.福祉社会の形成とその担い手
- 9.教育制度
- 10.教育法規
- 11.教育内容
- 12.教育課程

- 13.教育実践の基礎理論
- 14.生涯学習社会と教育
- 15.講義全体のまとめ

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

戸江茂博編『教育原理』あいり出版

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職中等	14143	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
堀 正人	選択	2			

授業の到達目標

教育内容の研究、子ども理解、指導方法、教育評価について理解し、授業の設計技術を習得する。

授業の概要

学校教育の理念に基づいて、その教育を実践するための方法や知識及びその技術を学ぶ。

授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外の授業(道徳、総合的な学習の時間、特別活動)の役割。
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造について
7. 学校における集団学習の方法(組織、年間計画、指導体制)
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践
11. 学力と教育評価について
12. 特別支援教育について
13. 模擬授業による実践と考察1(道徳・特別活動)
14. 模擬授業による実践と考察2(総合的な学習の時間)
15. まとめ

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。欠席したときは、後日課題レポートを提出してもらいます。

参考図書

授業中に、その都度紹介します。

留意事項

授業中のレポート、感想文等を毎回提出してもらいます。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等	14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	1			

授業の到達目標

介護等の体験(特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間)によって、教員としての資質を十分に高められるよう事前準備をおこなうことを目標とする。

授業の概要

「個人の尊厳と社会連帯の理念」を深め、介護等体験特殊法が制定された主旨を理解する。特別支援学校や福祉施設のしくみとそれぞれの対象者について知る。また、身体的介護、車いすを利用している人などへの介助知識・留意点について学び、安全におこなえるよう指導する

授業計画

1. 介護施設とは
2. 介護の心構えと実際
3. 高齢者の心と体
4. 認知症・身体障害を伴う高齢者の介護
5. 特別支援学校について
6. 特別支援学校について
7. まとめ
8. 介護等体験のための諸注意

準備学習

テキストを簡単に読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

原則、通常欠席を認めない(特例欠席は除く)

テキスト

「特別支援学校における介護等体験ガイドブッカーフィリア」
 全国特別支援学校校長会 編著 教育新社
 「よくわかる社会福祉施設一教員免許志願者のためのガイドブック」
 増田雅暢他著 社会福祉法人全国社会福祉協議会

留意事項

8回全てに出席すること(特例欠席は除く)。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事後指導含む)	教職中等	14151	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
竹安 知枝	選択	1			

授業の到達目標

介護等体験期間中の訪問指導及び介護等体験を終えた後の報告書にもとづき、振り返りをおこなう。

授業の概要

報告書と教職員の訪問報告書により個別の指導をおこなう。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

原則、体験期間中の欠席は認めない。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等	14185	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
清水 篤	選択	2			

授業の到達目標

1. 特別活動の内容と方法について理解する。
2. 学校及び学級集団における自主的・主体的活動の形成とそれを通してのルールづくり等について学ぶ。
3. 集団を通して、個性の尊重、他者との協力・協同の力について理解する。
4. 「社会に参画する力を育てる特別活動」の意義を理解する。

授業の概要

「特別活動とは何か」について、中学校・高等学校におけるその歴史、目的、内容、活動領域を理論的・実践的に考察する。教育課程における特別活動の理念と実際を把握するとともに、その目標や内容を明らかにし、理解を深める。また、教育計画全体における特別活動の位置づけについて知り、学級活動・生徒会活動・学校行事等について実際の学習を進めていく。さらに、特別活動の考え方や、実際の取り組みを学ぶことを通して、中学校・高等学校で特別活動に取り組む際に求められる力量（実践力・指導力）を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション:学校の教育活動における特別活動・特別活動の歴史の変遷
2. 学校教育と特別活動:教育課程の構造と特別活動の役割
3. 特別活動の内容と実践①:特別活動の目標・方法原理と意義
4. 特別活動の内容と実践②:各活動 学級(ホームルーム)活動の目標と内容
5. 特別活動の内容と実践③:各活動 生徒会活動と特別活動
6. 特別活動の内容と実践④:各活動 学校行事と特別活動
7. 特別活動の内容と実践⑤:各活動 部活動の目標と内容
8. 特別活動の今日的課題①:特別活動の特質と課題
9. 特別活動の今日的課題②:「総合的な学習の時間」と特別活動
10. 特別活動の今日的課題③:教科指導と特別活動
11. 特別活動と生徒指導の実際(学級崩壊・いじめ・不登校)
12. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業①(学級(ホームルーム)指導)

13. 特別活動の指導計画の作成と模擬授業②(部活動)
14. 特別活動における学校安全と危機管理
15. 特別活動の充実と発展(全体的な指導体制の確立と学級・学年経営)

準備学習

・『中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編』を熟読する。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

規則に従う。

テキスト

授業の中で、適宜紹介する。

参考図書

- ・文部科学省『中学校・高等学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい
- ・『新しい特別活動指導論』高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程論	教職中等	14189	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
中田 尚美	選択	2			

授業の到達目標

教育の全人格的形成の実現をめざしたカリキュラム編成の基本原理の理解を図る。

授業の概要

本講義では、教育課程の原理を理解することにより、公的性格を有する学校が教育目的をどのように達成していくかという問題や、教育課程の類型、学習指導要領の歴史の変遷、最新の改訂などについて考察する。

授業計画

- 1.はじめに
- 2.教育課程と教育目的・目標の関係
- 3.教育課程の類型(1)
- 4.教育課程の類型(2)
- 5.教育課程の類型(3)
- 6.学習指導要領の領域(1)
- 7.学習指導要領の領域(2)
- 8.学習指導要領総則
- 9.指導計画の作成にあたっての留意事項
- 10.特別活動、総合的な学習の時間の取り扱いについて
- 11.学習指導要領の歴史の変遷(1)
- 12.学習指導要領の歴史の変遷(2)
- 13.学習指導要領の歴史の変遷(3)
- 14.諸外国のカリキュラム
- 15.まとめ

準備学習

テキストを一読しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

1回につき2点減点

テキスト

田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房
 文部科学省編『中学校学習指導要領』
 文部科学省編『高等学校学習指導要領』

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職中等	14199	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	特記事項		
大岸 啓子	選択	2			

授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を理解し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。

授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責についての理解を深める。

授業計画

- 1.受講の心構え、決まり、授業内容、座席等についてのガイダンス
- 2.学校教育の制度①
- 3.学校教育の制度②
- 4.教育関係法規① 日本国憲法、教育基本法等
- 5.教育関係法規② 学校教育法等
- 6.学校の組織と経営①
- 7.学校の組織と経営②
- 8.教職員の職務と制度①
- 9.教職員の職務と制度②
- 10.学校の危機管理
- 11.学校評価
- 12.教育行財政
- 13.社会教育・生涯学習

- 14.学校教育の課題
- 15.教育経営の意義

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

テキスト

佐々木正治・山崎清男・北神正行編著『新 教育経営・制度論』福村出版

参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度を重視する。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等	14217	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
堀 正人	選択	2			

授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶことを目的とする。

授業の概要

レジュメを中心に、教科書（文部科学省「生徒指導提要」）を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や児童生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、進路指導・キャリア教育を生徒指導の視点から考察する。

授業計画

1. 生徒指導の意義と原理（集団指導、個別指導の方法原理）
2. 学校運営と生徒指導
3. 教育課程と生徒指導 1（教科、道徳教育）
4. 教育課程と生徒指導 2（総合的な学習の時間、特別活動）
5. キャリア教育と生徒指導
6. 生徒の心理と生徒理解
7. 学校における生徒指導体制（組織、年間計画、指導体制）
8. 教育相談の進め方（カウンセラー、専門機関）
9. 生徒指導の進め方
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導
12. 課題別生徒指導
13. 生徒指導に関する法制度
14. まとめと事例研究
15. まとめ

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出る。なお、欠席したときは、後日課題レポートを提出してもらいます。

テキスト

文部科学省 編「生徒指導提要」教育図書

参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

留意事項

授業中にレポート、感想文等を毎回提出してもらいます。

EC 教職科目〈EC 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等	14221	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
澤田 瑞也	選択	2			

授業の到達目標

本授業では、現在、学校現場で生じている生徒や保護者が抱える問題に対する知識を身につけ、教育相談の在り方や進め方についての理解や考えを深める。

授業の概要

生徒をとりまく社会や家庭は急激に変化し、学校での教師による教育相談は、学習指導とともに、教師の重要な活動となっている。しかし、教育相談は教師が行うという点で、カウンセラーが行うカウンセリングの技法とは異なるカウンセリングマインドが必要となる。本授業では、現在、学校現場で生じているさまざまな問題に焦点をあて、それらの問題にかかわる生徒や保護者への理解と対応を深め、さらに、全体を通してカウンセリングの技法を学びながら、それらを教師としてどのように活用して教育相談を行うべきか、教師が行う教育相談の在り方や進め方についてより実践的な視点をもとに学習する。

授業計画

1. 教師のカウンセリングマインド(1)
2. 教師のカウンセリングマインド(2)
3. 保護者・子どもとの面談の基本(1)
4. 保護者・子どもとの面談の基本(2)
5. 生徒を指導する際の技術(1)
6. 生徒を指導する際の技術(2)
7. 教育相談の技法(1)
8. 教育相談の技法(2)
9. 子どもの発達段階に応じたつながり方(1)

10. 子どもの発達段階に応じたつながり方(2)
11. 発達障害のある子の理解とつながり方(1)
12. 発達障害のある子の理解とつながり方(2)
13. 子育てのサポートネットワーク(1)
14. 子育てのサポートネットワーク(2)
15. 困った親の理解とつながり方

準備学習

2年次までに「教育心理学」を履修しておくこと。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席1回につき2点減点。

テキスト

『教師のための教育相談の技術』吉田 圭吾著、金子書房

参考図書

『学校教育相談』丸藤太郎・菅野信夫編著、ミネルヴァ書房

留意事項

小テストの評点は、◎は+2点、○は+1点、△は-1点、×は-2点とする。

EC 教職科目 <EC 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究(中等)	教職中	14229	IV	春	
担当者名	区分	単位	特記事項		
小野 礼子	選択	1	(①-⑧)		

授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。

授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、本学と提携した実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を巡回し、研究授業等の指導にあたる。

授業計画

1. 教育実習の意義
2. 教育実習の事前研究
3. 教育実習の心得、教育実習の形態
4. 教育実習の事後研究
5. 学校経営・学校の組織
6. 生徒理解・生徒指導
7. 教育課程・学習指導
8. 道徳・特別活動・総合的な学習の時間
9. 授業研究
10. 授業準備
11. 学習指導案
12. 授業の工夫
13. 教室管理
14. 授業の評価と実習のまとめ
15. 教育実習事後指導

準備学習

- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。
- ・英語科教育法Ⅲ・Ⅳの内容をよく復習しておくこと。

- ・テキストの『教育実習の研究』、及び『英語科教育実習ハンドブック』の第1・2章を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

テキスト

教師養成研究会編『教育実習の研究』（学芸図書）
 米山朝二・杉山敏・多田茂著『英語科教育実習ハンドブック』改訂版（大修館）
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂）
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』（開隆堂）
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。